

金沢工業大学 御中

令和6年度 授業調査 報告書

2025.9.1

有限会社 アイ・ポイント

INDEX

| | |
|-------------------------|----|
| <1>本調査の全体像 | 2 |
| <2>基本的な分析 | 7 |
| <3>学年別の分析 | 16 |
| <4>学部・学科別の分析 | 22 |
| <5>科目区別別の分析 | 32 |
| <6>同一学生群の分析 | 38 |
| <7>授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析 | 44 |
| <8>遠隔授業の評価の分析 | 49 |
| <9>全体のまとめ | 56 |

<1>本調査の全体像

1) 調査の目的

本調査は下記に挙げる目的に従って実施した。

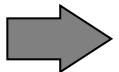
- 本調査は金沢工業大学(以下、KIT)の学生から1年間に受けた授業に対する評価と満足度を聞き、属性による違いや過去の回答との比較などから現状を把握することを目的としている。
- 一連の分析によって得られた情報を授業の改善に有効活用し、KIT全体の教育改善につなげていくことが最終的な目的となる。
- 平成17年度に質問項目を変更しており、今回が20年目となるため、20年間の時系列比較を行って学生の実態がどのように変わっているかを確かめている。(調査開始は平成14年度)
- 前回に続いてすべてWebで実施した。また、「遠隔授業」に関する質問は5年目となる。

2) 調査の概略

| 項目 | 内容 | | | | |
|---------|---|-------------|--------|---------|-----------------|
| 有効回答数 | 43,733件(1年次:20,068件、2年次:15,019件、3年次:7,941件、4年次:705件、クラス未記入の43件は集計から除外) | | | | |
| 年別回答数推移 | 年度 | 春学期(夏期特別含む) | 秋学期 | 冬学期 | 全回答数 |
| | 平成17年度 | 36,766 | 33,361 | 30,653 | 100,780 |
| | 平成18年度 | 36,518 | 33,803 | 31,734 | 102,055 |
| | 平成19年度 | 35,723 | 33,919 | 32,275 | 101,917 |
| | 平成20年度 | 37,693 | 34,103 | 32,698 | 104,494 |
| | 年度 | 前学期 | 後学期 | 全回答数 | 調査票 |
| | 平成21年度 | 42,446 | 43,962 | 86,408 | |
| | 平成22年度 | 48,541 | 48,175 | 96,716 | |
| | 平成23年度 | 53,166 | 49,870 | 103,036 | |
| | 平成24年度 | 47,317 | 46,666 | 93,983 | |
| | 平成25年度 | 47,317 | 45,003 | 92,320 | |
| | 平成26年度 | 45,014 | 50,767 | 95,781 | |
| | 平成27年度 | 48,882 | 43,421 | 92,303 | 後学期より一部選択肢変更 |
| | 平成28年度 | 47,946 | 41,113 | 89,059 | |
| | 平成29年度 | 46,988 | 39,594 | 86,582 | |
| | 平成30年度 | 47,659 | 40,416 | 88,075 | |
| | 令和元年度 | 41,011 | 46,990 | 88,001 | |
| | 令和2年度 | 29,365 | 32,293 | 61,658 | Web調査へ移行、質問項目追加 |
| | 令和3年度 | 27,148 | 19,341 | 46,489 | |
| | 令和4年度 | 22,499 | 19,112 | 41,611 | |
| | 令和5年度 | 28,221 | 21,189 | 49,410 | |
| | 令和6年度 | 24,822 | 18,911 | 43,733 | |
| 対象科目 | 700科目(シラバスコードの件数) | | | | |
| 実施内容 | <ul style="list-style-type: none"> 各学期の第14週目から学期最終日、または最終授業日の1週間後まで実施した。 実施方法:記名式。Web入力。Web入力を科目担当の教員より周知するとともに、学生ポータルにて通知した。 | | | | |
| 調査主体 | 学校法人 金沢工業大学 | | | | |
| 集計 | 有限会社 アイ・ポイント | | | | |

3) 以前との設問の比較

| | 旧アンケート内容(平成15~16年度、一部は平成14年度から) |
|---|---|
| A | この科目は興味を持って受講することができましたか。 |
| B | 1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか。 |
| C | 授業が分からない時、オフィスアワー(OH)は有効でしたか。 |
| D | 授業の分からない点はオフィスアワー(OH)を利用する以外に、どのような行動を取りましたか。 |
| E | 学習支援計画書の記載内容は理解できましたか。 |
| F | 教科書・指導書の内容は理解できましたか。 |
| G | 授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。 |
| H | 課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。 |
| I | 自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか。 |
| J | 授業の理解を深めるために、最も多く利用した場所はどこですか。 |
| K | あなたはこの科目に満足していますか。 |



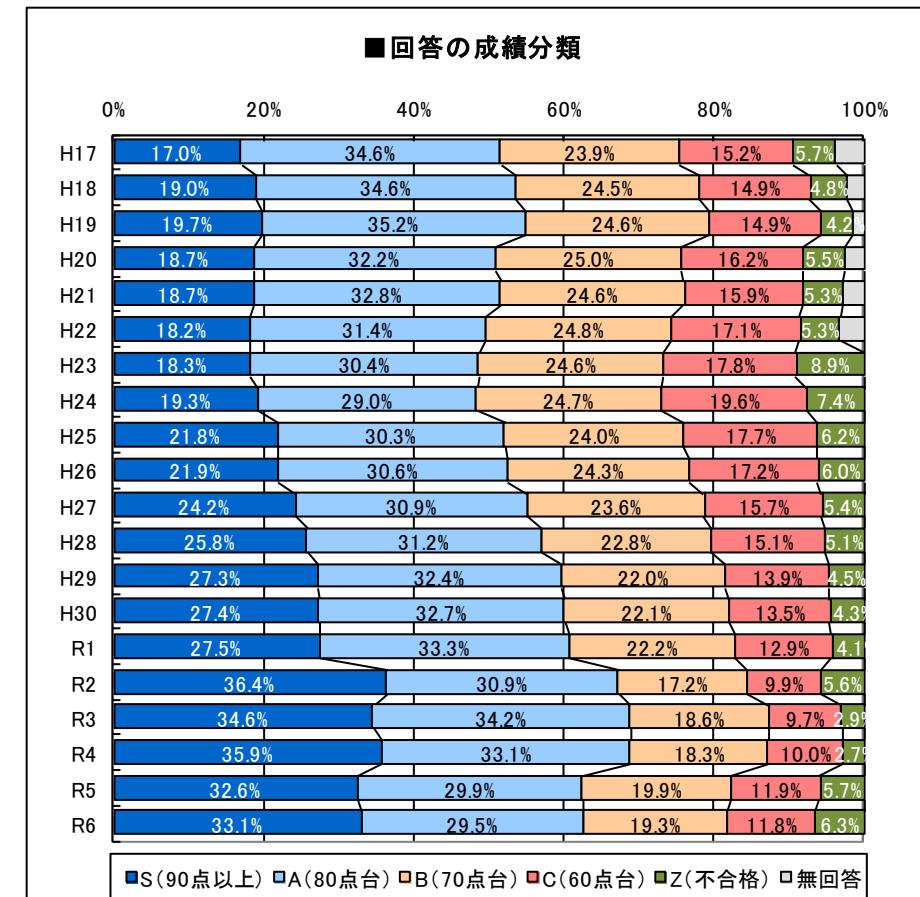
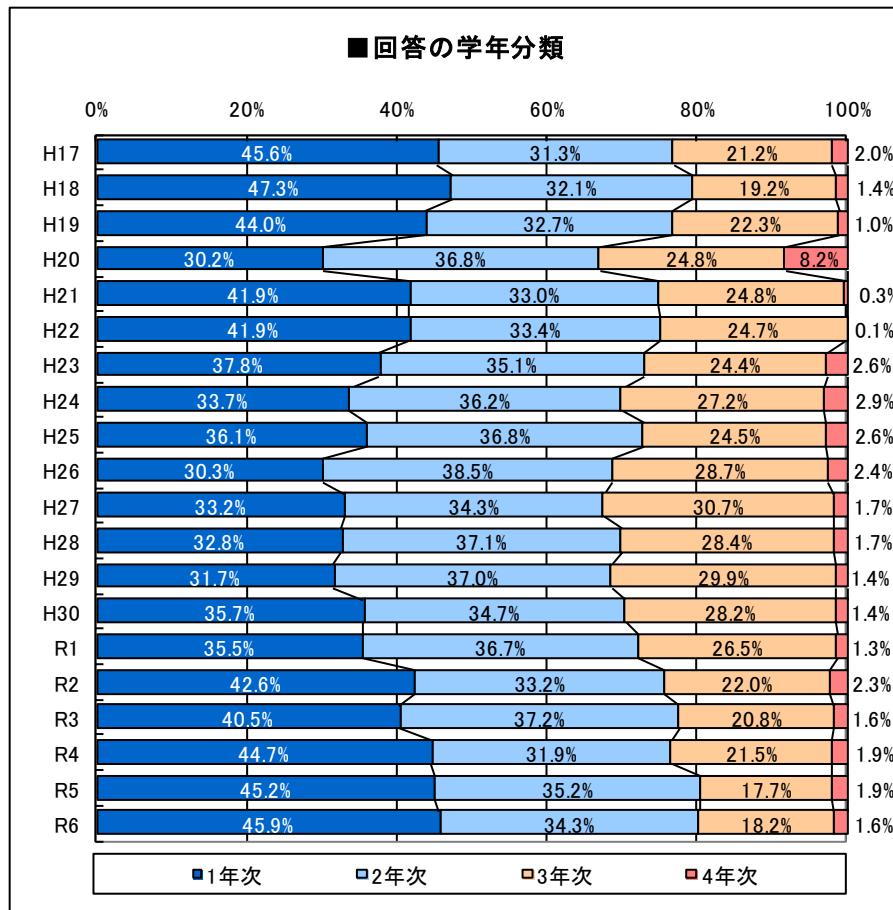
| | 新アンケート内容(平成17年度以降) | 場面 | 内容 |
|---|---|------|-------|
| A | 受講前、この科目に興味はありましたか。 | 受講前 | 学生の姿勢 |
| B | 最初の授業で学習支援計画書の説明を受けて、この授業の概要や進め方、身につく能力を理解できましたか。 | 受講当初 | 授業支援 |
| C | 授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか。 | 受講中 | 学生の姿勢 |
| D | 1回の授業に対する予習・復習、授業外学習(レポート、課題、等)はどの程度行いましたか。 ※平成27年度の後学期より選択肢を変更している。 ※平成30年度の後学期より「課外学習活動」の表記を「授業外学習(レポート、課題等)」に変更している。 | 受講中 | 学生の姿勢 |
| E | 教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか。 | 受講中 | 授業支援 |
| F | 課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるために役立ちましたか。 | 受講中 | 授業支援 |
| G | 授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか。 | 受講中 | 授業内容 |
| H | 授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。 | 受講中 | 授業内容 |
| I | 授業内容をよく理解するため、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか。 | 受講中 | 授業支援 |
| J | 授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることができましたか。 | 受講中 | 教員の姿勢 |
| K | 授業を終えて、あなたはこの科目に満足していますか。 | 受講後 | 総合評価 |

4) 集計に関して

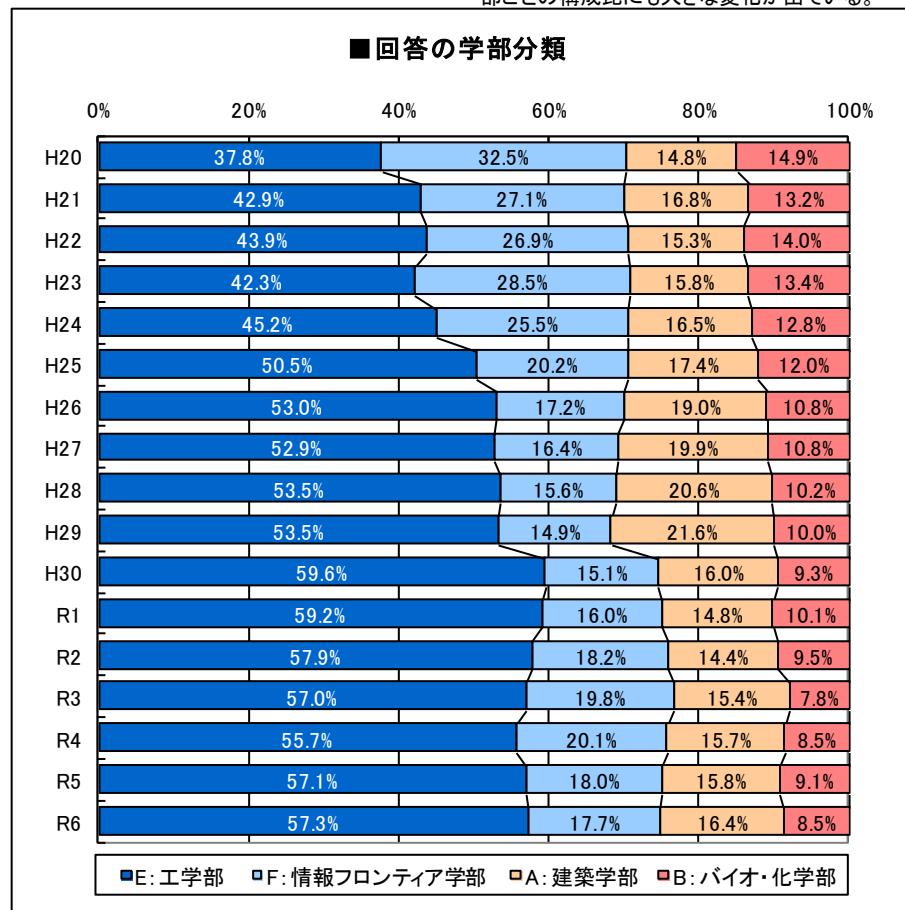
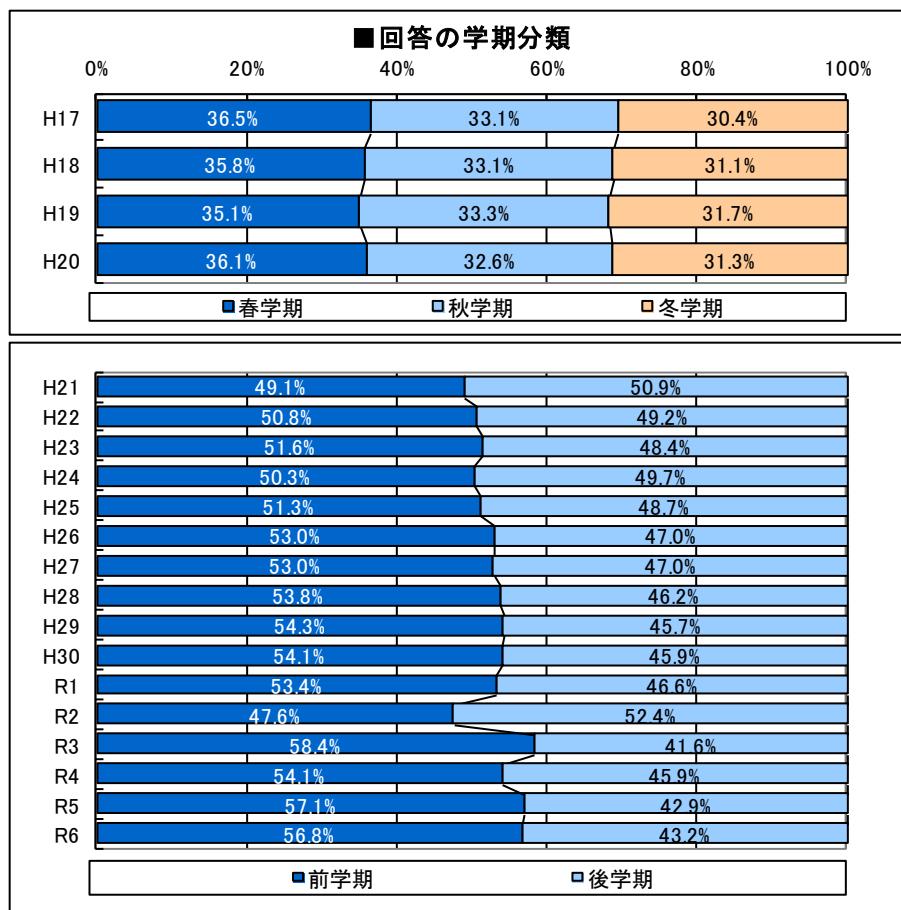
- 平成17年度に質問の見直しを行っているため、一部の設問では以前との比較は行っていない。
- 新アンケートの「D」「F」「H」の設問は平成14年度より、「K」の設問は平成15年度より内容が同じなので、これらの4つの設問についてはそれぞれの期間に渡って比較を行っている。それら以外の設問は変更後の平成17年度以降で比較を行った。
- 平成27年度の後学期より、設問D(1回の授業に対する予習・復習、授業外学習(レポート、課題、等)はどの程度行いましたか。)の選択肢を変更している。これまでには「1. 2時間以上、2. 1~2時間、3. 1時間程度、4. 30分程度、5. 学習は特にしなかった」の5択であったが、後学期からは「1. 3時間以上、2. 2~3時間、3. 1~2時間、4. 1時間程度、5. 30分程度、6. 学習は特にしなかった」の6択とした。これは2時間以上を選択する学生の実態を、より詳細に分析するための変更となる。
- 報告書内のデータの「集計値」や「合計値」は小数点第1位までの表示となっているが、これは小数点第2位を四捨五入したものとなっている。「肯定的な意見の合計値」などもこのルールに従っているため、「集計値」と「合計値」の四捨五入の判断が異なり、最大で0.1の差となっているケースもあるが、これは誤差としてそのままとしている。

<1-2>回答者の基本属性

- 学年別の割合は、「1年次」が45.9%、「2年次」が34.3%、「3年次」が18.2%、「4年次」が1.6%である。
- 成績別の割合は、「S」が33.1%、「A」が29.5%、「B」が19.3%、「C」が11.8%、「Z」が6.3%である。



- H21年度以降は2学期制となり、今回は「前学期」の回答が56.8%、「後学期」が43.2%である。
- 学部・学科構成はH29までは4学部14学科であったが、H30以降は4学部12学科となっており、切り替わりのタイミングで構成比に大きな変化が見られる。今回の割合は「E:工学部」が57.3%、「F:情報フロンティア学部」が17.7%、「A:建築学部」が16.4%、「B:バイオ・化学部」が8.5%であり、前回とほぼ同じ構成比である。



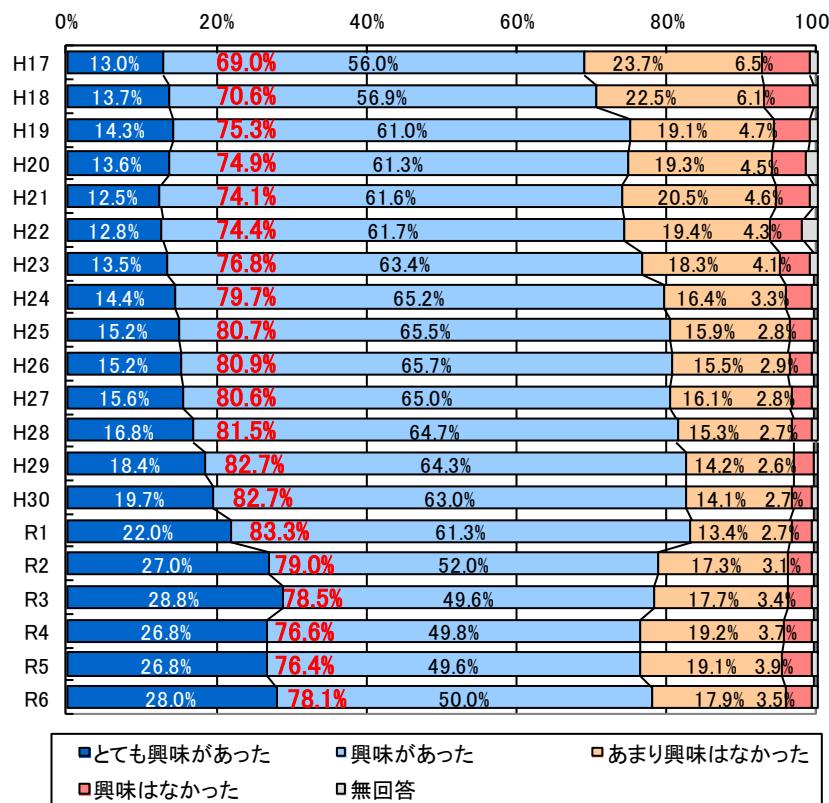
<2> 基本的な分析

<2-1>全項目の基本集計と経年変化

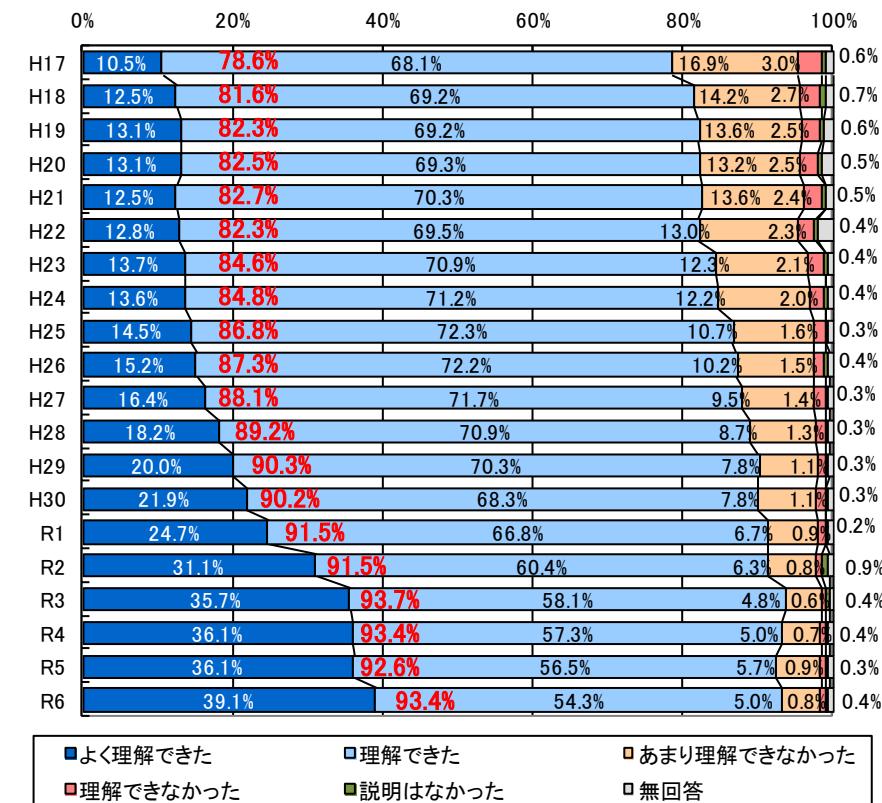
- 経年変化のグラフでは肯定的な意見の合計を赤太文字で示しているが、注意書き(※)にあるように、合計値には誤差が含まれる場合もある。そして、「無回答」の数値はグラフ内に表示していない。
- 「A:事前の興味」の「とても興味があった」は過去2番目の28.0%である。そして、「興味があった」の50.0%を加えると、肯定的な意見の合計は78.1%で前回を1.7ポイント上回った。一方、否定的な意見の合計は21.4%であり、前回を1.6ポイント下回るもの、授業に興味を持てないという意見が2割以上を占める状態が続いている。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」の「よく理解できた」は過去最高の39.1%である。そして、「理解できた」の54.3%を加えると、肯定的な意見の合計は過去2番目の93.4%であり、非常に多い状態が続いている。

※報告書内のデータの「集計値」や「合計値」は小数点第1位までの表示となっているが、これは小数点第2位を四捨五入したものとなっている。「肯定的な意見の合計値」なども、このルールに従っているため、「集計値」と「合計値」の四捨五入の判断が異なり、最大で0.1の差となっているケースもあるが、これは誤差として、そのままとしている。

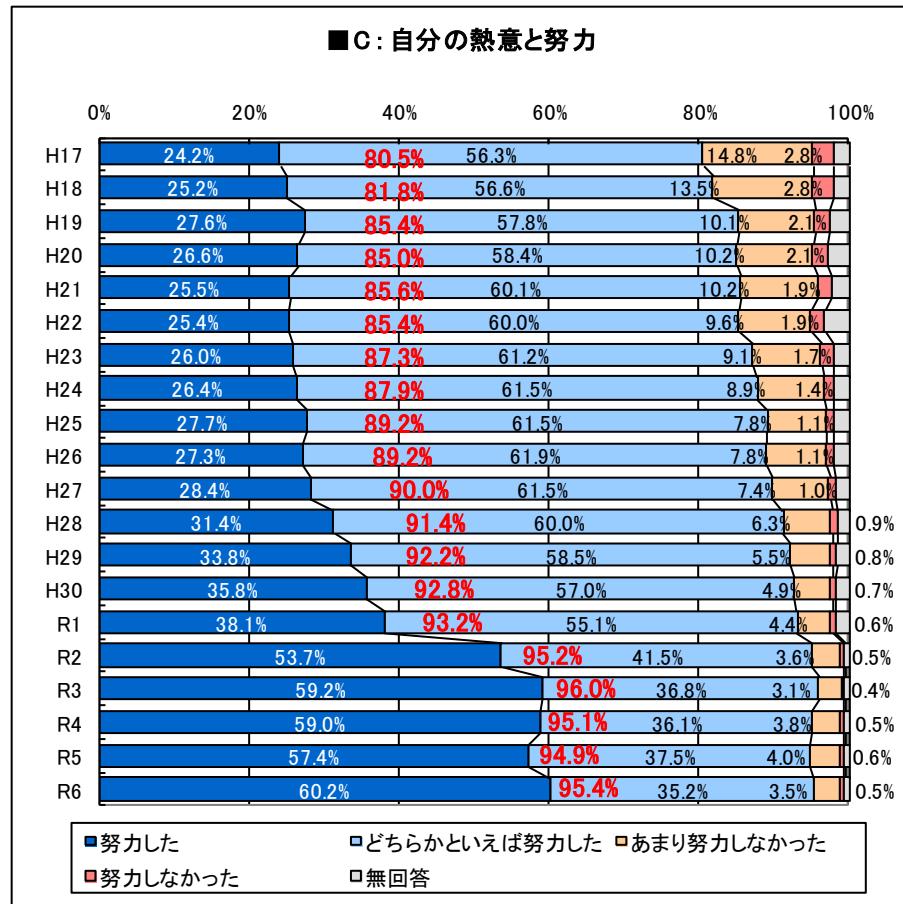
■A: 事前の興味



■B: 事前の内容理解(学習支援計画書)

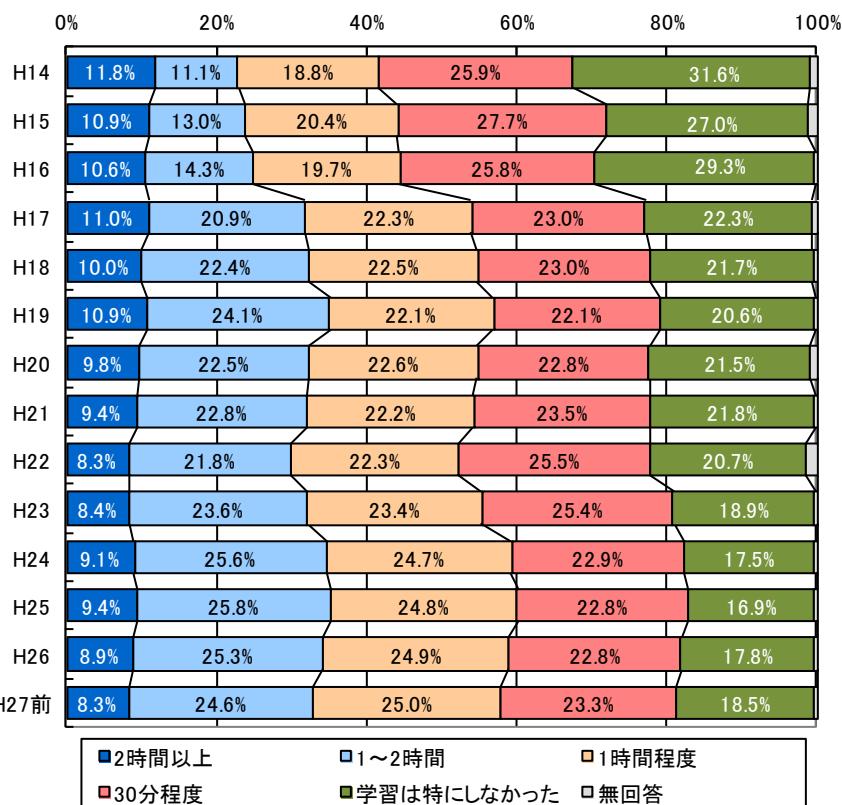


- 「C:自分の熱意と努力」は「授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか?」という質問であるが、今回、「努力した」は過去最高の60.2%である。そして、「どちらかといえば努力した」の35.2%を加えると、肯定的な意見の合計は95.4%と、R3に次ぐ多さであり、多くの学生が熱意と努力を持って授業に取り組んでいる状況がうかがえる。

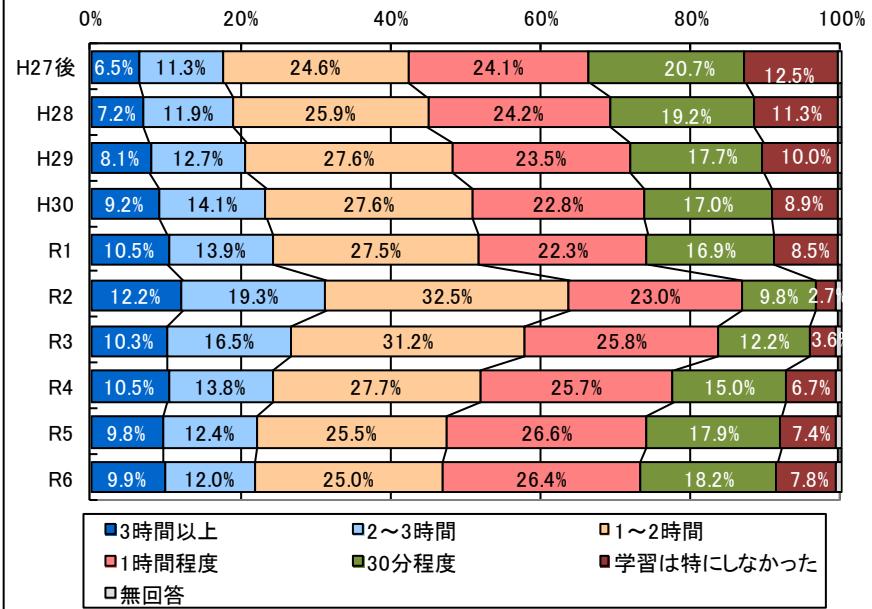


- 「D:予習・復習、授業外学習(レポート、課題、等)」は「1回の授業に対する予習・復習、授業外学習(レポート、課題、等)はどの程度行いましたか?」という質問であるが、H27後学期(H27後)以降は選択肢を変更したため、別のグラフ(右側)で比較をしている。
- 今回は「3時間以上」が9.9%、「2~3時間」が12.0%、「1~2時間」が25.0%で、いずれも前回からの大きな変化は見られないが、ここまでを合計すると46.9%であり、前回を0.8ポイント下回った。これをしっかりと学習時間を確保している層と考えると、R3から継続的に減少している。
- 一方、「1時間程度」は26.4%、「30分程度」は18.2%、「学習は特にしなかった」は7.8%である。これらも前回からの大きな変化は見られないが、「学習は特にしなかった」の増加傾向は続いている。

■D: 予習・復習、授業外学習(レポート、課題、等)



■D: 予習・復習、授業外学習(レポート、課題、等)
(H27後学期より)



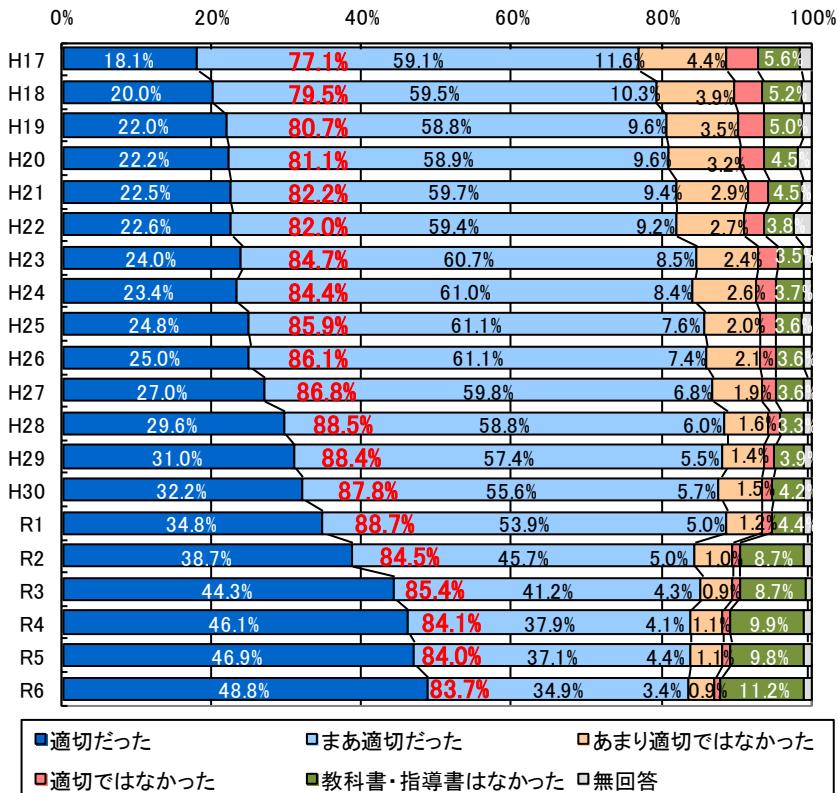
※H16までの設問文は「1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか?」であった。

※H27後学期に選択肢が変わったため、それ以降は別グラフとしている。

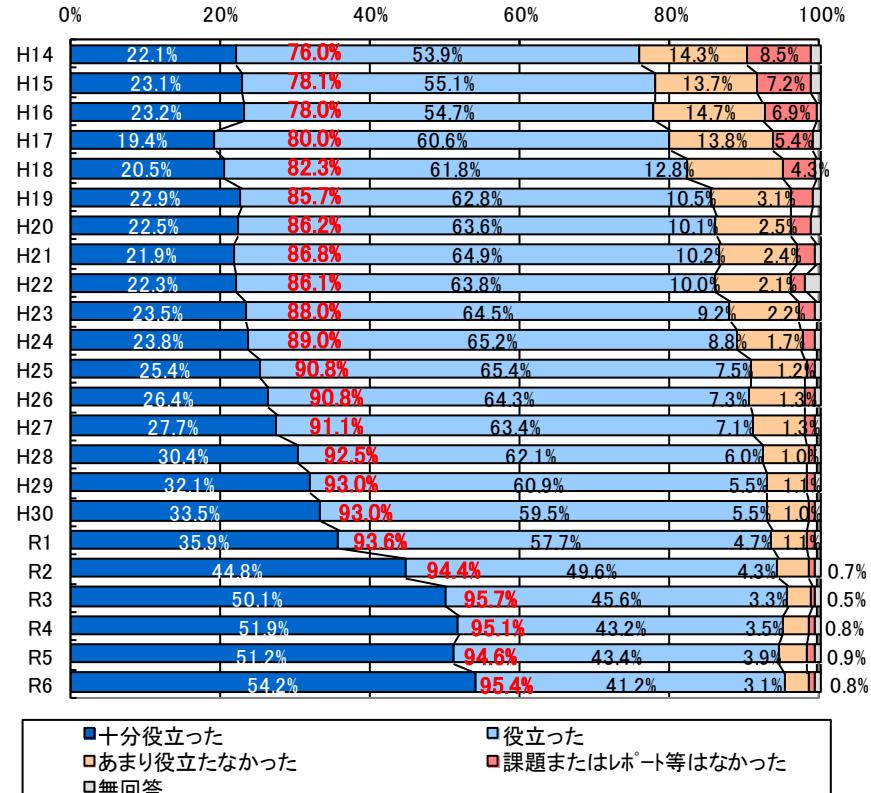
※H30後学期より「課外学習活動」の表記を「授業外学習(レポート、課題等)」に変更している。

- 「E:教科書・指導書の適切さ」は「教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか?」という質問であるが、「適切だった」は過去最高の48.8%である。そして、「まあ適切だった」が34.9%であり、肯定的な意見の合計は83.7%で、わずかずつではあるがR3から低下が続いている。そして、「教科書・指導書はなかった」は過去最高の11.2%である。
- 「F:課題・レポートの適切さ」は「課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるために役立ちましたか?」という質問であるが、「十分役立った」は過去最高の54.2%である。そして、「役立った」が41.2%であり、肯定的な意見の合計は95.4%で、前回を0.8ポイント上回って多い状態が続いている。

■E:教科書・指導書の適切さ

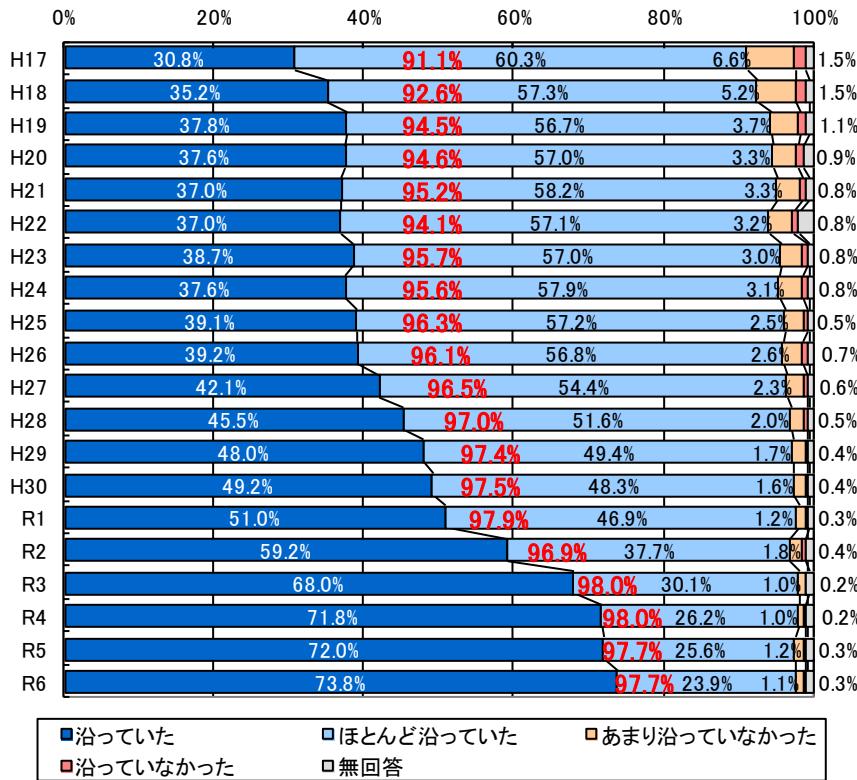


■F:課題・レポートの適切さ

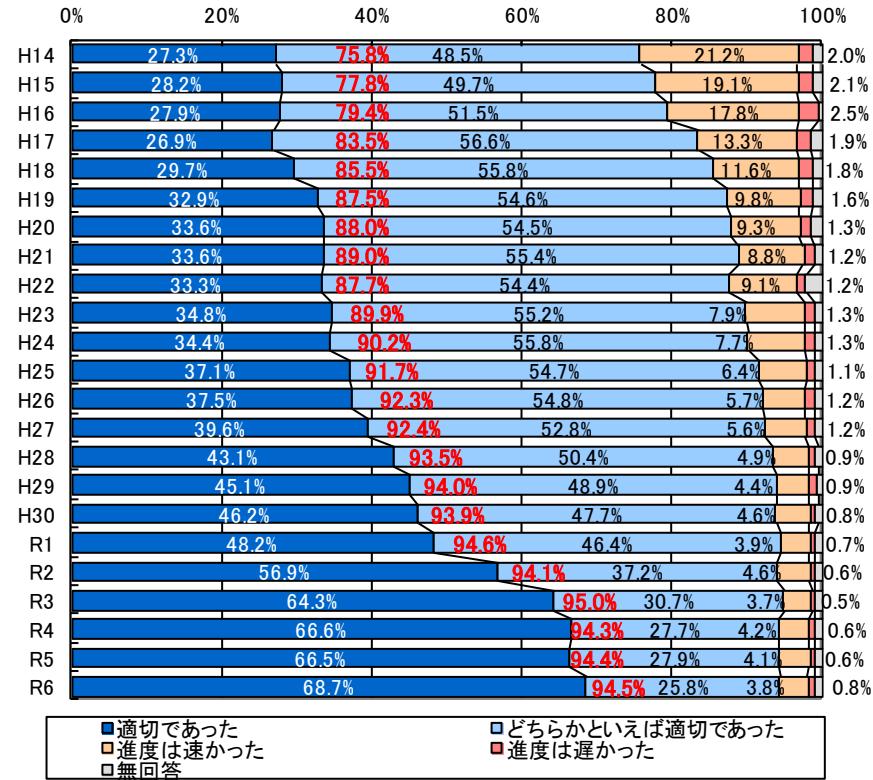


- 「G:学習支援計画書との一致」は「授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか？」という質問であるが、「沿っていた」は過去最高の73.8%である。そして、「ほとんど沿っていた」の23.9%を加えると肯定的な意見の合計は前回と同じ97.7%であり、非常に多い状態が続いている。
- 「H:授業の進度の適切さ」は「授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか？」という質問であるが、「適切であった」は前回を2.2ポイント上回って過去最高の68.7%である。そして、「どちらかといえば適切であった」の25.8%を加えると肯定的な意見の合計は94.5%で、非常に多い状態が続いている。

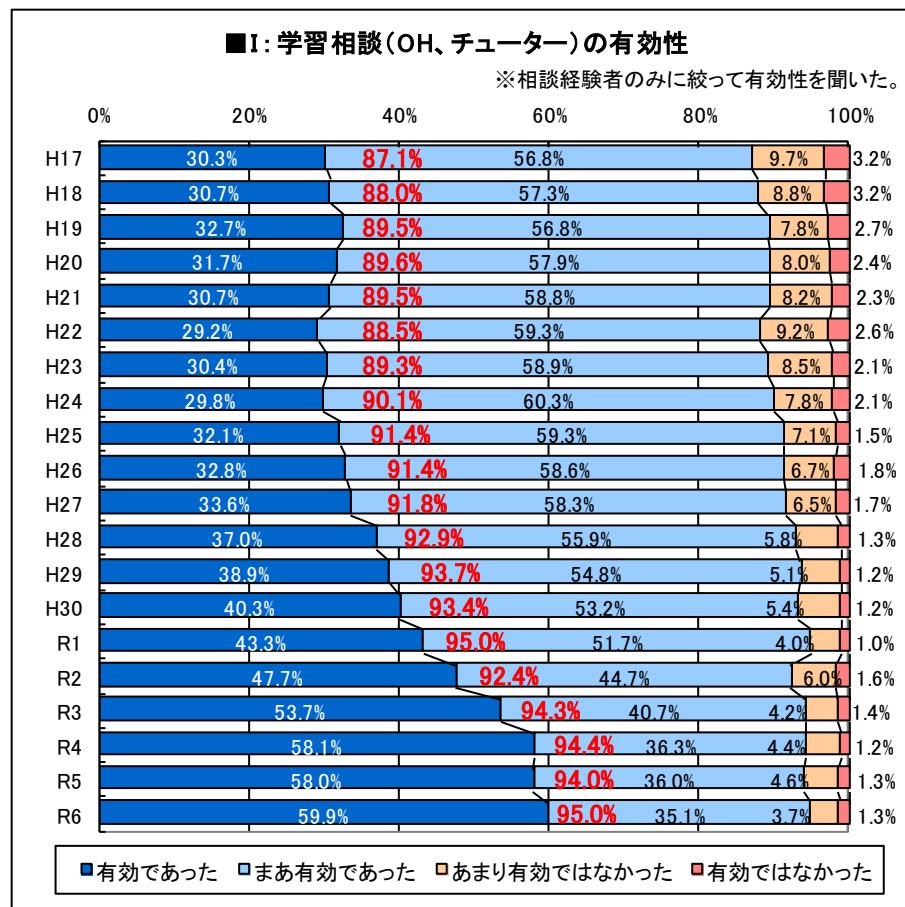
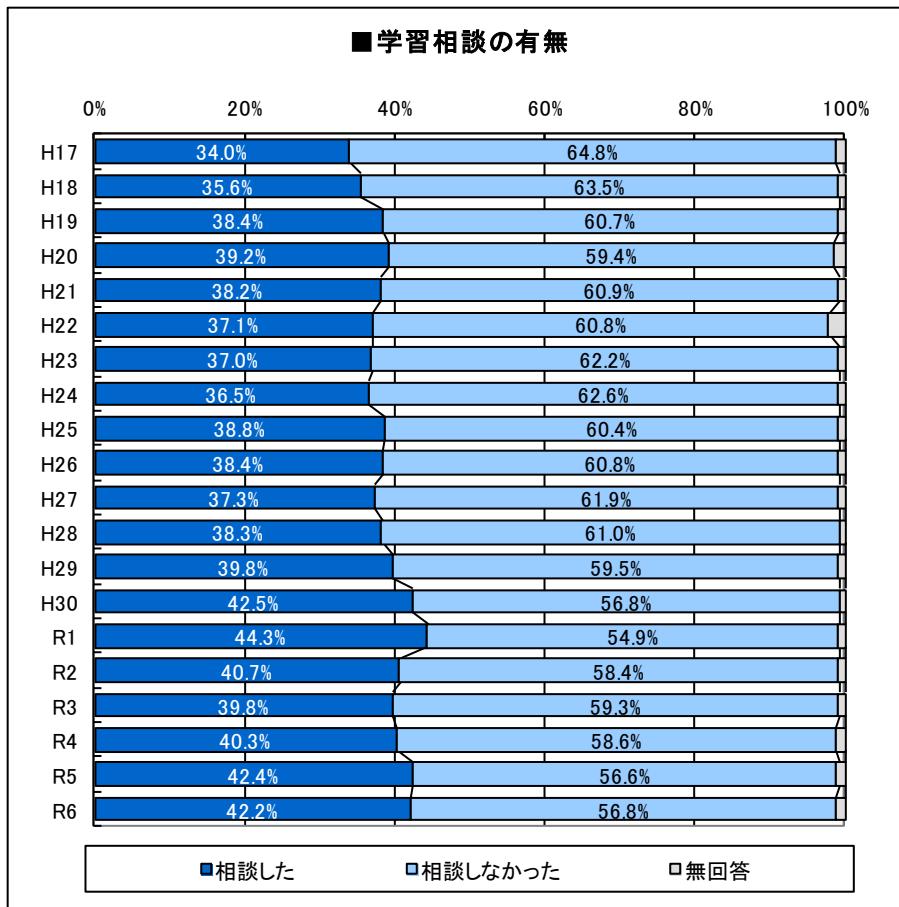
■ G: 学習支援計画書との一致



■ H: 授業の進度の適切さ

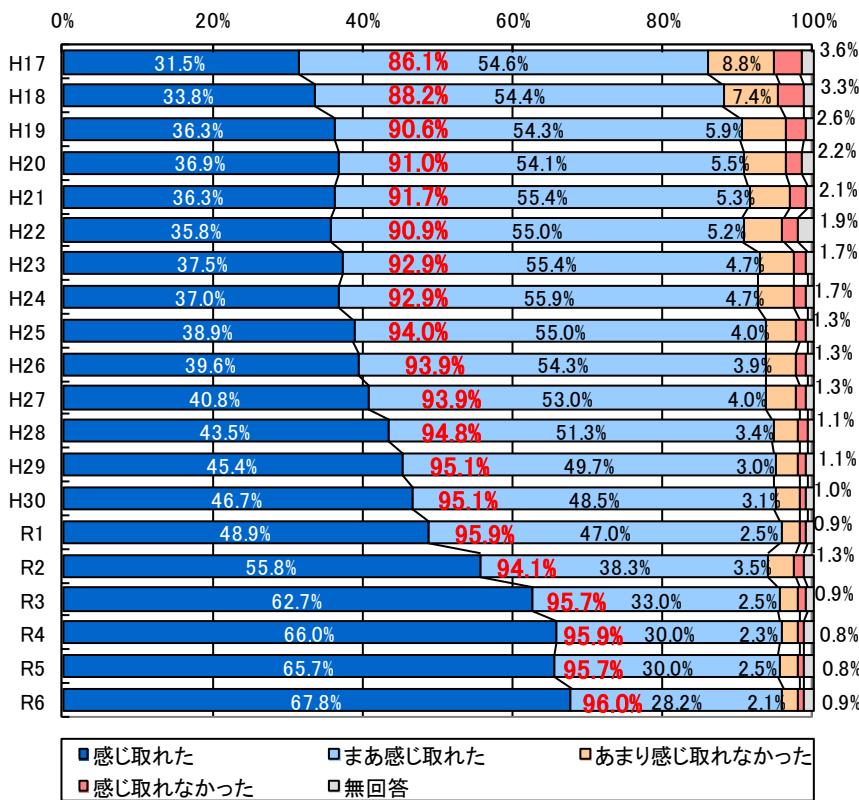


- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」は「授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか?」という質問で、「有効であった」～「有効ではなかった」という内容の評価と、「相談しなかった」という5つの選択肢で聞いている。
- 左のグラフでは、「有効であった」～「有効ではなかった」の4段階で回答した学生を「相談した」層、それ以外を「相談しなかった」層として学習相談の有無を比較しているが、「相談した」は前回を0.2ポイント下回って42.2%であり、大きな変化は見られない。
- 右のグラフは「相談した」と回答した学生だけの評価を見ているが、「有効であった」は過去最高の59.9%である。そして、「まあ有効であった」の35.1%を合わせると肯定的な意見の合計も過去最高の95.0%となり、「学習相談(OH、チューター)」の評価は非常に高い状態が続いている。

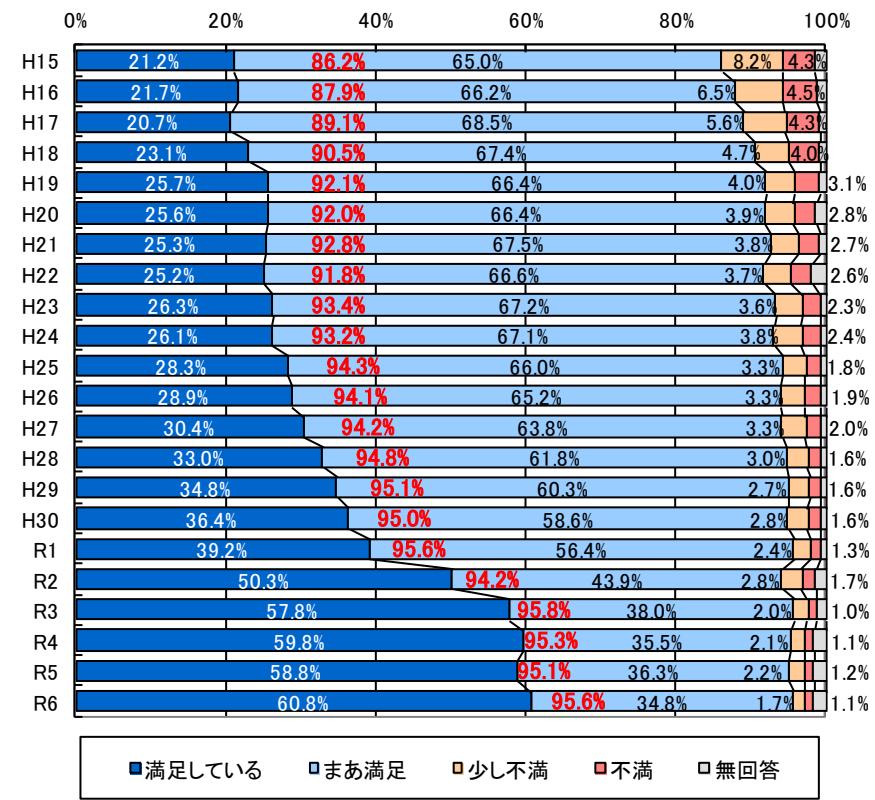


- 「J:教員の熱意」は「授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることができましたか?」という質問であるが、「感じ取れた」は過去最高の67.8%である。そして、「まあ感じ取れた」の28.8%を加えると、肯定的な意見の合計も過去最高の96.0%であり、ほとんどの学生が授業で教員の熱意を感じていると答えている。
- 「K:この科目の満足度」では、「満足している」が過去最高の60.8%である。そして、「まあ満足」の34.8%を加えると満足度は過去最高の95.6%となり、ほとんどの学生が授業に満足しており、内訳を見ても非常に強く満足している様子がうかがえる。

■ J: 教員の熱意



■ K: この科目の満足度

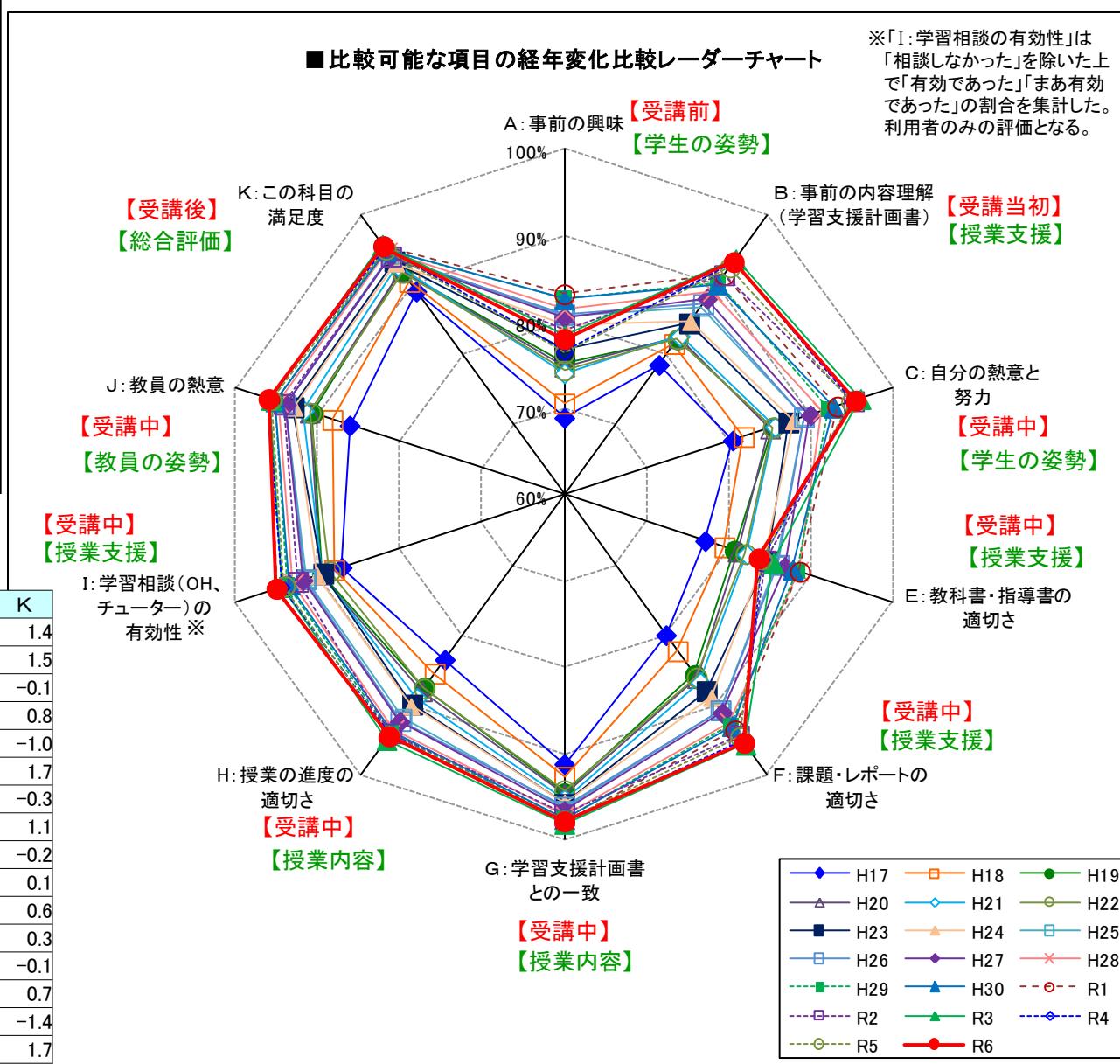


＜2-2＞肯定的な意見の経年変化比較

- 肯定的な意見の割合(%)をレーダーチャートにプロットして比較をしている。
 - 比較のできない「D:予習・復習、授業外学習(レポート、課題、等)」は除外し、「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」は利用経験者の評価だけを抽出している。
 - 肯定的な意見の合計を見ると、「E:教科書・指導書の適切さ」だけがわずかに前回を下回り、「A:事前の興味」と共に、以前と比較してそれほど高い評価ではない。
 - 一方、「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」「J:教員の熱意」「K:この科目の満足度」は過去最高であり、他の項目も高めのものが多い。

■肯定的な意見の差(単位:ポイント)

| | A | B | C | E | F | G | H | I | J | K |
|---------------|------------|------------|------------|-------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| H17からH18 | 1.6 | 3.0 | 1.3 | 2.4 | 2.3 | 1.5 | 2.0 | 0.9 | 2.1 | 1.4 |
| H18からH19 | 4.7 | 0.7 | 3.6 | 1.2 | 3.4 | 1.9 | 2.0 | 1.5 | 2.4 | 1.5 |
| H19からH20 | -0.4 | 0.2 | -0.4 | 0.3 | 0.4 | 0.1 | 0.5 | 0.2 | 0.3 | -0.1 |
| H20からH21 | -0.8 | 0.2 | 0.6 | 1.1 | 0.6 | 0.6 | 1.0 | -0.1 | 0.7 | 0.8 |
| H21からH22 | 0.3 | -0.4 | -0.3 | -0.1 | -0.7 | -1.0 | -1.4 | -1.1 | -0.8 | -1.0 |
| H22からH23 | 2.4 | 2.2 | 1.9 | 2.7 | 1.9 | 1.6 | 2.3 | 0.9 | 2.1 | 1.7 |
| H23からH24 | 2.8 | 0.2 | 0.6 | -0.3 | 0.9 | -0.2 | 0.3 | 0.8 | -0.1 | -0.3 |
| H24からH25 | 1.1 | 2.0 | 1.3 | 1.5 | 1.8 | 0.8 | 1.5 | 1.3 | 1.1 | 1.1 |
| H25からH26 | 0.3 | 0.5 | -0.1 | 0.2 | 0.0 | -0.3 | 0.6 | 0.1 | 0.0 | -0.2 |
| H26からH27 | -0.3 | 0.7 | 0.7 | 0.7 | 0.4 | 0.5 | 0.1 | 0.5 | -0.1 | 0.1 |
| H27からH28 | 0.9 | 1.0 | 1.4 | 1.7 | 1.4 | 0.5 | 1.1 | 1.1 | 1.0 | 0.6 |
| H28からH29 | 1.3 | 1.1 | 0.8 | 0.0 | 0.5 | 0.4 | 0.5 | 0.8 | 0.3 | 0.3 |
| H29からH30 | -0.1 | -0.1 | 0.6 | -0.5 | 0.0 | 0.1 | -0.1 | -0.3 | 0.1 | -0.1 |
| H30からR1 | 0.6 | 1.3 | 0.4 | 0.9 | 0.6 | 0.4 | 0.7 | 1.6 | 0.7 | 0.7 |
| R1からR2 | -4.3 | 0.0 | 2.0 | -4.2 | 0.7 | -1.0 | -0.6 | -2.6 | -1.7 | -1.4 |
| R2からR3 | -0.5 | 2.3 | 0.8 | 1.0 | 1.3 | 1.1 | 1.0 | 1.9 | 1.6 | 1.7 |
| R3からR4 | -1.9 | -0.3 | -0.9 | -1.4 | -0.6 | -0.1 | -0.7 | 0.1 | 0.2 | -0.5 |
| R4からR5 | -0.2 | -0.8 | -0.2 | 0.0 | -0.5 | -0.3 | 0.1 | -0.4 | -0.3 | -0.2 |
| R5からR6 | 1.6 | 0.8 | 0.5 | -0.3 | 0.8 | 0.0 | 0.1 | 1.0 | 0.3 | 0.4 |

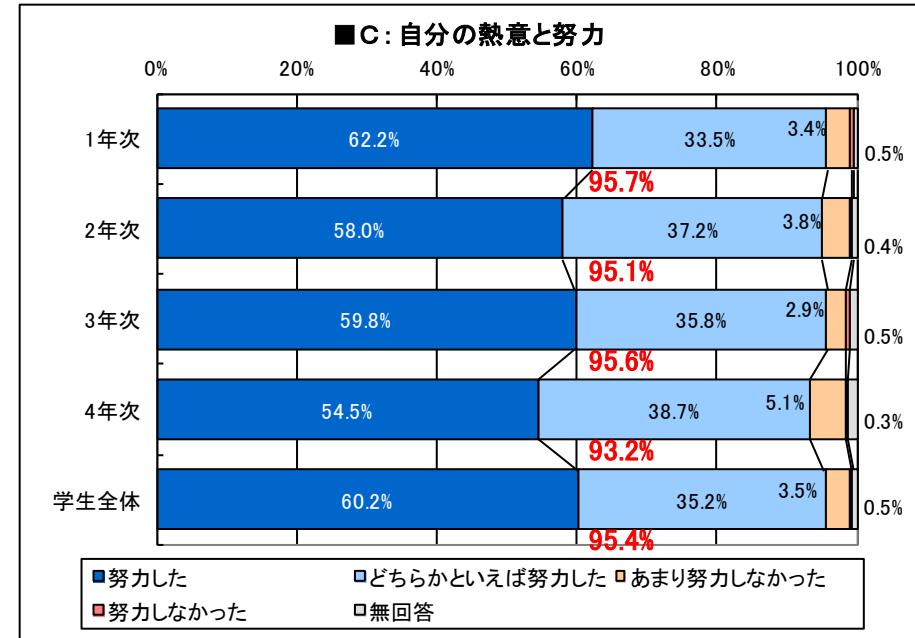
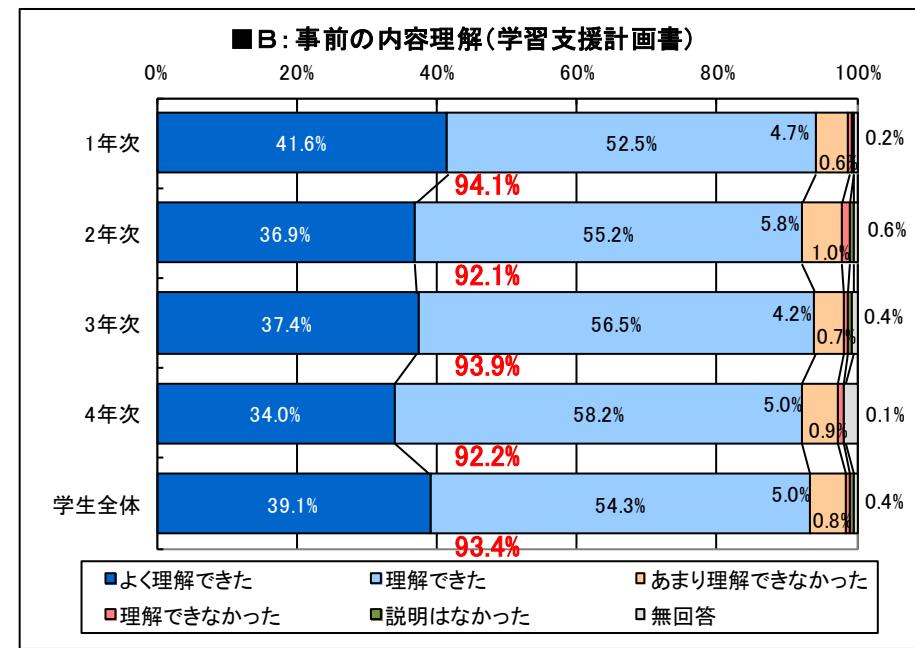
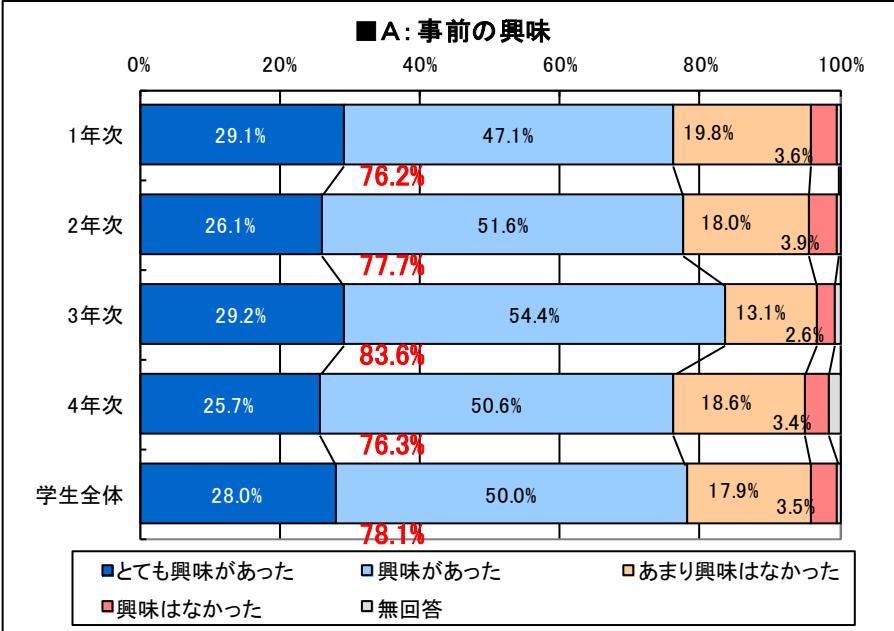


<3>学年別の分析

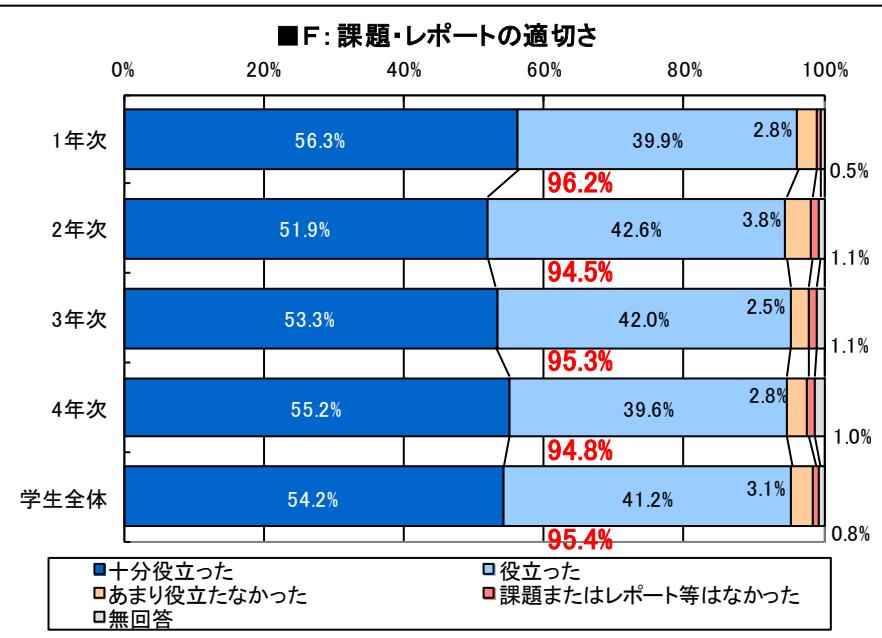
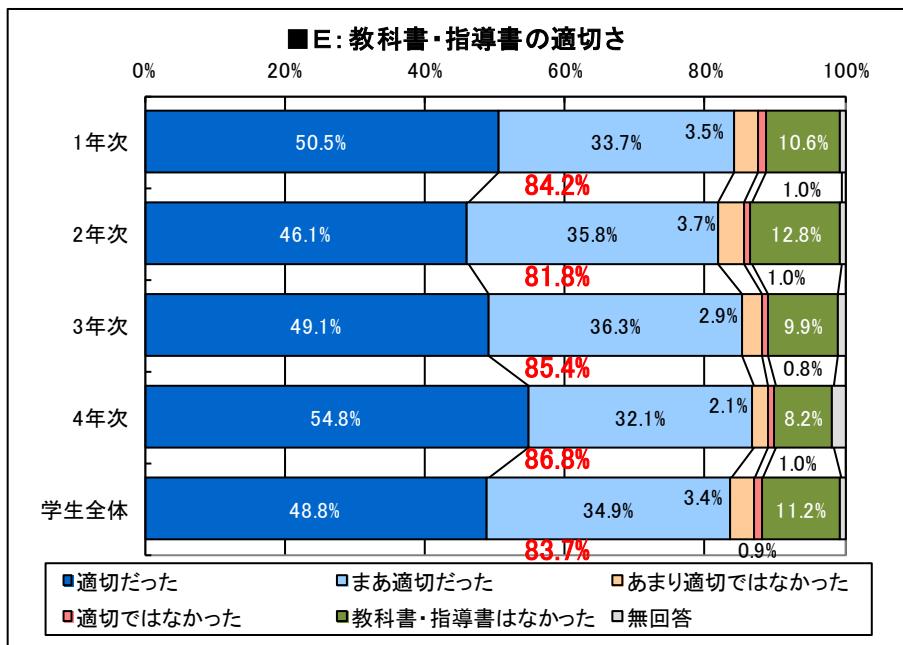
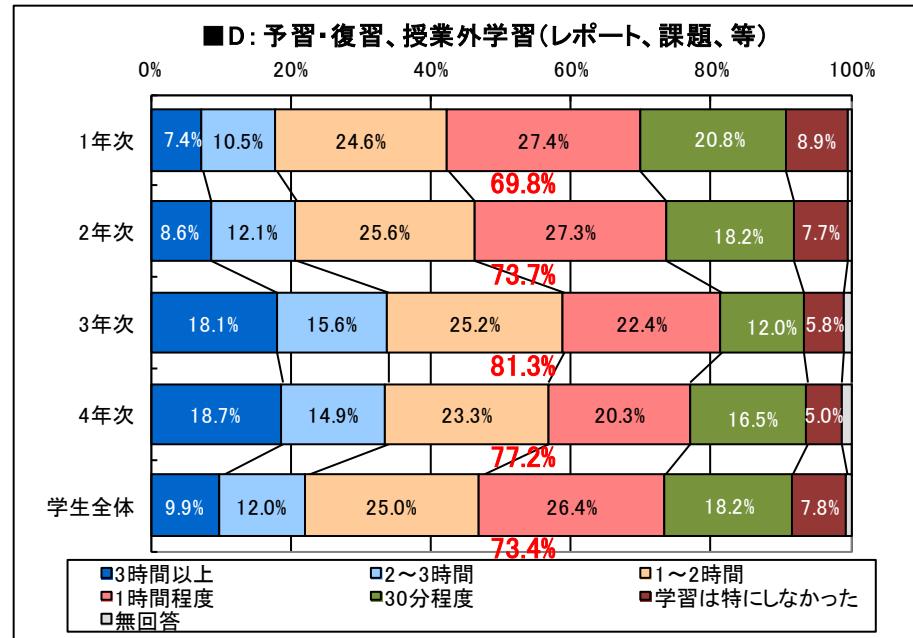
<3-1>学年別の比較

17

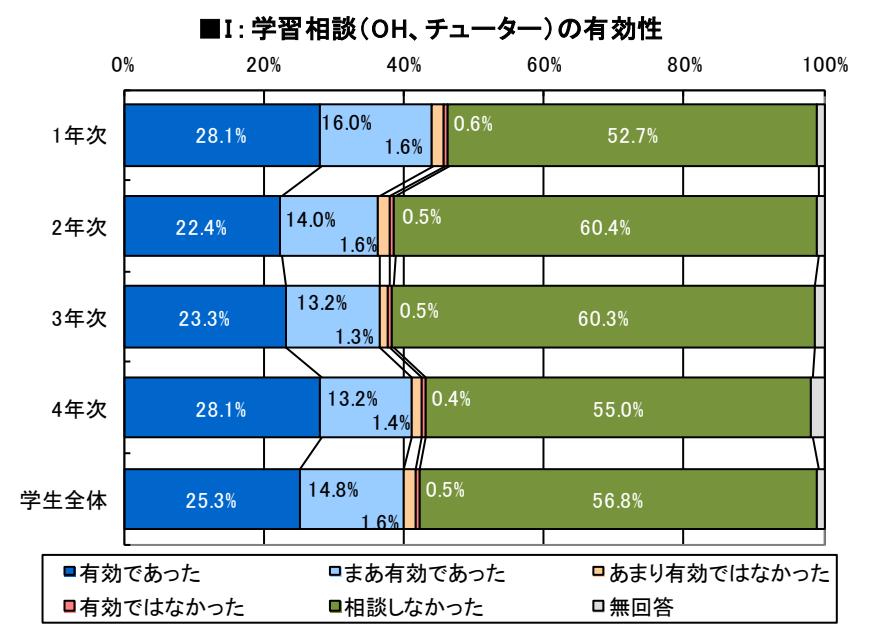
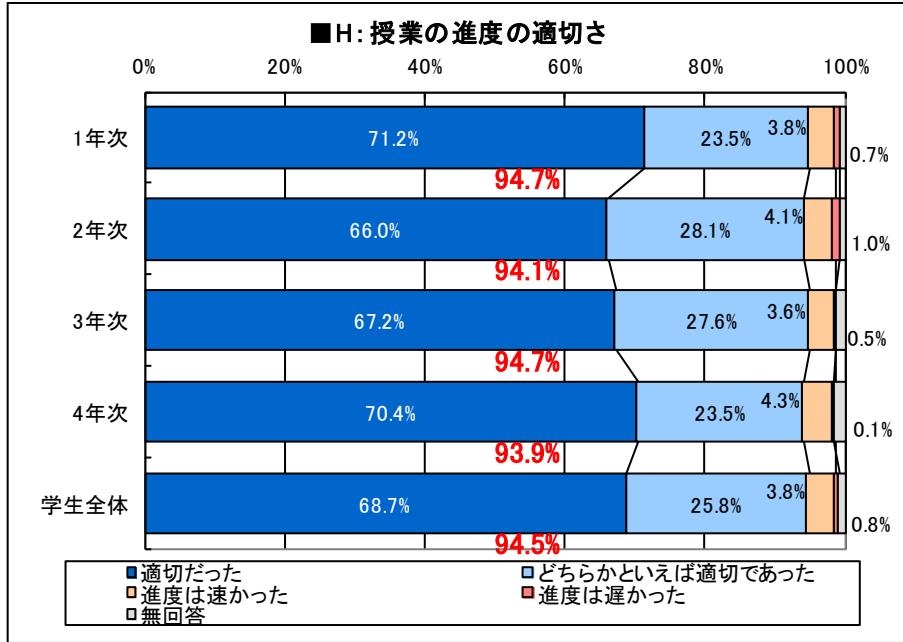
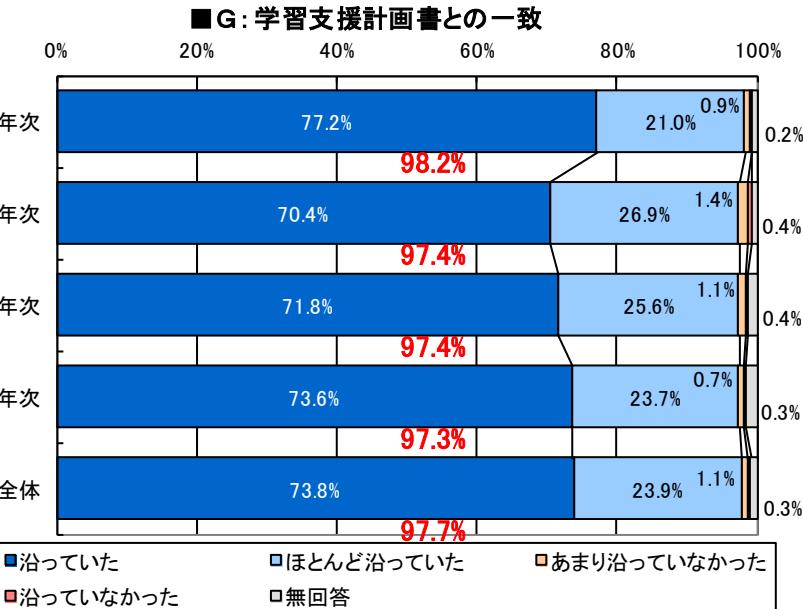
- グラフ中の赤太文字は、肯定的な意見の合計を示している。
- 「A:事前の興味」で肯定的な意見の合計が最多多いのは「3年次」の83.6%であり、唯一、8割を超えており、「2年次」「4年次」「1年次」と続いているが、この3学年の差はわずかである。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」で肯定的な意見の合計が最も多いのは「1年次」の94.1%である。次いで、「3年次」「4年次」「2年次」と続いているが、差は最大でも2.0ポイントと少なく、いずれの学年でも高い評価である。
- 「C:自分の熱意と努力」の肯定的な意見の合計も学年による差が小さく、最多多いのは「1年次」の95.7%、次いで、「3年次」「2年次」「4年次」と続いているが、差は最大でも2.5ポイントである。「努力した」の割合も同じ順番であるが、「4年次」の割合がやや少ない。



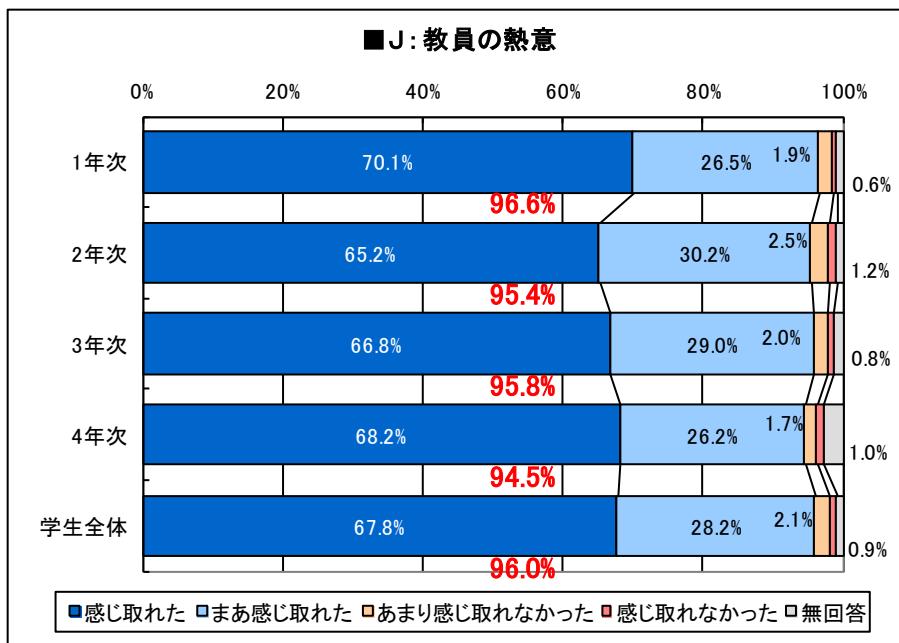
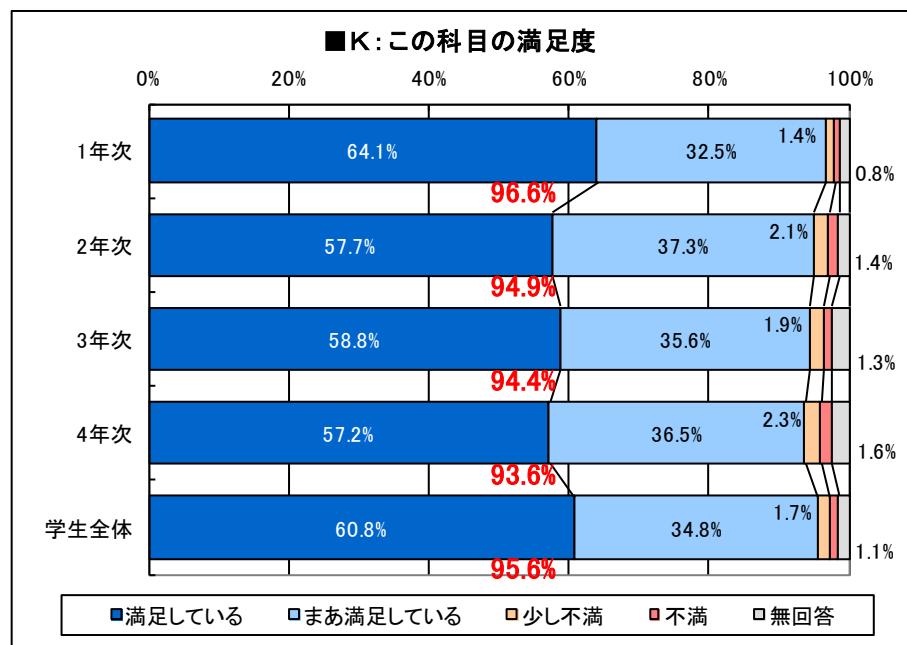
- 「D:予習・復習、授業外学習(レポート、課題、等)」で「1時間程度」までの合計(グラフ内の赤太文字)を学年別に見ると、「1年次」から「3年次」にかけては69.8%、73.7%、81.3%と、学習時間は高学年ほど長い傾向が見られるが、「4年次」では77.2%と減少している。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」で肯定的な意見の合計が最も多いのは「4年次」の86.8%であり、「3年次」「1年次」「2年次」と減少しており、差は最大で5.0ポイントである。そして、「教科書・指導書はなかった」は、「4年次」で最も少なく、「2年次」が最も多くなっており、評価とは逆の傾向である。
- 「F:課題・レポートの適切さ」で肯定的な意見の合計が最も多いのは「1年次」の96.2%、最も少ないのは「2年次」の94.5%であり、差は1.7ポイントと小さく、いずれの学年でも高い評価である。



- 「G:学習支援計画書との一致」で肯定的な意見の合計が最も多かったのは「1年次」の98.2%であるが、最も少ない「4年次」でも97.3%であり、差は0.9ポイントと非常に小さい。そして、「沿っていた」だけを見てもすべての学年で7割を超えており、非常に高い評価である。
- 「H:授業の進度の適切さ」で肯定的な意見の合計が最も多いのは「1年次」と「3年次」の94.7%で、「2年次」が94.1%、「4年次」が93.9%と続き、差は最大でも0.8ポイントと小さく、いずれの学年でも非常に高い評価である。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」では、いずれの学年でも「相談しなかった」が5割を超え、最も多いのは「2年次」の60.4%、最も少ないのは「1年次」の52.7%である。そして、「有効であった」の割合が最多も多いのは「1年次」と「4年次」の28.1%で、否定的な意見はいずれの学年でも3%以下に收まり、利用者からの評価は非常に高い。



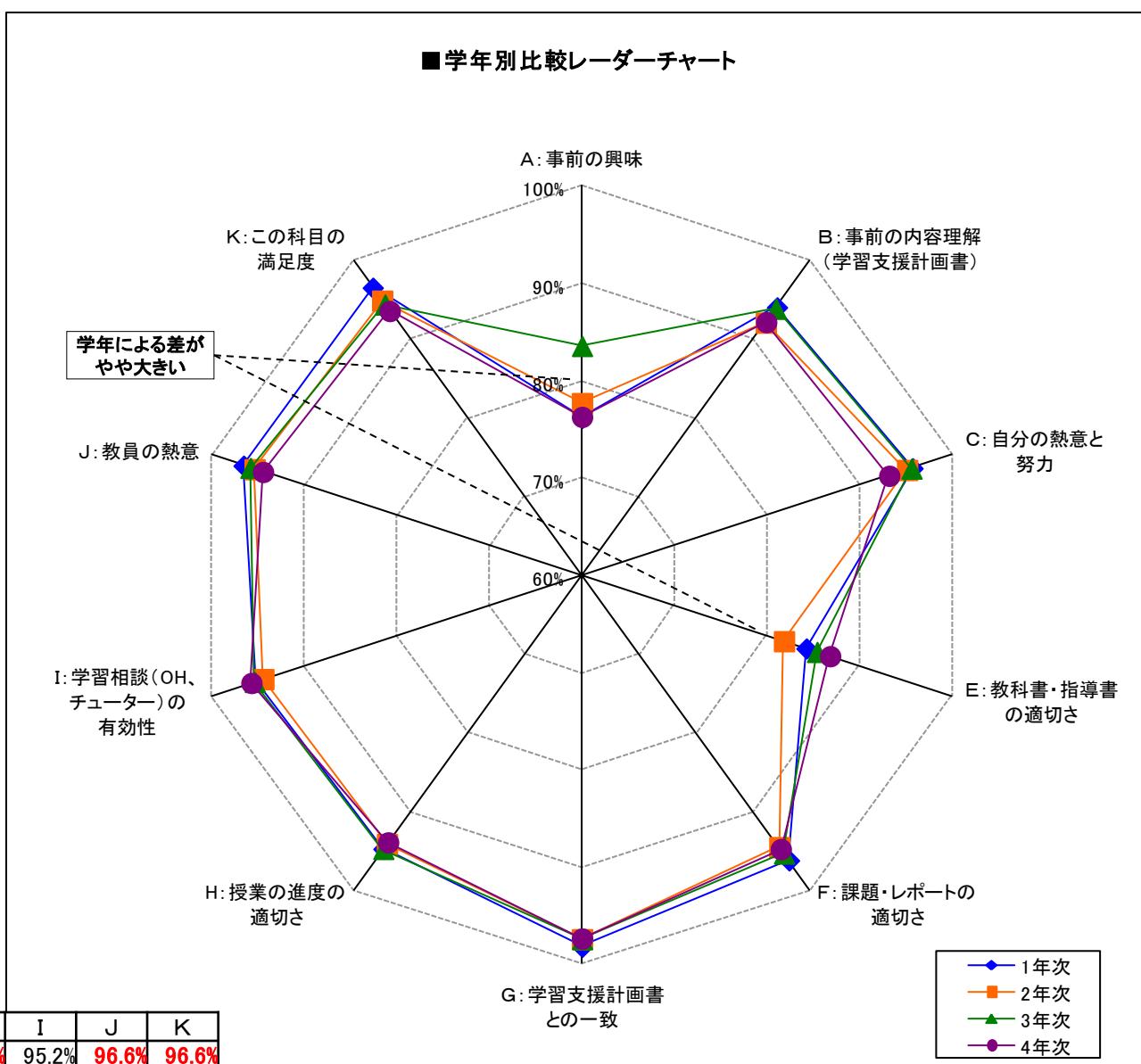
- 「J:教員の熱意」の肯定的な意見の合計は、いずれの学年でもほぼ95%を超えて非常に高い評価である。中でも最も多いのは「1年次」の96.6%であり、「感じ取れた」が70.1%である。次いで、「3年次」が95.8%、「2年次」が95.4%、「4年次」が94.5%であり、学年との相関関係は見られない。
- 「K:この科目的満足度」の肯定的な意見の合計も、全学年でほぼ95%前後で非常に高い満足度である。最も満足度が高かったのは「1年次」の96.6%であり、「満足している」が64.1%である。次いで、「2年次」が94.9%、「3年次」が94.4%、「4年次」が93.6%と続き、差は3.0ポイントと小さいものの、高学年ほど満足度が低下する傾向である。



<3-2>肯定的な意見の学年別比較

21

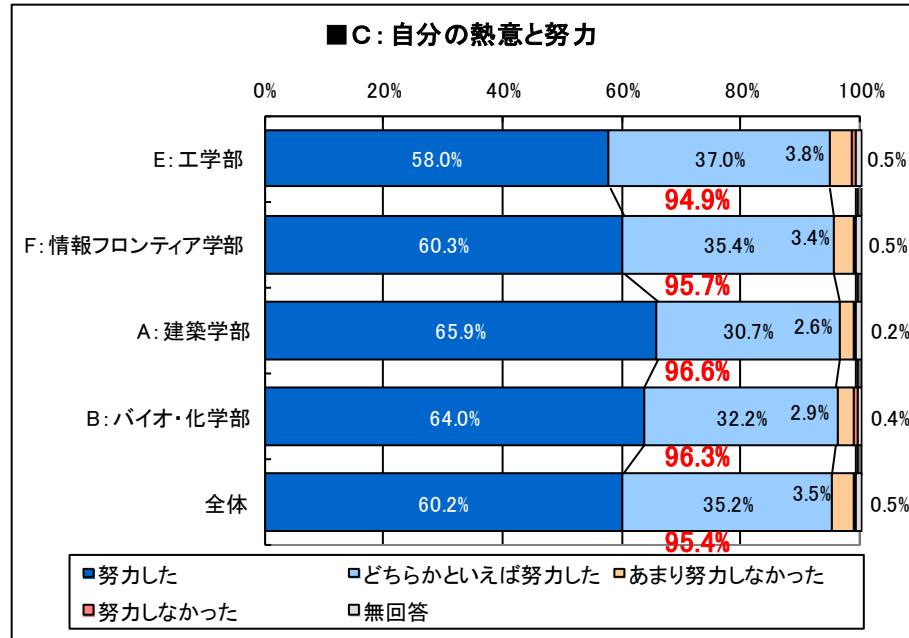
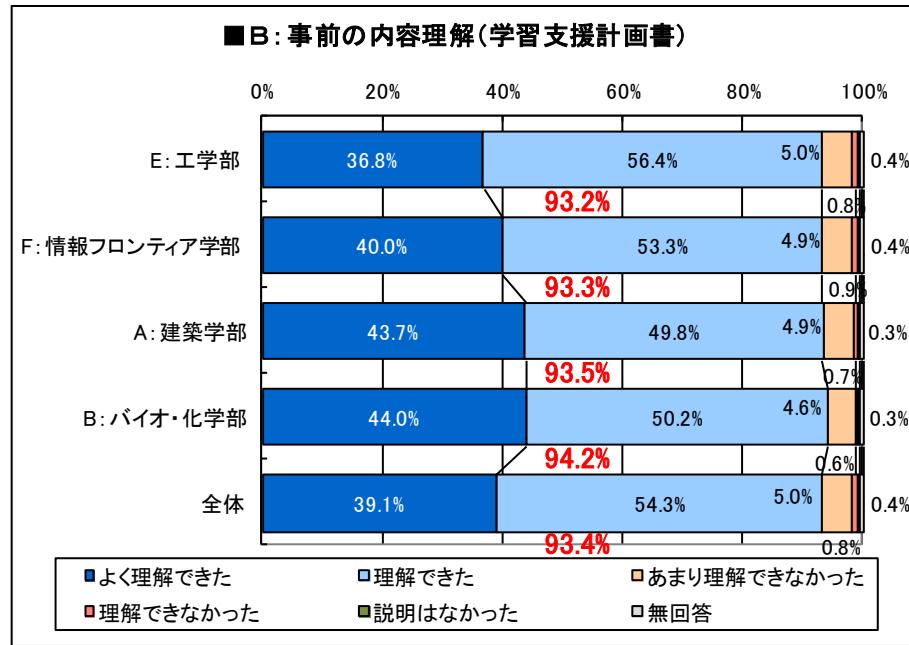
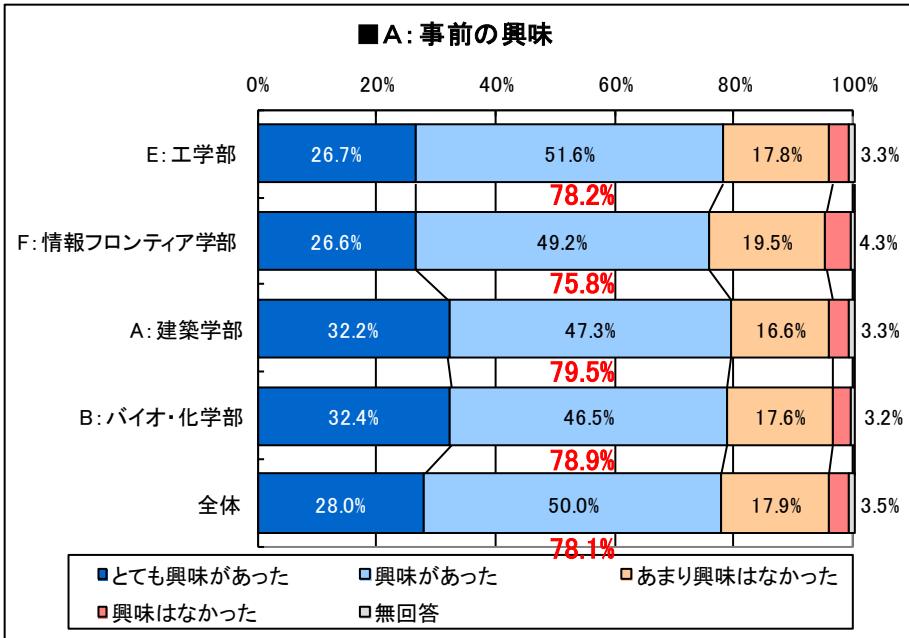
- 肯定的な意見の割合を学年別にレーダーチャートにプロットし、比較をしている。
- 学年による差がやや大きかったのは「A:事前の興味」と「E:教科書・指導書の適切さ」であるが、「A:事前の興味」では「3年次」が高い点が特徴的である。
- 上記以外の項目では学年による大きな差は見られないが、下記の表を見ると、「1年次」は10項目中の7項目で最も高い。一方、「4年次」は5項目で最も低い。



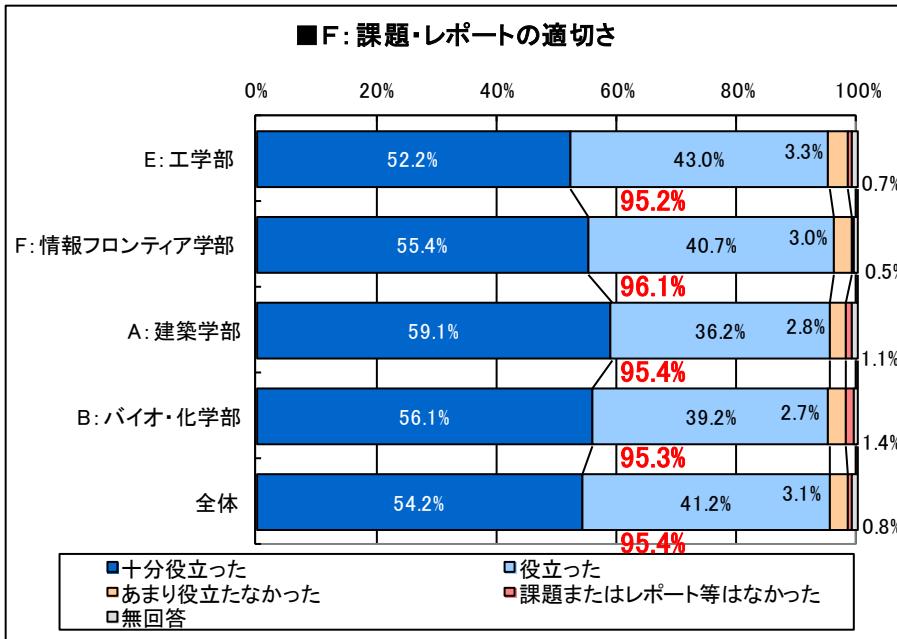
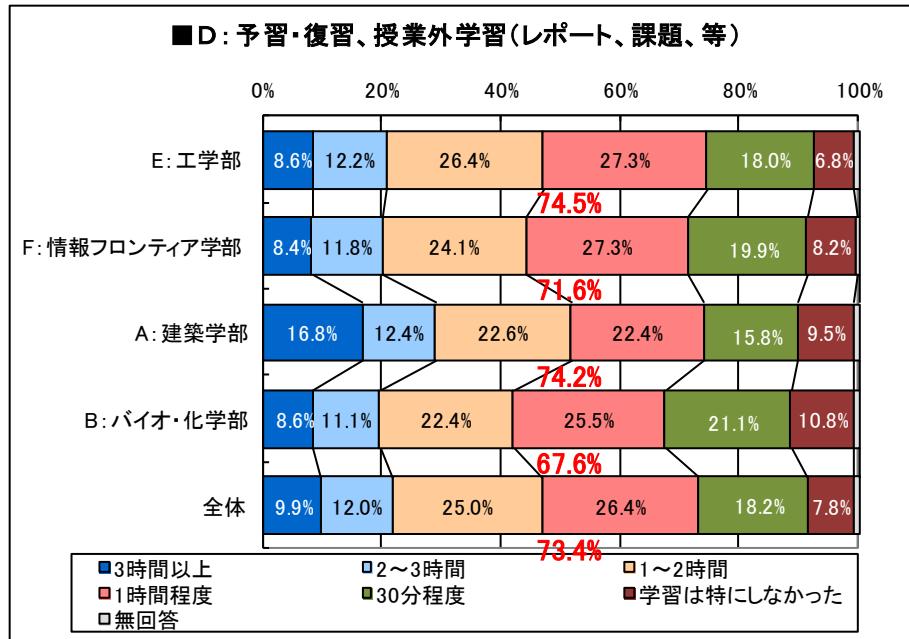
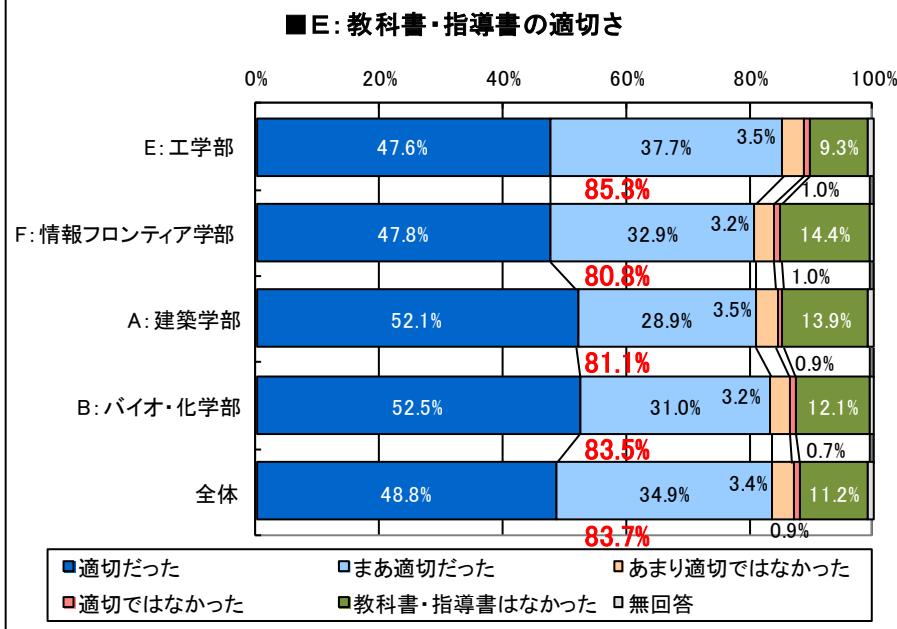
<4>学部・学科別の分析

<4-1>学部別の比較

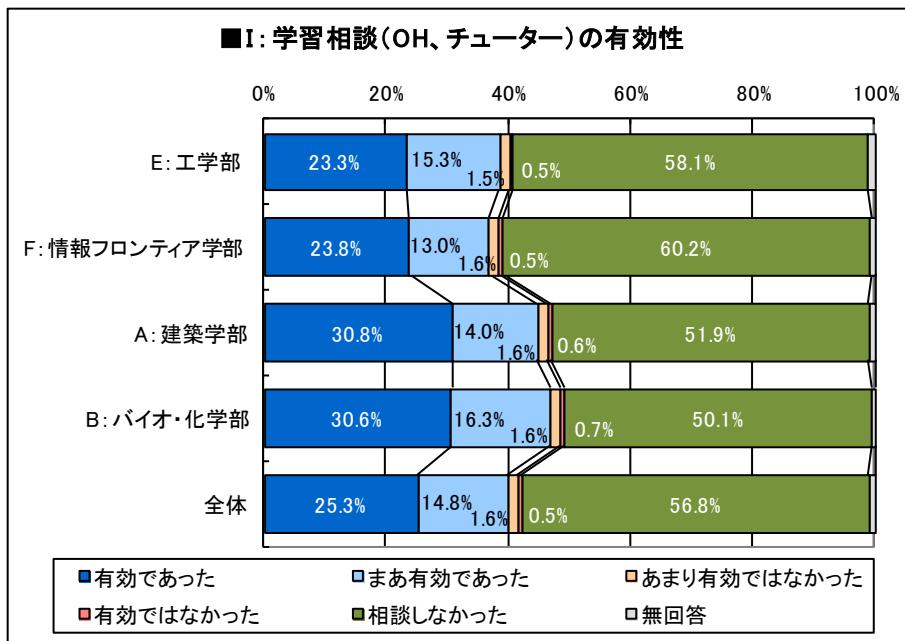
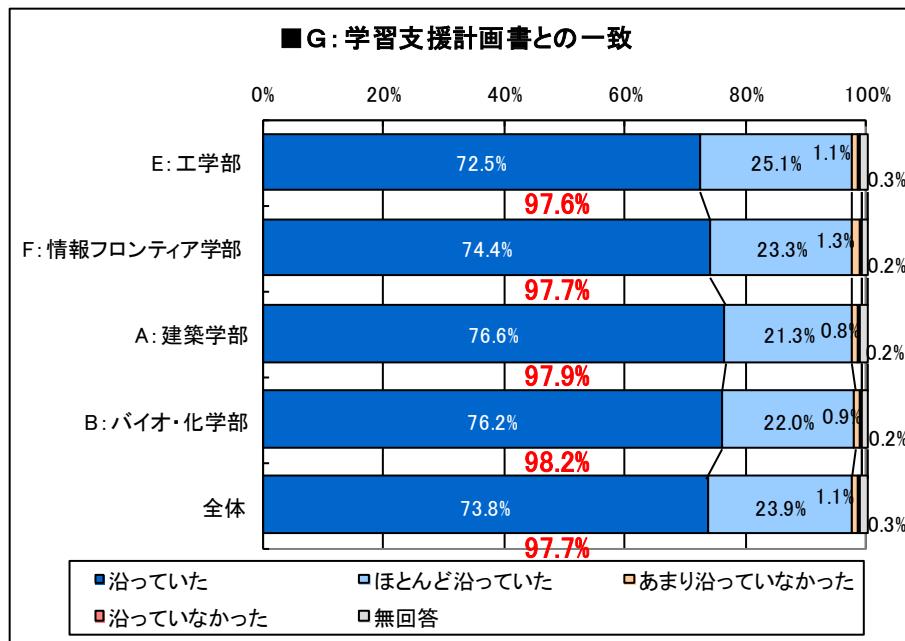
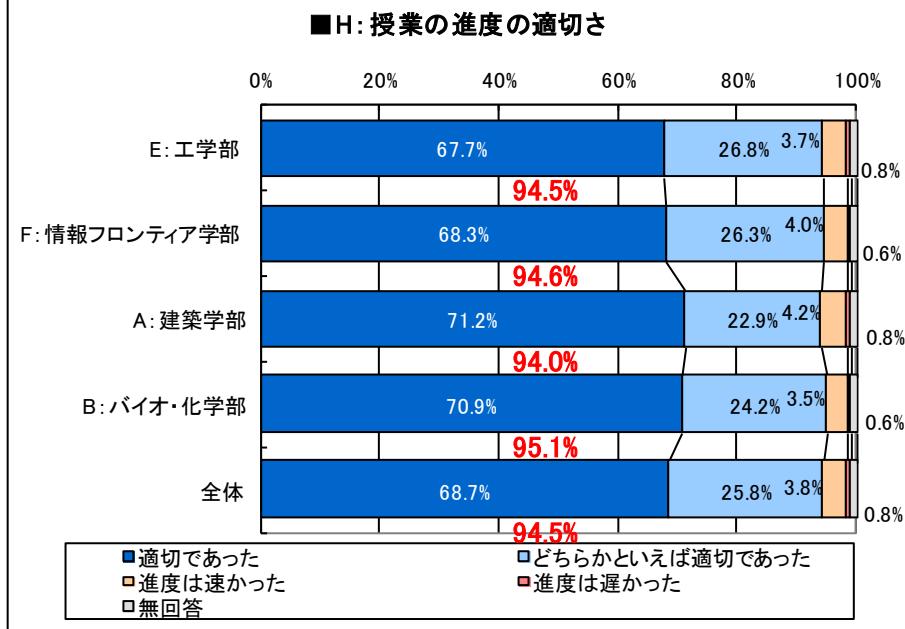
- 「A:事前の興味」で肯定的な意見が最も多いのは「A:建築学部」の79.5%である。次いで、「B:バイオ・化学部」が78.9%であり、この2学部では「とても興味があった」が多い。そして、「E:工学部」が78.2%、「F:情報フロンティア学部」が75.8%と続き、学部間の差は最大で3.7ポイントである。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」で肯定的な意見が最も多いのは「B:バイオ・化学部」の94.2%である。次いで、「A:建築学部」が93.5%、「F:情報フロンティア学部」が93.3%、「E:工学部」が93.2%と続き、学部間の差は最大で1.0ポイントと小さい。
- 「C:自分の熱意と努力」で肯定的な意見が最も多いのは「A:建築学部」の96.6%であり、「B:バイオ・化学部」が96.3%、「F:情報フロンティア学部」が95.7%、「E:工学部」が94.9%と続いている。学部間の差は最大で1.7ポイントと小さく、いずれの学部も非常に高い評価であり、高い熱意と努力が感じられる。



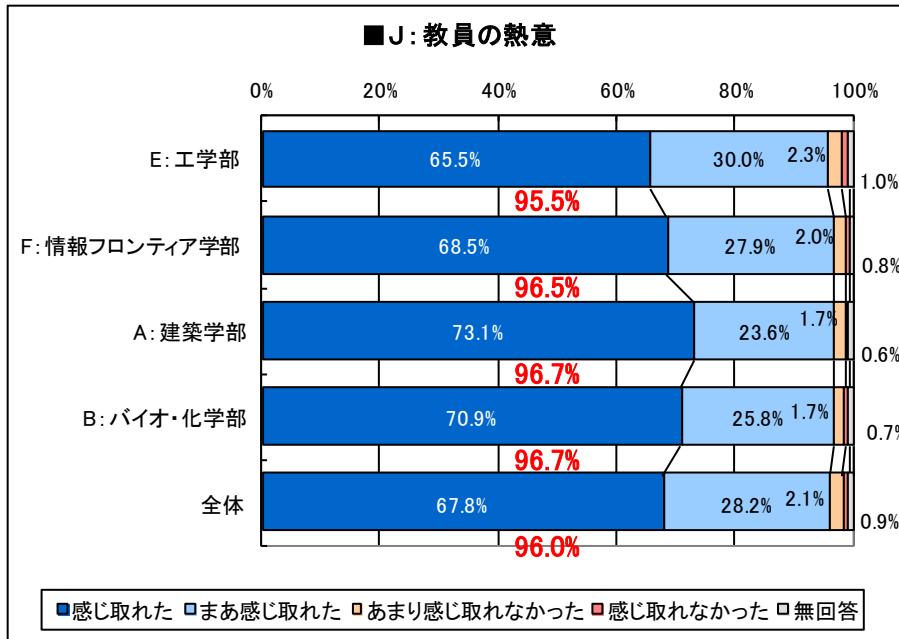
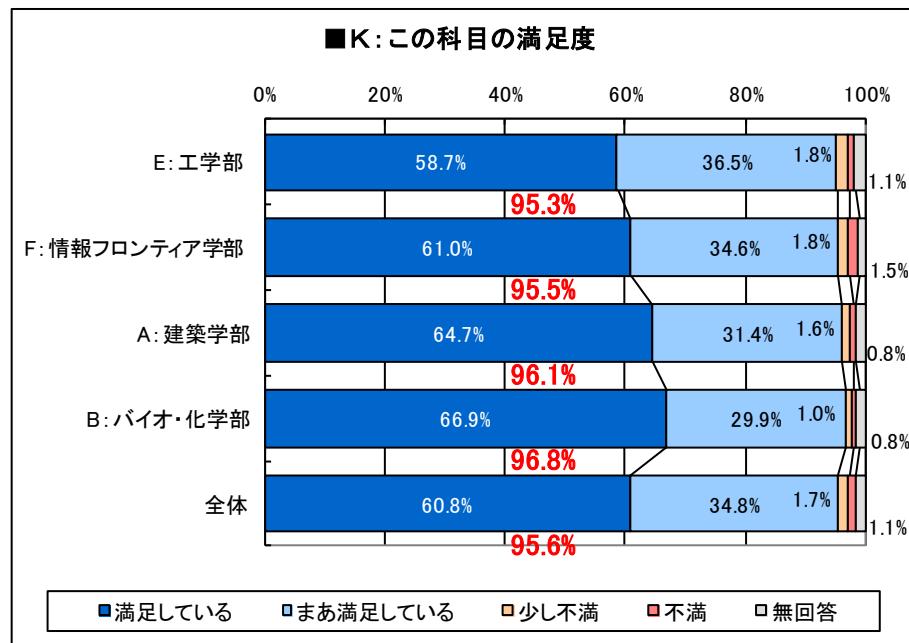
- 「D:予習・復習、授業外学習(レポート、課題、等)」で「1時間程度」までの合計を学部別に見ると、最も多いのは「E:工学部」の74.5%であり、「A:建築学部」が74.2%で続いている。ただし、「3時間以上」は「A:建築学部」が16.8%と最も多い。次いで、「F:情報フロンティア学部」が71.6%、「B:バイオ・化学部」が67.6%で続いている。一方、「学習は特にしなかった」が最も多いのは「B:バイオ・化学部」の10.8%である。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」で肯定的な意見が最も多いのは「E:工学部」の85.3%であり、「B:バイオ・化学部」が83.5%、「A:建築学部」が81.1%、「F:情報フロンティア学部」が80.8%で続き、差は最大で4.5ポイントである。そして、「教科書・指導書はなかった」が最も多いのは「F:情報フロンティア学部」の14.4%である。
- 「F:課題・レポートの適切さ」で肯定的な意見が最も多いのは「F:情報フロンティア学部」の96.1%であるが、「A:建築学部」が95.4%、「B:バイオ・化学部」が95.3%、「E:工学部」が95.2%で続き、いずれの学部も非常に高い評価である。



- 「G:学習支援計画書との一致」で肯定的な意見が最も多いのは「B:バイオ・化学部」の98.2%であり、「A:建築学部」が97.9%、「F:情報フロンティア学部」が97.7%、「E:工学部」が97.6%で続いている。そして、「沿っていた」だけを見てもすべての学部で70%を超え、学習支援計画書の評価は非常に高い。
- 「H:授業の進度の適切さ」で肯定的な意見が最も多いのは「B:バイオ・化学部」の95.1%であり、「F:情報フロンティア学部」が94.6%、「E:工学部」が94.5%、「A:建築学部」が94.0%で続き、授業の進度に関しても全体的に非常に高い評価である。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」で「相談しなかった」の割合を見ると、「F:情報フロンティア学部」が60.2%、「E:工学部」が58.1%であり、この2学部がやや多い。そして、有効性を見ると、否定的な意見はいずれの学部でも3%に満たず、利用者からの評価は非常に高い。



- 「J:教員の熱意」で肯定的な意見が最も多いのは「A:建築学部」と「B:バイオ・化学部」の96.7%であり、「F:情報フロンティア学部」が96.5%、「E:工学部」が95.5%で続き、いずれの学部も非常に高い評価である。そして、「感じ取れた」だけを見ると「A:建築学部」が73.1%と最も多く、教員の熱意を強く感じているようである。
- 「K:この科目的満足度」で肯定的な意見が最も多いのは「B:バイオ・化学部」の96.8%であり、「満足している」も66.9%と最も多い。次いで、「A:建築学部」が96.1%、「F:情報フロンティア学部」が95.5%、「E:工学部」が95.3%で続き、差は最大でも1.5ポイントと小さく、いずれの学部も非常に高い満足度である。



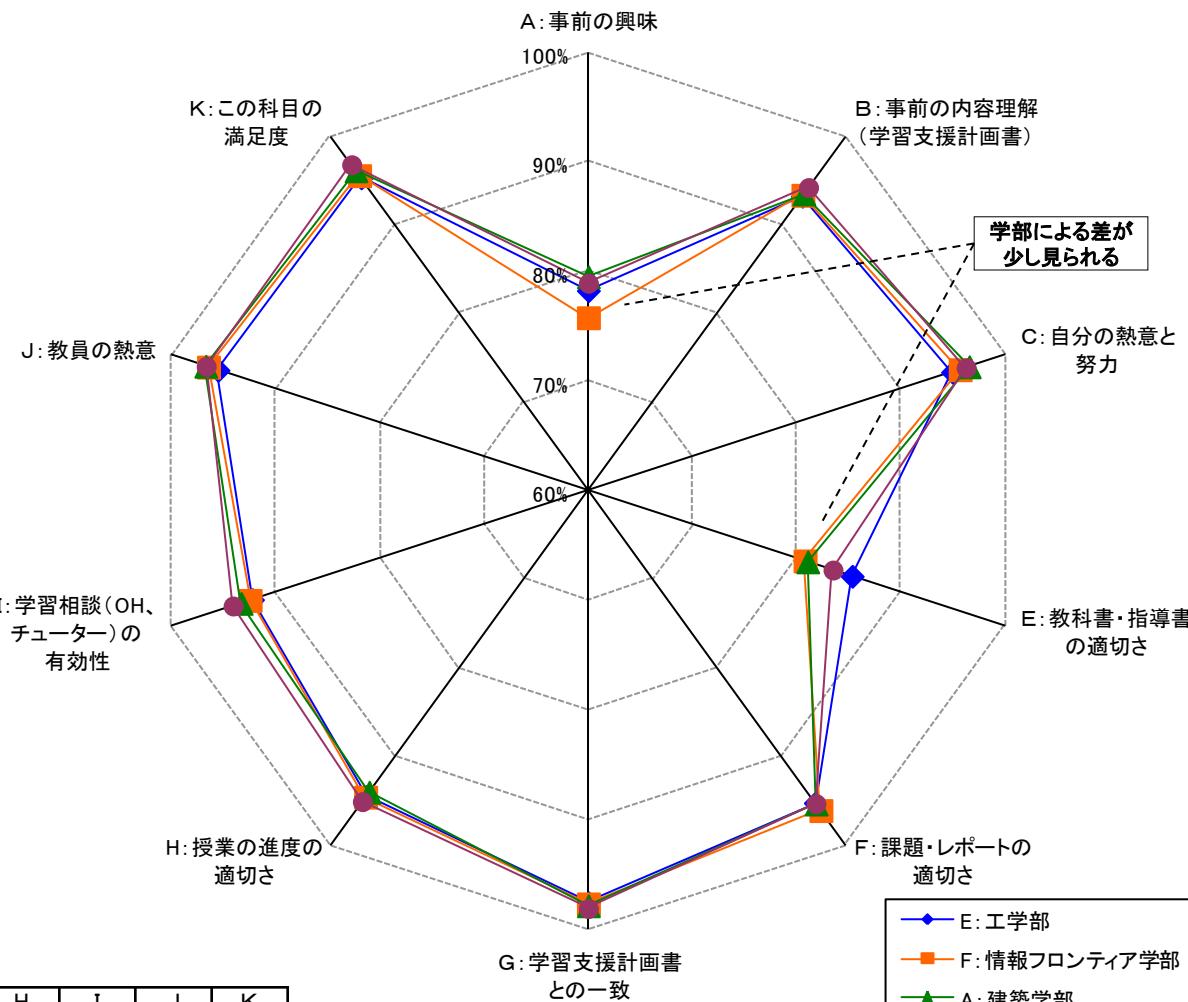
<4-2>肯定的な意見の学部別比較

27

- 肯定的な意見の割合を学部別にレーダーチャートにプロットし、比較している。
- 全体的に学部による大きな差は見られないが、「A:事前の興味」と「E:教科書・指導書の適切さ」で少し差があり、「A:事前の興味」では「F:情報フロンティア学部」の低さが目立っている。
- 差は小さいものの、下表の数値を見ると、「B:バイオ・化学部」は10項目中の6項目で最も高い。一方、「E:工学部」は7項目で最も低い。

■学部別比較レーダーチャート

※「I:学習相談の有効性」は「相談しなかった」を除いた上で「有効であった」「まあ有効であった」の割合を集計した。利用者のみの評価となる。



■学部別比較

| | A | B | C | E | F | G | H | I | J | K |
|---------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| E: 工学部 | 78.2% | 93.2% | 94.9% | 85.3% | 95.2% | 97.6% | 94.5% | 92.2% | 95.5% | 95.3% |
| F: 情報フロンティア学部 | 75.8% | 93.3% | 95.7% | 80.8% | 96.1% | 97.7% | 94.6% | 92.5% | 96.5% | 95.5% |
| A: 建築学部 | 79.5% | 93.5% | 96.6% | 81.1% | 95.4% | 97.9% | 94.0% | 93.3% | 96.7% | 96.1% |
| B: バイオ・化学部 | 78.9% | 94.2% | 96.3% | 83.5% | 95.3% | 98.2% | 95.1% | 94.1% | 96.7% | 96.8% |

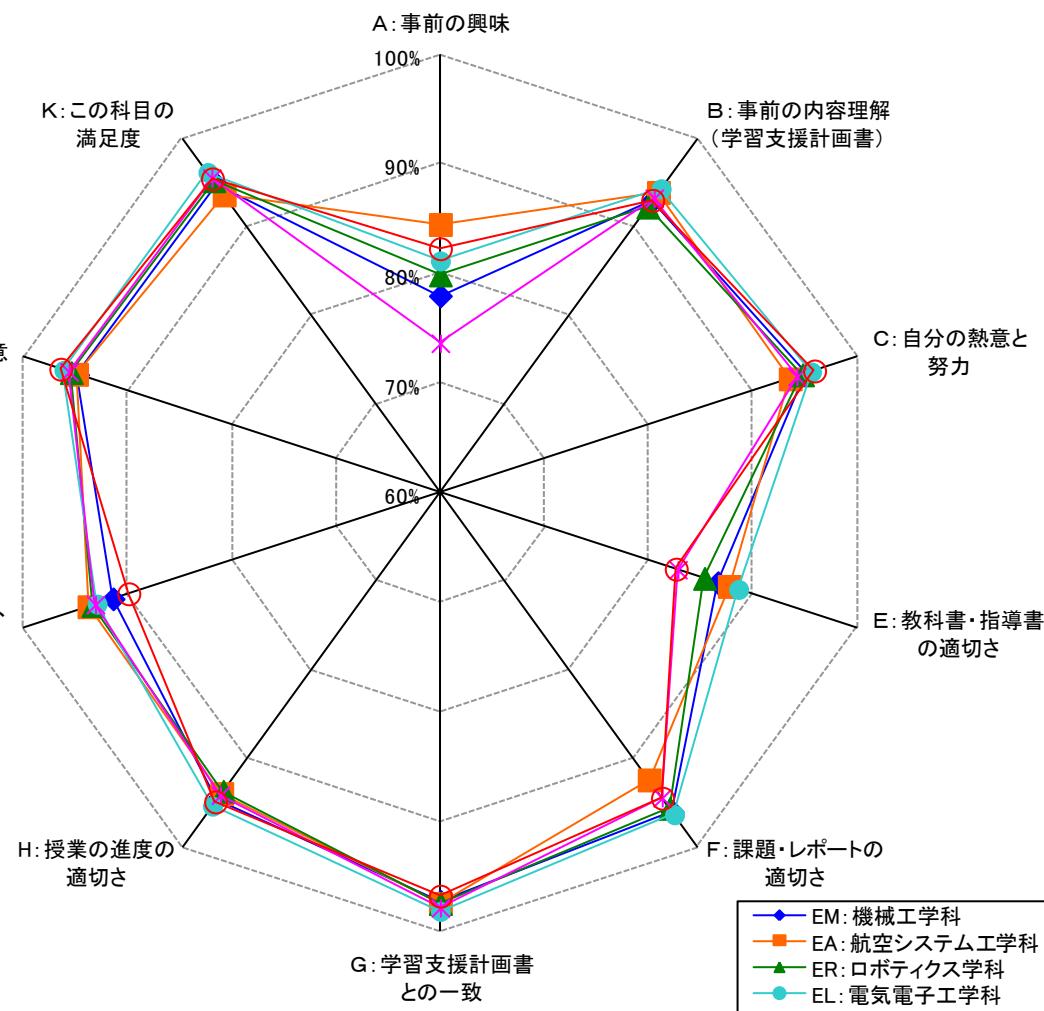
<4-3>肯定的な意見の学科別比較

- 学科数が多いため、学科別集計は学部ごとに分けて比較をしている。
- 「工学部」の各学科の特徴を見ると、「A:事前の興味」「E:教科書・指導書の適切さ」「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」で学科による差が見られる。特に「A:事前の興味」では「EP:情報工学科」の低さが目立ち、「E:教科書・指導書の適切さ」では「EV:環境土木工学科」と「EP:情報工学科」、「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」では「EV:環境土木工学科」が低い。
- 下表の数値を見ると、「EL:電気電子工学科」が10項目中の6項目で最も高く、「EA:航空システム工学科」と「EV:環境土木工学科」が、各々、3項目で最も低い。

■工学部 学科別比較

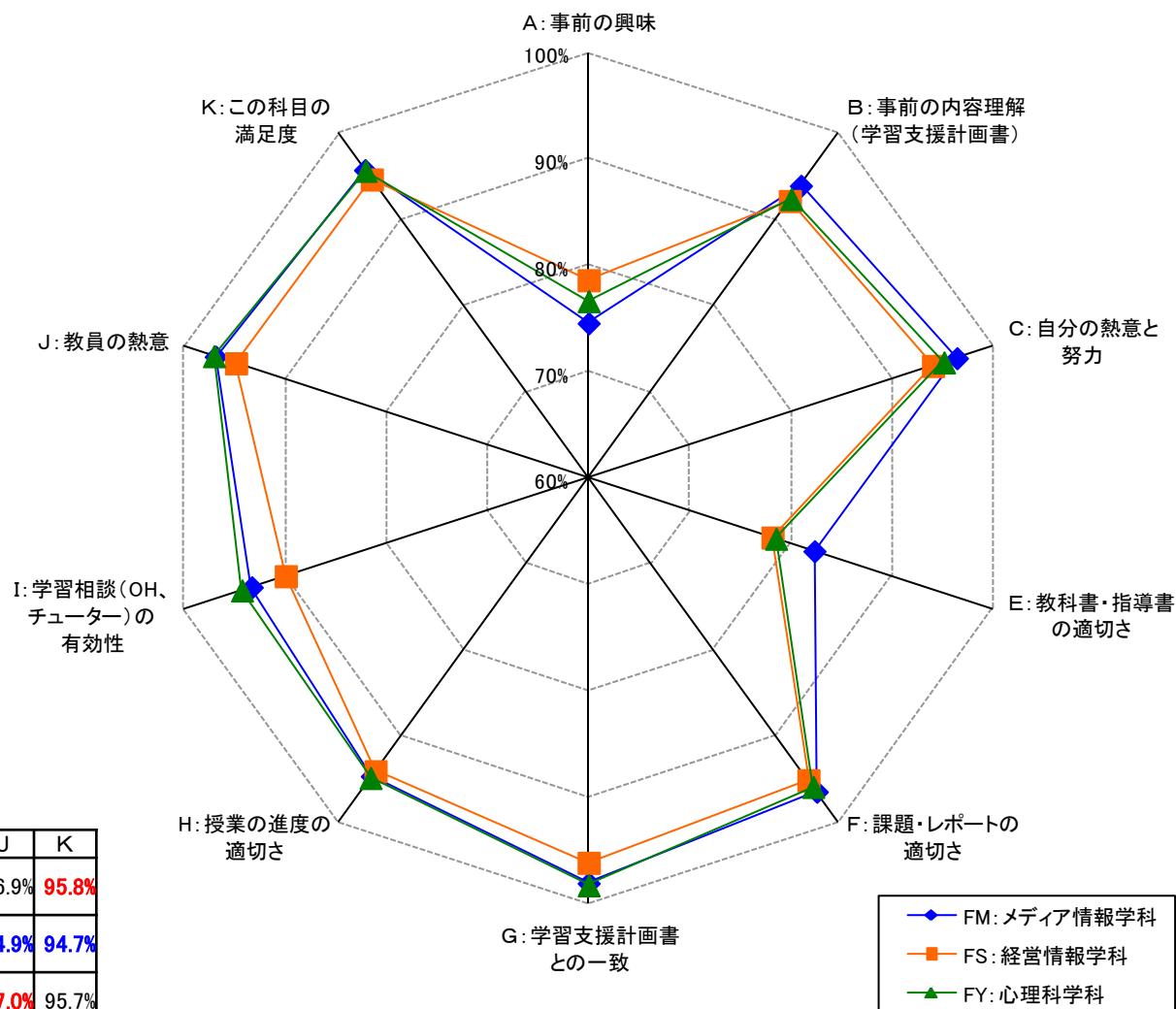
| | A | B | C | E | F | G | H | I | J | K |
|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| EM:機械工学科 | 78.0% | 92.9% | 95.2% | 86.6% | 96.0% | 97.3% | 94.6% | 91.4% | 94.8% | 94.8% |
| EA:航空システム工学科 | 84.5% | 93.9% | 93.6% | 87.7% | 92.4% | 97.5% | 94.0% | 93.7% | 94.9% | 93.6% |
| ER:ロボティクス学科 | 79.9% | 92.2% | 94.8% | 85.3% | 95.6% | 97.5% | 93.7% | 93.3% | 95.4% | 95.2% |
| EL:電気電子工学科 | 81.1% | 94.3% | 95.6% | 88.6% | 96.4% | 98.2% | 95.4% | 92.9% | 96.1% | 96.1% |
| EP:情報工学科 | 73.6% | 93.2% | 94.2% | 82.8% | 94.4% | 97.9% | 94.2% | 93.1% | 95.6% | 95.5% |
| EV:環境土木工学科 | 82.3% | 93.0% | 95.9% | 82.6% | 94.5% | 96.8% | 94.9% | 89.9% | 96.4% | 95.4% |

■工学部 学科別比較レーダーチャート



- 「情報フロンティア学部」では、全体的にわずかな差があり、「FS:経営情報学科」は全体的に低めであり、10項目中の9項目で最も低い。
- 一方、「FM:メディア情報学科」は「E:教科書・指導書の適切さ」の高さが目立ち、5項目で最も高い。そして、「FY:心理科学科」は特に目立つものはなかったが、4項目で最も高い。

■情報フロンティア学部 学科別比較レーダーチャート

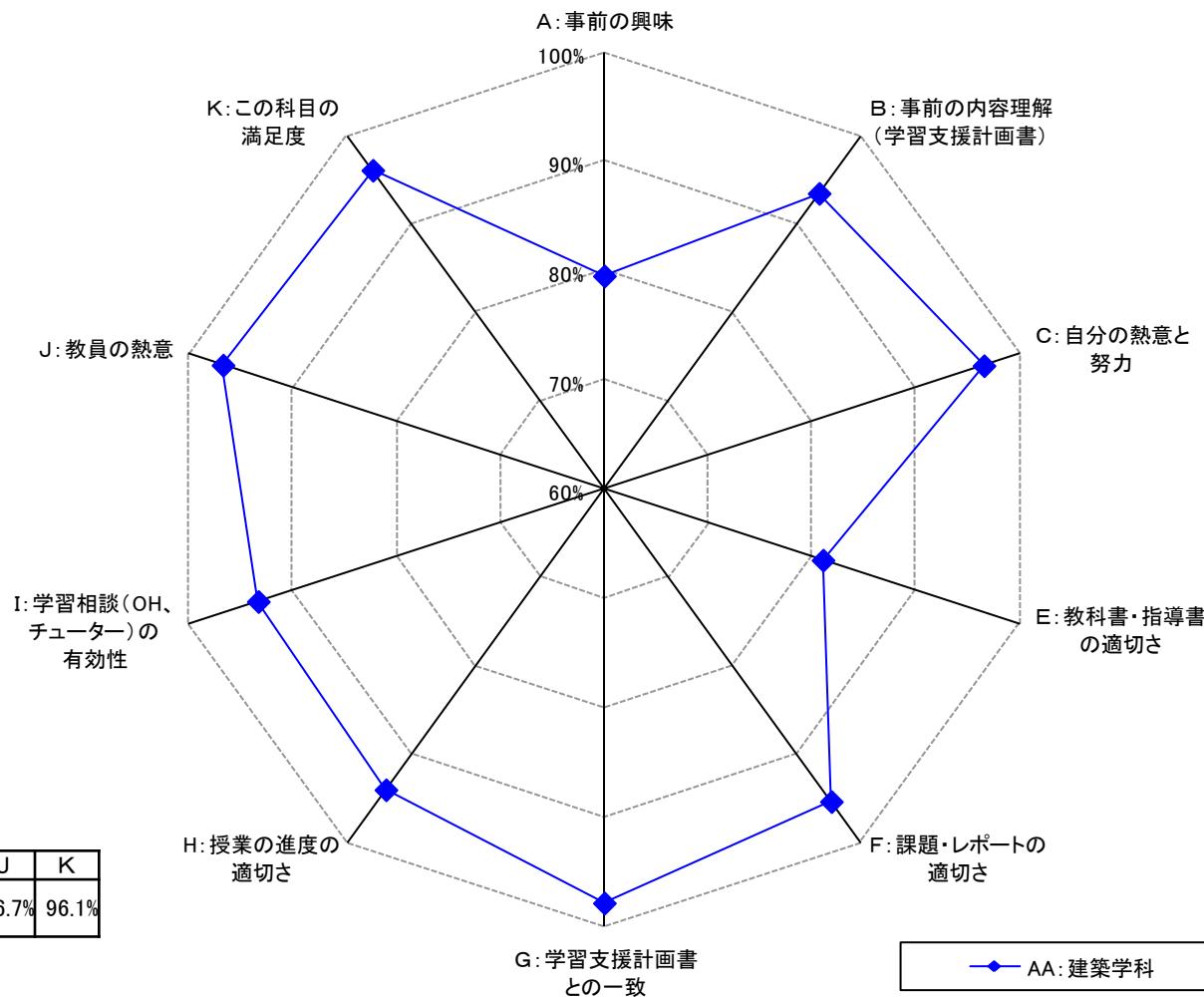


■情報フロンティア学部 学科別比較

| | A | B | C | E | F | G | H | I | J | K |
|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| FM: メディア情報学科 | 74.5% | 94.0% | 96.4% | 82.3% | 96.5% | 98.1% | 94.7% | 93.3% | 96.9% | 95.8% |
| FS: 経営情報学科 | 78.6% | 92.2% | 94.0% | 78.2% | 95.2% | 96.2% | 94.1% | 89.9% | 94.9% | 94.7% |
| FY: 心理科学科 | 76.6% | 92.4% | 95.1% | 78.5% | 95.9% | 98.3% | 94.9% | 94.3% | 97.0% | 95.7% |

- 「建築学部」は「AA:建築学科」だけなので、比較は行っていない。

■建築学部 学科別比較レーダーチャート



■建築学部 学科別比較

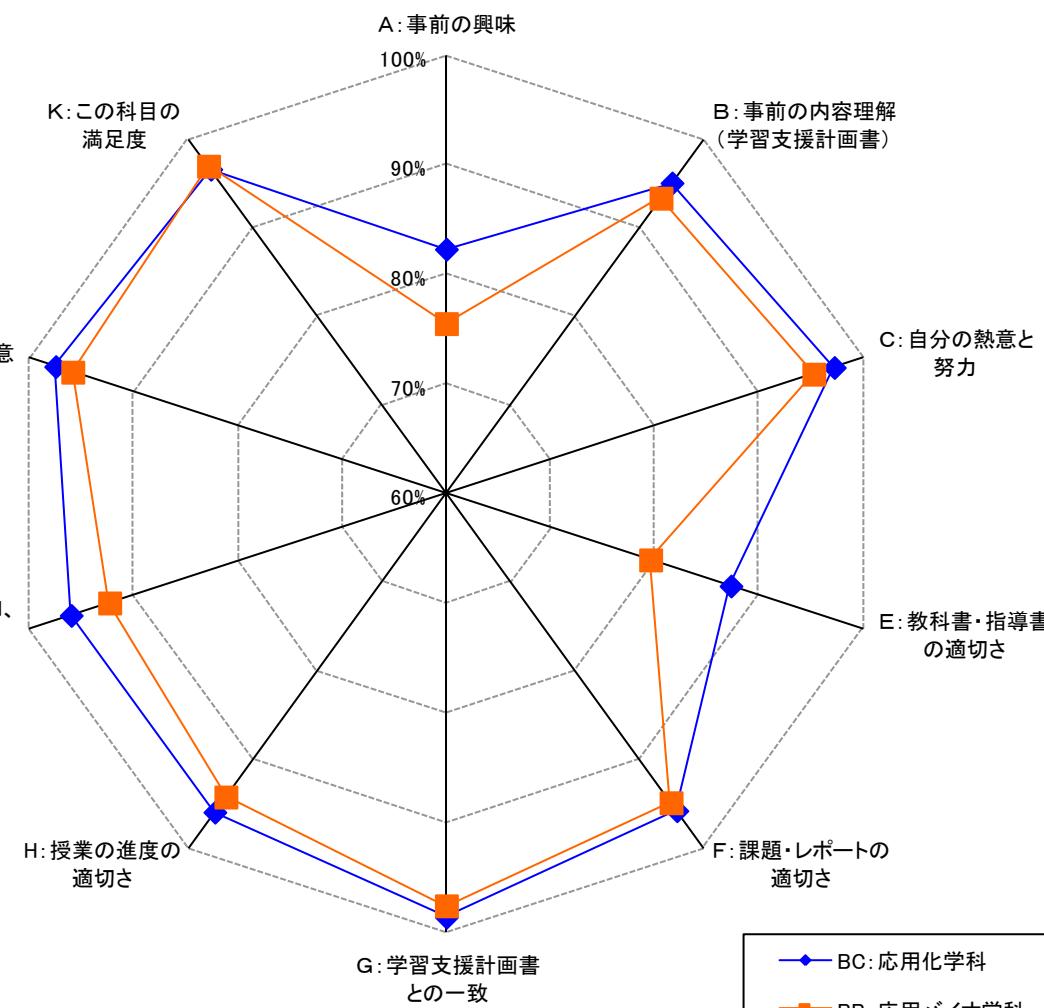
| | A | B | C | E | F | G | H | I | J | K |
|----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| AA: 建築学科 | 79.5% | 93.5% | 96.6% | 81.1% | 95.4% | 97.9% | 94.0% | 93.3% | 96.7% | 96.1% |

- 「バイオ・化学部」は2学科の比較になるが、「BC:応用化学科」は9項目で高く、特に「A:事前の興味」と「E:教科書・指導書の適切さ」で差がついている。
- 「BB:応用バイオ学科」が高いのは「K:この科目の満足度」だけであるが、差はわずかであり、満足度としては同程度である。

■バイオ・化学部 学科別比較

| | A | B | C | E | F | G | H | I | J | K |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| BC:応用化学科 | 82.3% | 95.0% | 97.2% | 87.3% | 95.8% | 98.7% | 95.9% | 96.0% | 97.5% | 96.6% |
| BB:応用バイオ学科 | 75.5% | 93.3% | 95.3% | 79.6% | 94.9% | 97.6% | 94.2% | 92.3% | 95.9% | 96.9% |

■バイオ・化学部 学科別比較レーダーチャート

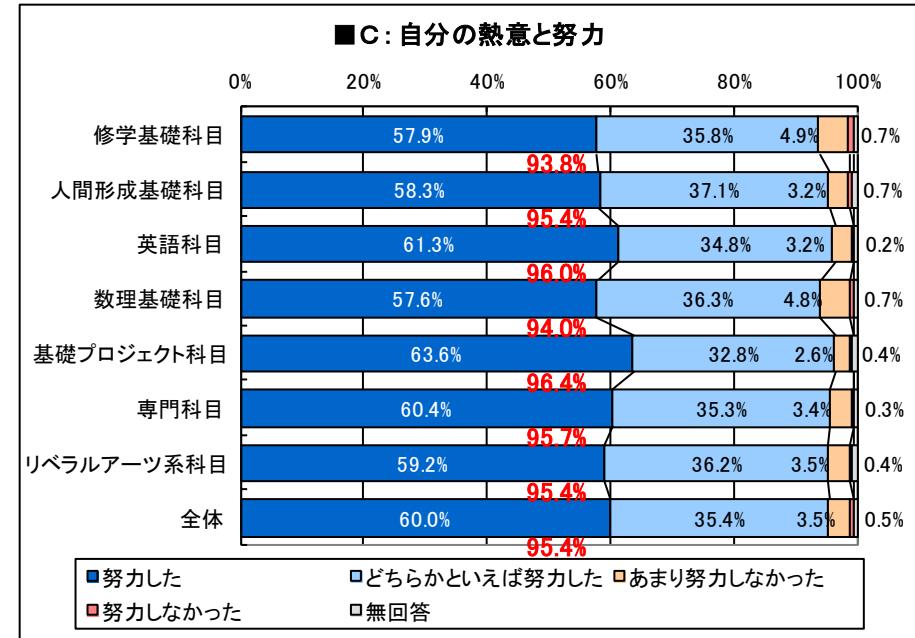
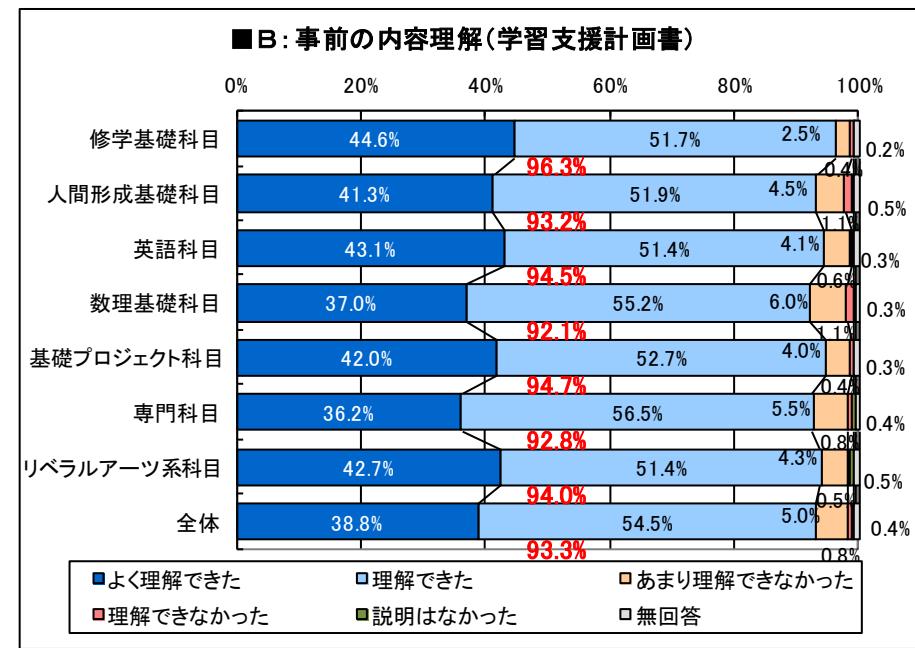
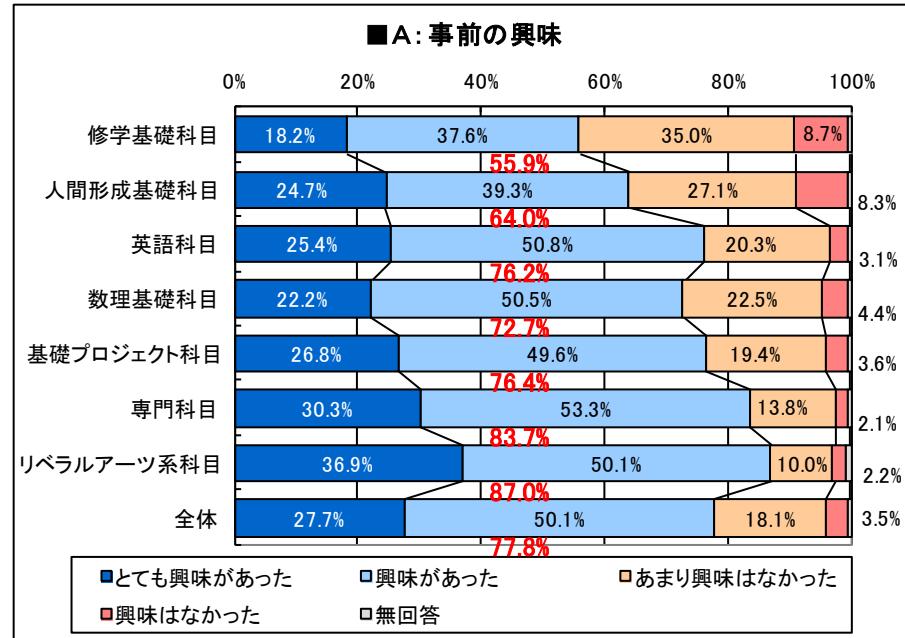


<5>科目区別の分析

<5-1>科目区別の比較

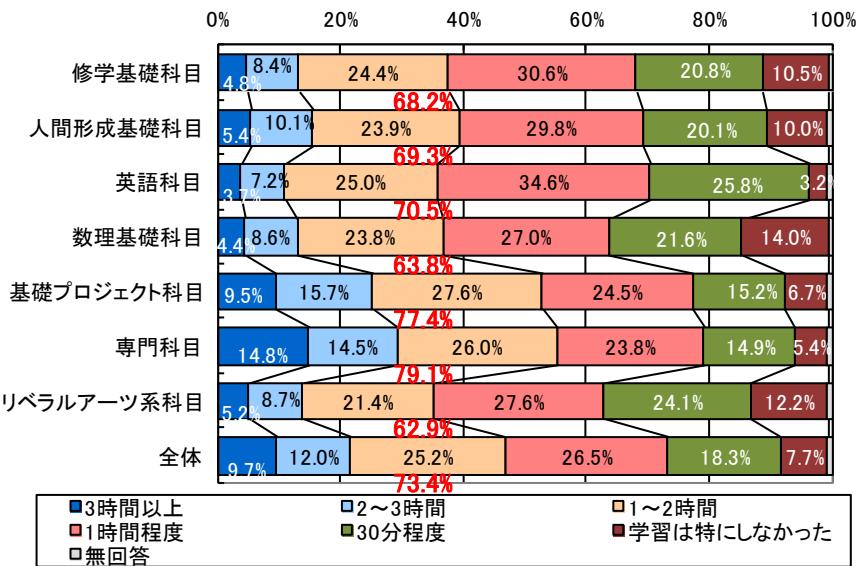
33

- 科目区分は、今回から7区分となっており、その評価を比較した。
- 「A:事前の興味」で肯定的な意見が最も多いのは「リベラルアーツ系科目」の87.0%であり、「専門科目」が83.7%、「基礎プロジェクト科目」が76.4%で続いている。一方、最も少いのは「修学基礎科目」の55.9%で、少なさが目立ち、差は最大で31.1ポイントと大きい。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」で肯定的な意見が最も多いのは「修学基礎科目」の96.3%である。一方、最も少いのは「数理基礎科目」の92.1%であり、差は4.2ポイントと小さく、事前の内容理解の評価はいずれの科目区分でも高い。
- 「C:自分の熱意と努力」の肯定的な意見もすべての科目区分で9割を超え、高い熱意と努力が感じられる。そして、「努力した」だけを見ると、「基礎プロジェクト科目」が63.6%で最も多く、「英語科目」が61.3%、「専門科目」が60.4%で続いている。

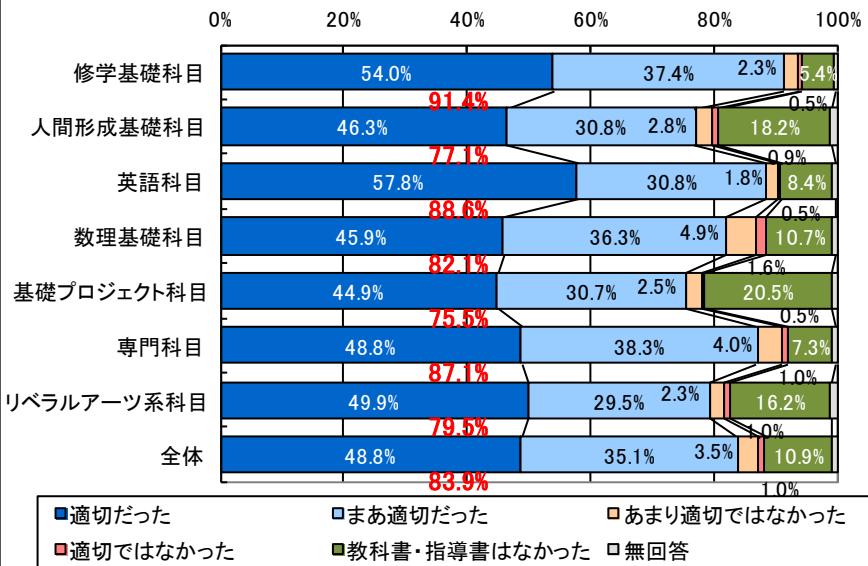


- 「D:予習・復習、授業外学習(レポート、課題、等)」で「1時間程度」までの合計を科目区別に見ると、「専門科目」が79.1%、「基礎プロジェクト科目」が77.4%で多さが目立つ。この2つの科目区分では「3時間以上」も多く、しっかりと学習時間が確保されているようであった。一方、少ないのは「リベラルアーツ系科目」の62.9%と「数理基礎科目」の63.8%であり、この2つは「学習は特にしなかった」も多い。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」で肯定的な意見が最も多いのは「修学基礎科目」の91.4%であり、「英語科目」が88.6%、「専門科目」が87.1%で続いている。一方、最も少ないのは「基礎プロジェクト科目」の75.5%であり、「教科書・指導書はなかった」が20.5%と多い。
- 「F:課題・レポートの適切さ」は全体的に評価が高く、いずれの科目区分でも肯定的な意見が9割を超えており。最も多いのは「英語科目」の96.8%、最も少ないのは「人間形成基礎科目」の94.7%であり、差は2.1ポイントと小さい。

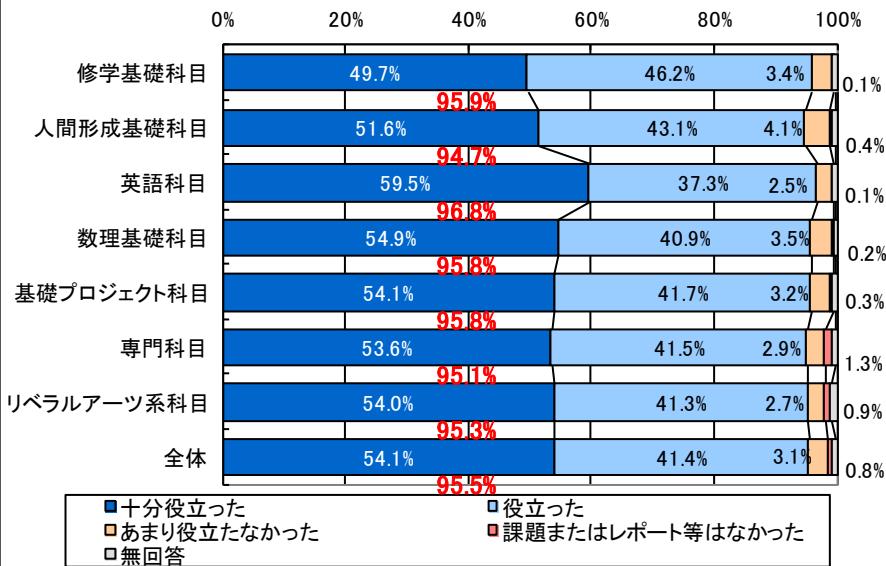
■ D: 予習・復習、授業外学習(レポート、課題、等)



■ E: 教科書・指導書の適切さ

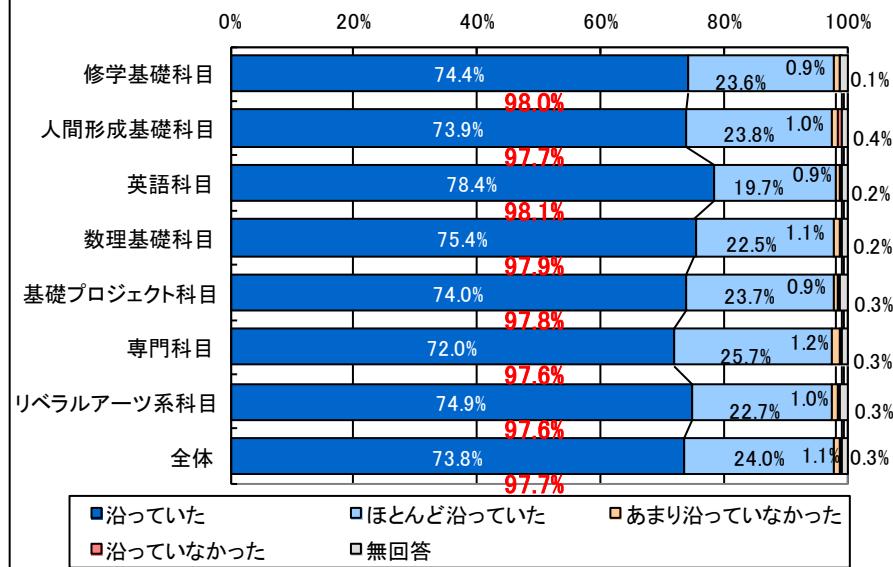


■ F: 課題・レポートの適切さ

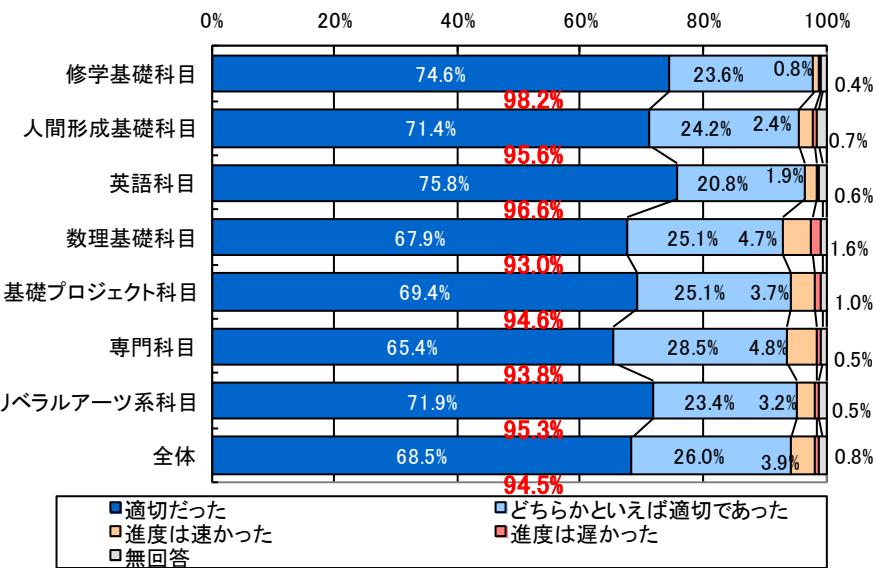


- 「G:学習支援計画書との一致」は全体的に評価が非常に高く、すべての科目区分で肯定的な意見が97%以上である。「沿っていた」だけを見てもすべてで70%を超え、最も多いのは「英語科目」の78.4%、最も少ないのは「専門科目」の72.0%である。
- 「H:授業の進度の適切さ」もすべての科目区分で肯定的な意見が9割を超える高い評価である。「適切だった」だけを見ると、最も多いのは「英語科目」の75.8%、最も少ないのは「専門科目」の65.4%である。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」で「相談しなかった」の割合を見ると、「修学基礎科目」が47.3%とやや少ないが、他はすべて5割を超える。最も多い「リベラルアーツ系科目」では62.0%が「相談しなかった」と答えている。そして、利用者の評価を見ると、いずれの科目区分でも否定的な意見は3%以内であり、高い評価である。

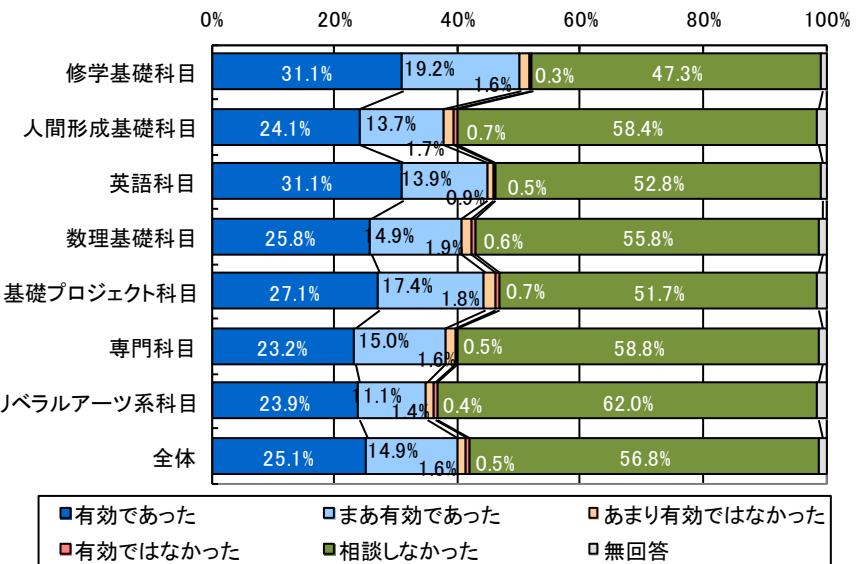
■ G: 学習支援計画書との一致



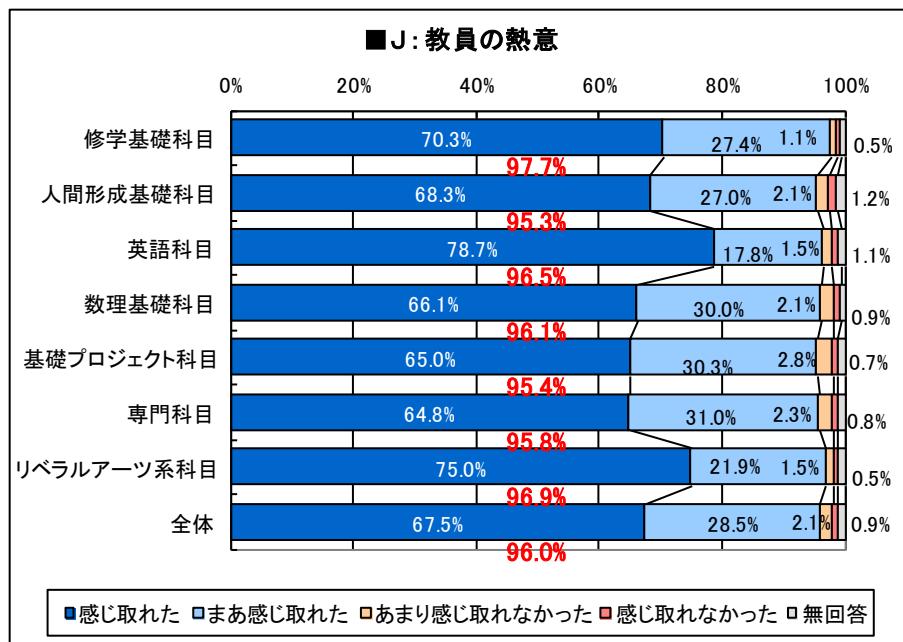
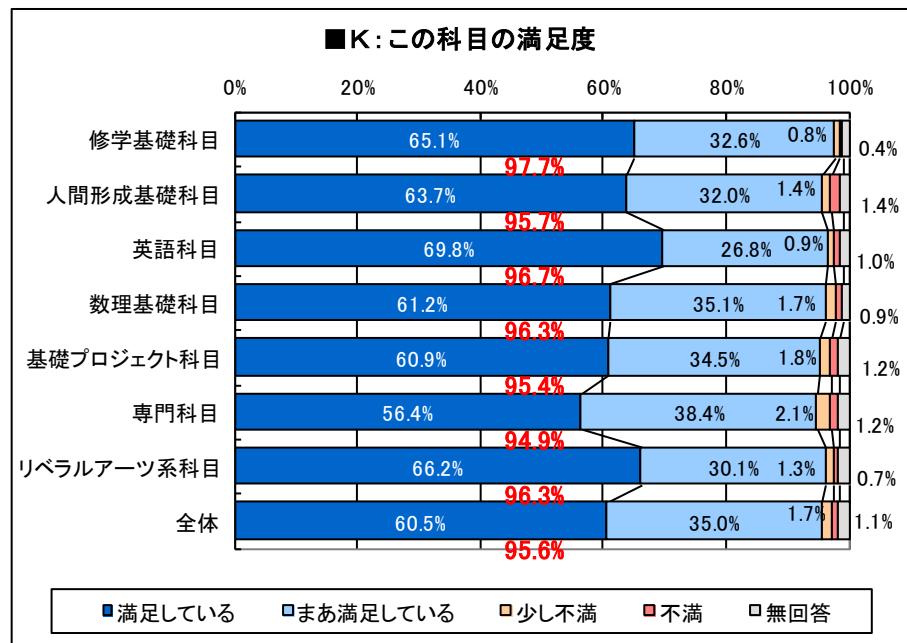
■ H: 授業の進度の適切さ



■ I: 学習相談(OH、チューター)の有効性



- 「J:教員の熱意」はすべての科目区分で肯定的な意見が95%を超える、非常に高い評価である。「感じ取れた」だけを見ると「英語科目」が78.7%、「リベラルアーツ系科目」が75.0%で多さが目立ち、この2つの科目区分では教員の熱意を強く感じているものと思われる。
- 「K:この科目的満足度」はほとんどの科目区分で肯定的な意見が95%を超える、非常に高い満足度である。最も多いのは「修学基礎科目」の97.7%、最も少ないのは「専門科目」の94.9%であり、差は2.8ポイントと小さい。そして、「満足している」だけを見ると「英語科目」が69.8%で最も多く、「リベラルアーツ系科目」が66.2%で続き、この2つの科目区分で強い満足度が感じられる。一方、最も少ないのは「専門科目」の56.4%であるが、それでも5割を超えてい



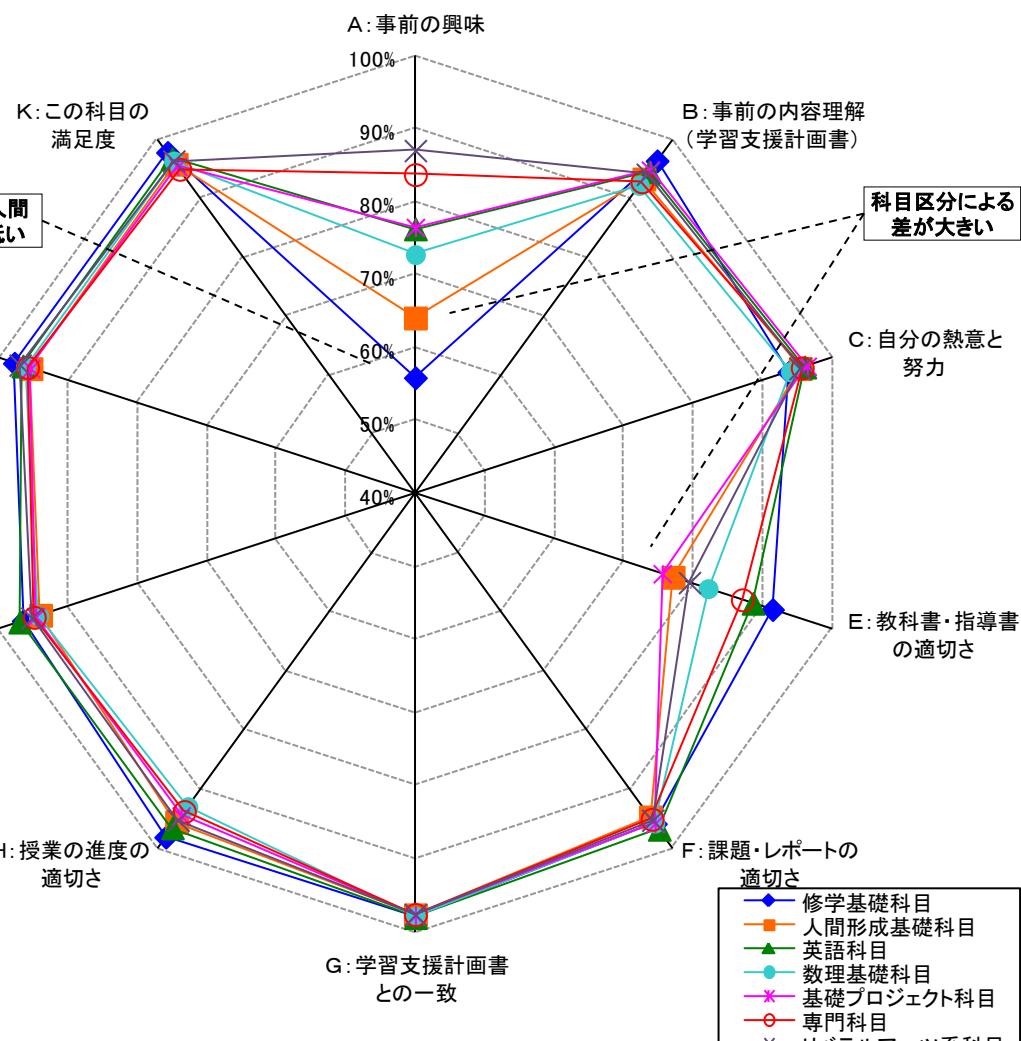
<5-2>肯定的な意見の科目区別比較

- 肯定的な意見の割合を、科目区別別にレーダーチャートで比較している。
- 科目区分による差が大きいのは、「A:事前の興味」と「E:教科書・指導書の適切さ」の2項目であるが、これまでに見た「学年別」「学部・学科別」では見られないような大きな差がついている。
- 上記の2項目のうち、「A:事前の興味」では「リベラルアーツ系科目」「専門科目」が高く、「修学基礎科目」「人間形成基礎科目」が低くなっている。興味の強さの差が現れている。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」では「修学基礎科目」が高く、「基礎プロジェクト科目」が低いが、「教科書・指導書はなかった」の差もあると思われる。
- 下表の数値を見ると、「修学基礎科目」は5項目で最も高く、「人間形成基礎科目」は3項目で最も低くなっている。特定の科目区分が全体的に高い、低いという傾向は見られない。

■科目の評価比較

| | A | B | C | E | F | G | H | I | J | K |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 修学基礎科目 | 55.9% | 96.3% | 93.8% | 91.4% | 95.9% | 98.0% | 98.2% | 96.5% | 97.7% | 97.7% |
| 人間形成基礎科目 | 64.0% | 93.2% | 95.4% | 77.1% | 94.7% | 97.7% | 95.6% | 94.0% | 95.3% | 95.7% |
| 英語科目 | 76.2% | 94.5% | 96.0% | 88.6% | 96.8% | 98.1% | 96.6% | 96.9% | 96.5% | 96.7% |
| 数理基礎科目 | 72.7% | 92.1% | 94.0% | 82.1% | 95.8% | 97.9% | 93.0% | 94.2% | 96.1% | 96.3% |
| 基礎プロジェクト科目 | 76.4% | 94.7% | 96.4% | 75.5% | 95.8% | 97.8% | 94.6% | 94.7% | 95.4% | 95.4% |
| 専門科目 | 83.7% | 92.8% | 95.7% | 87.1% | 95.1% | 97.6% | 93.8% | 94.9% | 95.8% | 94.9% |
| リベラルアーツ系科目 | 87.0% | 94.0% | 95.4% | 79.5% | 95.3% | 97.6% | 95.3% | 95.2% | 96.9% | 96.3% |

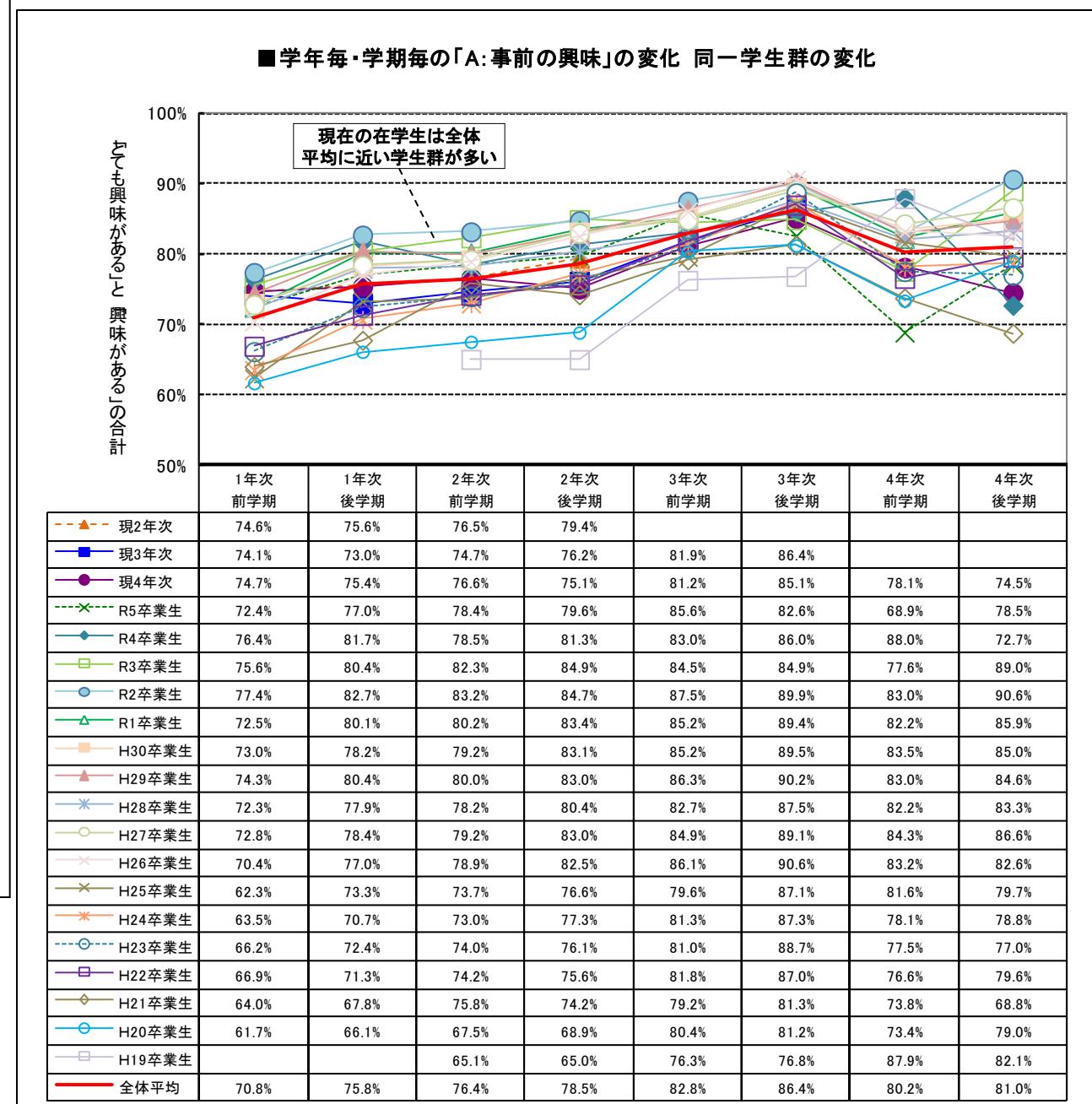
■科目区別比較レーダーチャート



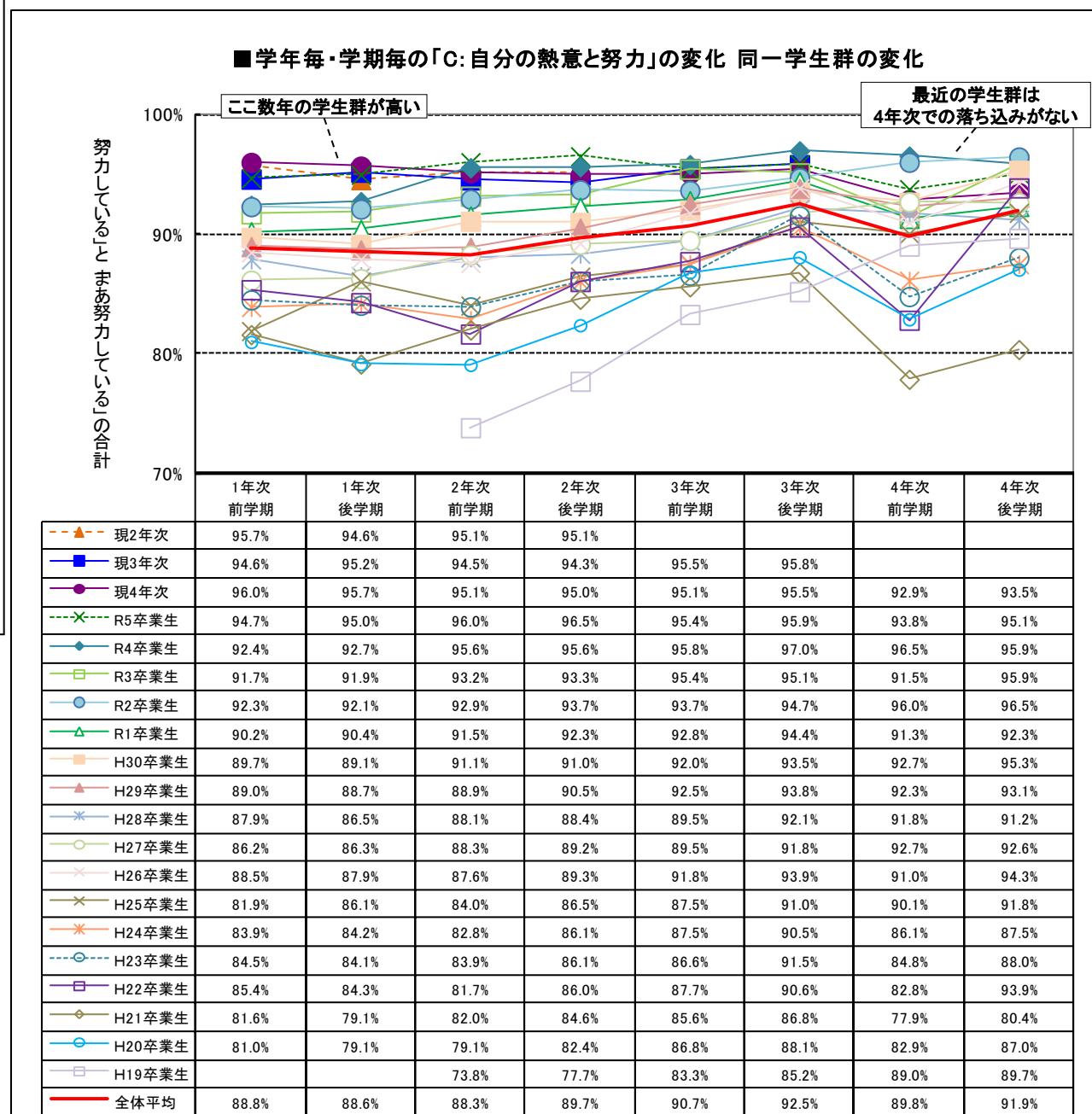
<6>同一学生群の分析

<6-1>同一学生群の変化に関する分析

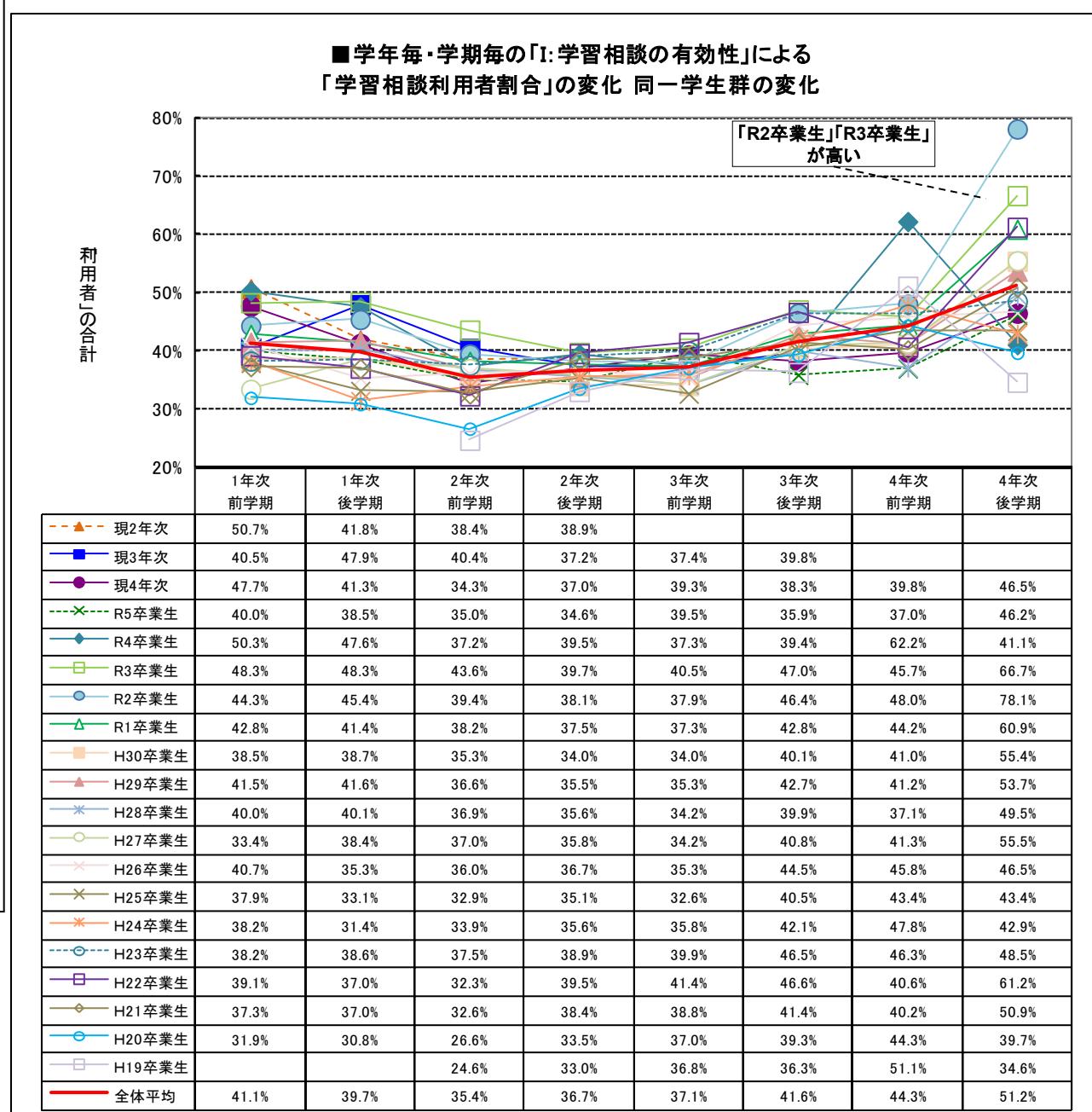
- 同一学生群が学年が上がるにつれてどのような意識変化をしているのか、主要な指標を追跡してグラフ化した。
- 「H21卒業生」の段階で学期が3学期制から2学期制となったため、「H21卒業生」以前の学生群は「秋学期」を「後学期」として集計し、「冬学期」のデータは除外している。
- 「A:事前の興味」の「全体平均」を見ると、「1年次-前学期」には70.8%であり、それ以降は「3年次-後学期」の86.4%まで徐々に増加している。そして、「4年次-前学期」で6.2ポイント低下して、「4年次-後学期」までほぼ横ばいである。
- 学生群ごとに見ると、以前は4年間を通して低い学生群が多かったが、「H26卒業生」あたりから肯定的な意見が増えて「2年次」頃から8割を超えており、授業に対する事前の興味が強くなってきていたようであった。特に「R2卒業生」などは4年間を通じて肯定的な意見が多い状態を維持したまま卒業に至っている。
- 一方、現在の在学生は全体的に低めで、「現2年次」は「全体平均」に近く、「現3年次」「現4年次」は「全体平均」を下回る傾向も見られる。また、「R5卒業生」は「4年次-前学期」で急降下するなど、ここ数年の学生で事前の興味が低い傾向が続いている。



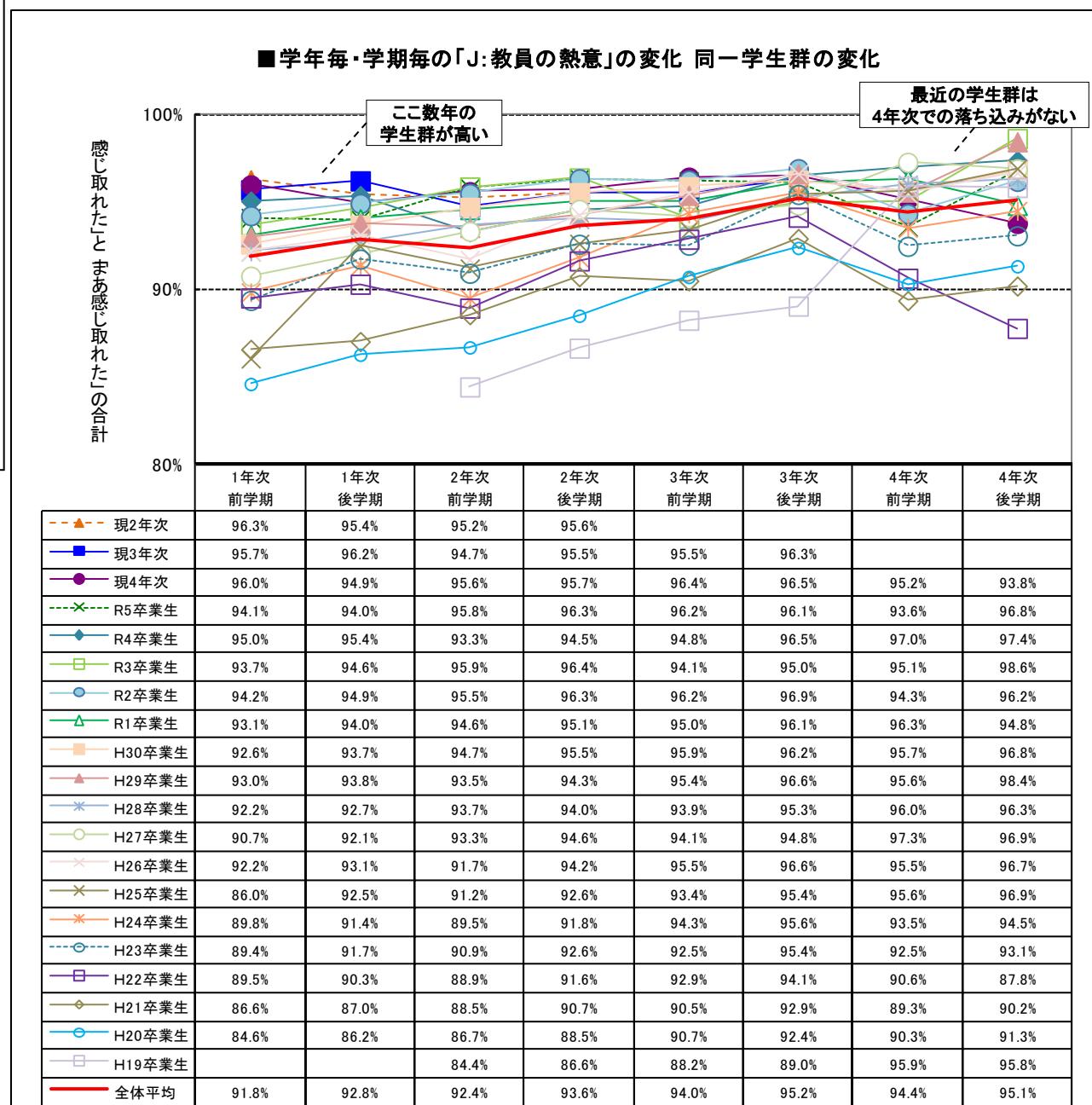
- 「C:自分の熱意と努力」の「全体平均」を見ると、「1年次-前学期」から「2年次-前学期」にかけて横ばいの後、「3年次-後学期」にかけてゆるやかに増加し、「4年次-前学期」で低下して「4年次-後学期」で再び増加している。ただし、いずれの変化も大きいものではなく、熱意と努力は4年間であまり大きく変動していない。
- 学生群ごとに見ると、以前は「H20卒業生」「H21卒業生」「H22卒業生」「H23卒業生」のように、4年次で大きく低下する学生群も見られるが、ここ数年は低学年の時点から高く、4年間を通じて中だるみなく卒業に至るケースが増加しているように思われる。
- 特に現在の在学生は「1年次-前学期」から非常に強い熱意を持っており、「現2年次」「現3年次」「現4年次」はいずれも、過去最高か、それに近い高さであり、学生の意識の変化が感じられる。



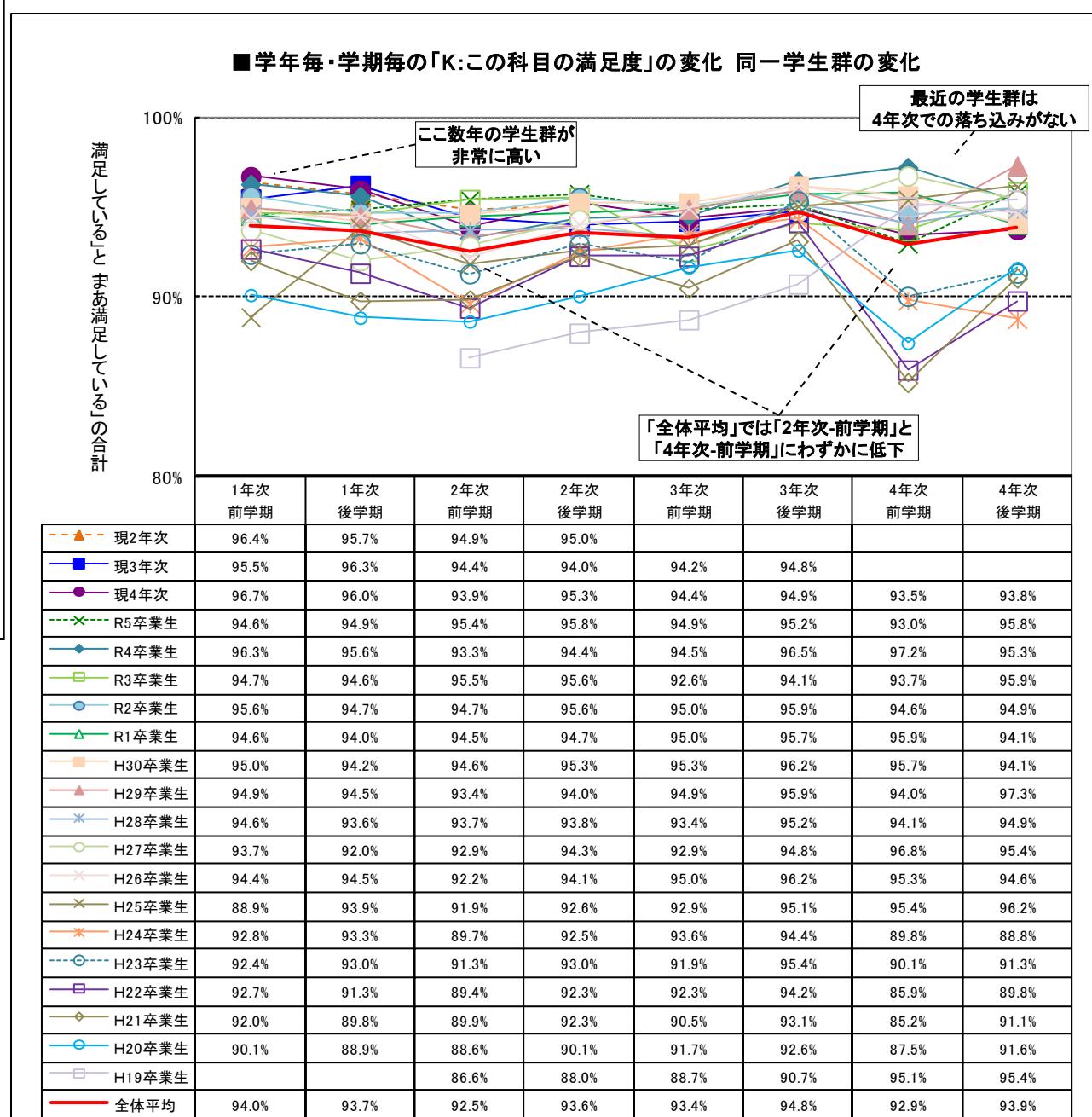
- 「I:学習相談の有効性」は内容の評価ではなく、「学習相談利用者割合」の変化を見ている。
- 「学習相談利用者割合」の「全体平均」は、「1年次-前学期」から「2年次-前学期」にかけてやや低下し、その後は「4年次-後学期」にかけて徐々に増加している。利用者の割合は約35%から約50%に収まり、一定割合の学生は継続的に学習相談を利用しているようである。
- 各学生群の動きを見ると、「2年次-後学期」から「3年次-後学期」にかけてはバラツキが少ないが、「4年次」になると大きな差がついており、特に「4年次-後学期」の差は大きい。
- 「4年次」の時期に特徴的であったのは「R2卒業生」「R3卒業生」などであり、「4年次-後学期」での利用率が一気に上がっている。また、「R4卒業生」は「4年次-前学期」に大きく向上し、「4年次-後学期」に一気に低下している。
- 他の指標と比べて、以前の学生群とこ数年の学生群との間に大きな差は見られないが、「現2年次」「現4年次」「R4卒業生」「R3卒業生」などは、「1年次-前学期」から利用率が高く、入学直後でも学習相談が使いやすくなっているのではないかと思われる。



- 「J:教員の熱意」の「全体平均」を見ると、わずかな低下はあるものの継続的に90%以上のまま緩やかな右肩上がりで推移し、4年間を通してしっかりと教員の熱意を感じている様子がうかがえる。
- 学生群の特徴を見ると、最近の学生群では「4年次-前学期」での中だるみのような低下がなく、「1年次-前学期」から高い評価のまま卒業に至る学生群が増加している。
- ここ数年の学生群は「1年次-前学期」から肯定的な意見が非常に多く、「現2年次」「現3年次」「現4年次」は、これまでのトップ3の評価であり、入学直後から教員の熱意を強く感じているようである。



- 「K:この科目の満足度」の「全体平均」を見ると、「2年次-前学期」と「4年次-前学期」にわずかに低下するものの、4年間を通して92%から94%の学生が満足と答えており、非常に高い満足度となっている。
- 以前の学生群は「4年次-前学期」で満足度が大きく低下する中だるみのような状況が見られるが、「H26卒業生」あたりからは他の指標と同様に4年間の変動が少なくなってきており、満足度が高いまま卒業に至ることが普通になってきているようである。
- ここ数年の学生群の満足度は「1年次-前学期」から非常に高く、「現2年次」「現3年次」「現4年次」「R4卒業生」「R2卒業生」などは、「1年次-前学期」から満足度が95%を超えており。そして、それ以降も高い満足度を保つ学生群が多く、「R4卒業生」は「4年次-前学期」で在学中の最高の満足度になるなど、学生の意識の変化がうかがえる。

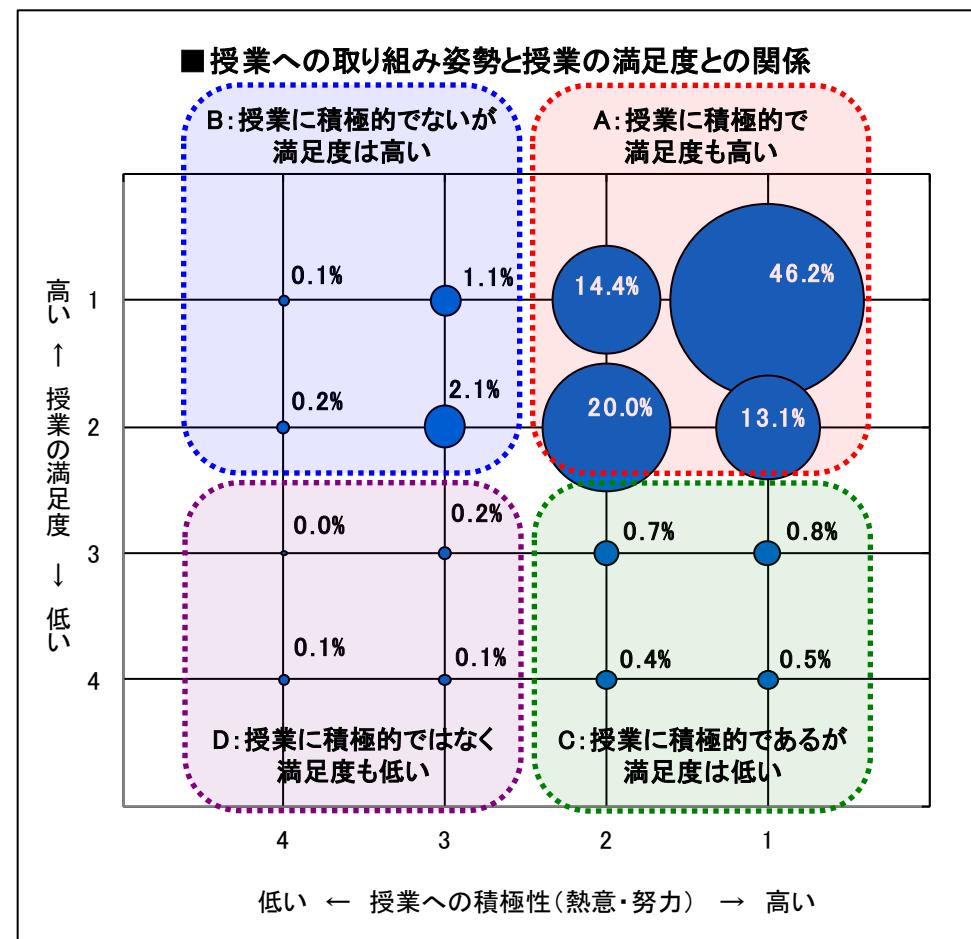


<7>授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析

<7-1>授業への取り組み姿勢と授業の満足度との関係

45

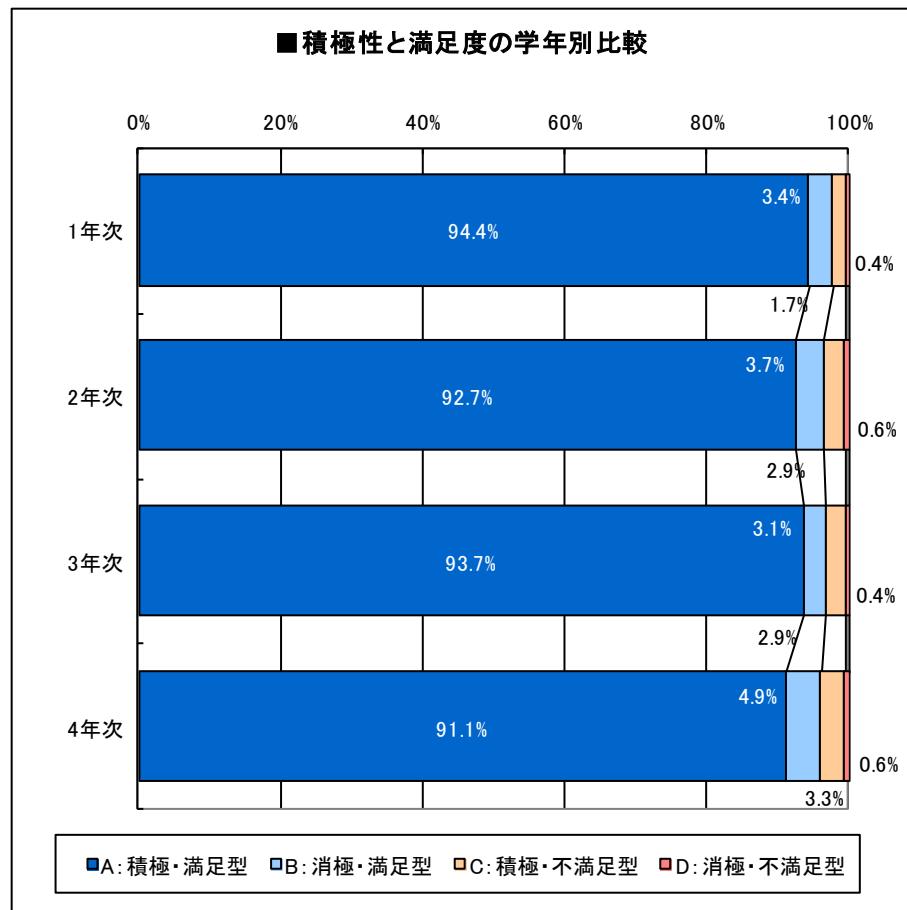
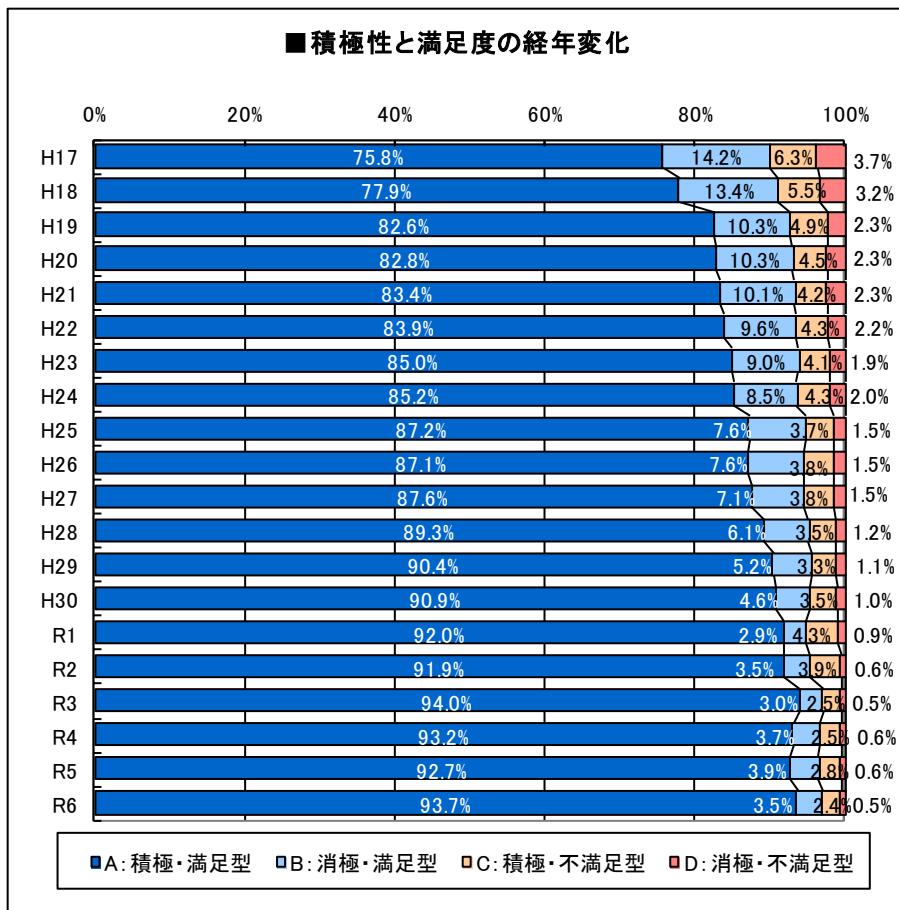
- 「C:自分の熱意と努力」(積極性)と「K:この科目的満足度」の2つの指標を掛け合わせ、4つのグループに分けて比較した。
- 「A:授業に積極的で満足度も高い」は全体の93.7%を占めている。内訳を見ると、「満足度」「積極性」が共に高い学生が46.2%であり、半数近くが非常に積極的で満足度が高く、充実していると答えている。
- 「B:授業に積極的でないが満足度は高い」というグループは3.5%である。これは授業には積極的ではないものの満足度は高いという学生群であり、教員の指導で引っ張られているようなケースが考えられる。
- 「C:授業に積極的であるが満足度は低い」というグループは2.4%である。これは授業には積極的に取り組んでいるものの満足度が低いという学生群であり、授業の内容や指導方法などに不満を持っているようなケースが考えられる。
- 「D:授業に積極的ではなく満足度も低い」というグループは0.5%とわずかである。これは最も課題が多く、退学予備軍にも近いと思われ、しっかりとしたフォローが必要だと思われる。



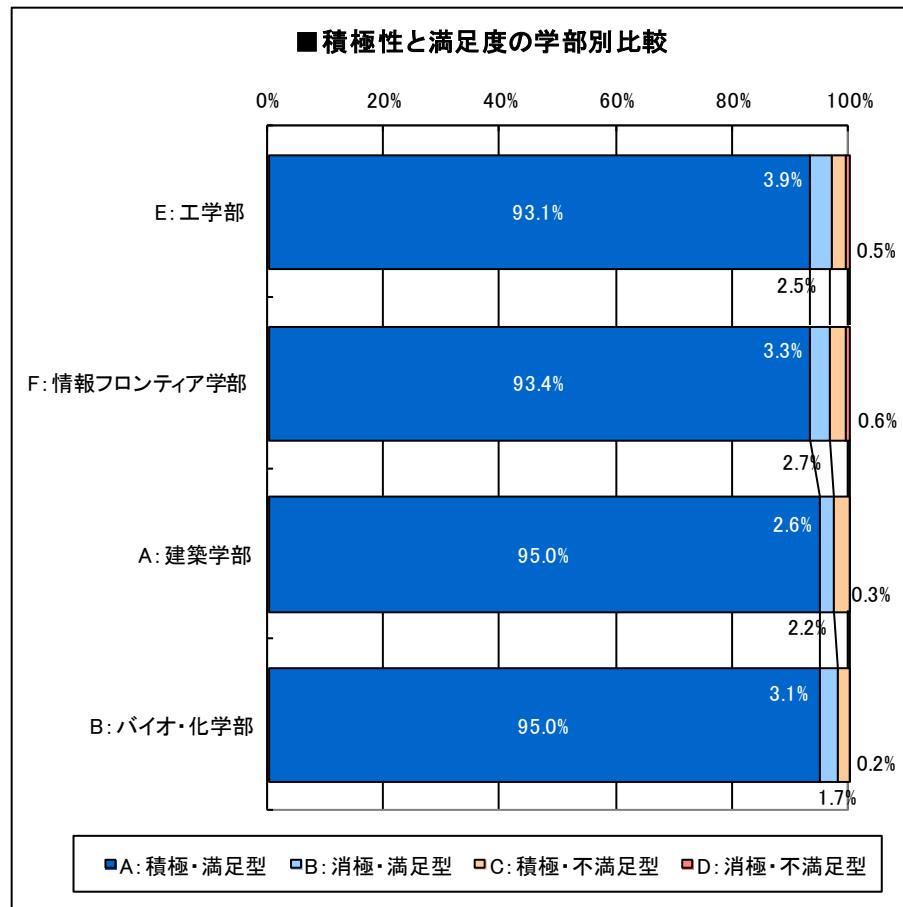
| 領域 | 割合 | 取り組み姿勢 | 略号 |
|----|-------|---|---------|
| A | 93.7% | ・授業に積極的で満足度も高い。 ・良い状態にある学生群であり、このグループが増えることが望ましい。 | 積極・満足型 |
| B | 3.5% | ・授業に積極的でないが満足度は高い。 ・教員の指導によって引っ張られているものと思われる。 ・積極性を持ってもらいたいが、無理強いをする必要まではないと思われる。 | 消極・満足型 |
| C | 2.4% | ・授業に積極的であるが満足度は低い。 ・頑張っているのに満足が得られないグループであり、注意が必要。 ・「期待はずれ」「ついていけない」といった理由が考えられる。 | 積極・不満足型 |
| D | 0.5% | ・授業に積極的ではなく満足度も低い。 ・最も大きな課題であり、学生自身の自主性もないものと思われる。 | 消極・不満足型 |

※上記グラフは「C:自分の熱意と努力」と「K:この科目的満足度」の1~4的回答を組み合わせ、全体を100%として各々の割合をプロットしている。

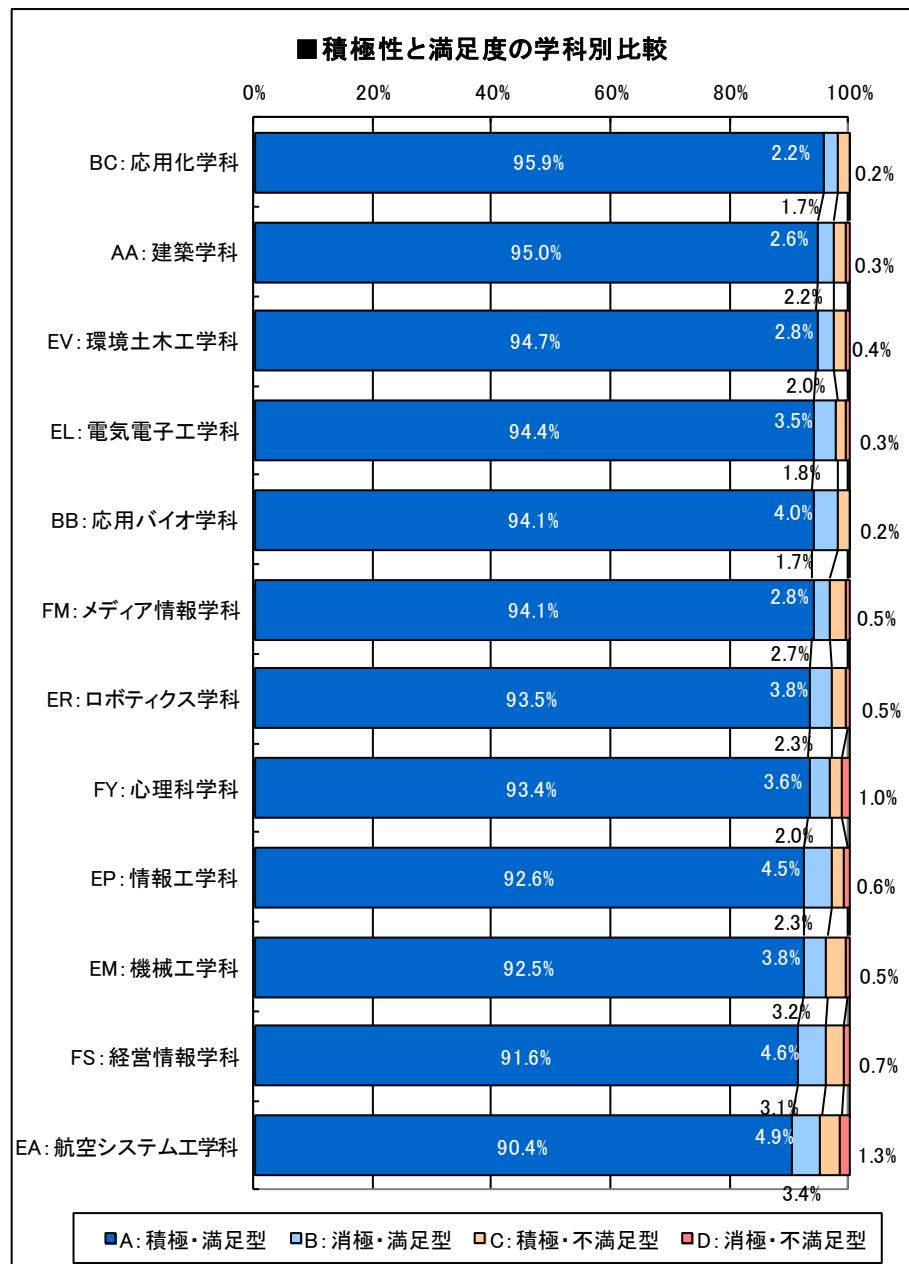
- 前項で見た4グループの経年変化を見ると、「A:積極・満足型」は93.7%で前回を1.0ポイント上回り、過去最高であったR3に次ぐ高さである。そして、「B:消極・満足型」は前回から0.4ポイント減少、「C:積極・不満足型」は0.4ポイント減少、「D:消極・不満足型」は0.1ポイント減少している。
- 「A:積極・満足型」の割合を学年別に比較すると、最も多いのは「1年次」の94.4%である。次いで「3年次」が93.7%、「2年次」が92.7%、「4年次」が91.1%で続いている。ただし、差は最大でも3.3ポイントとわずかであり、学年による相関関係は見られない。



- 「A:積極・満足型」の割合を学部別に比較すると、最も多いのは「A:建築学部」と「B:バイオ・化学部」の95.0%である。次いで「F:情報フロンティア学部」が93.4%、「E:工学部」が93.1%で続いており、差は最大でも1.9ポイントとわずかである。
- 他の3つのグループも学部による差はわずかであり、学部別に大きな差は見られない。



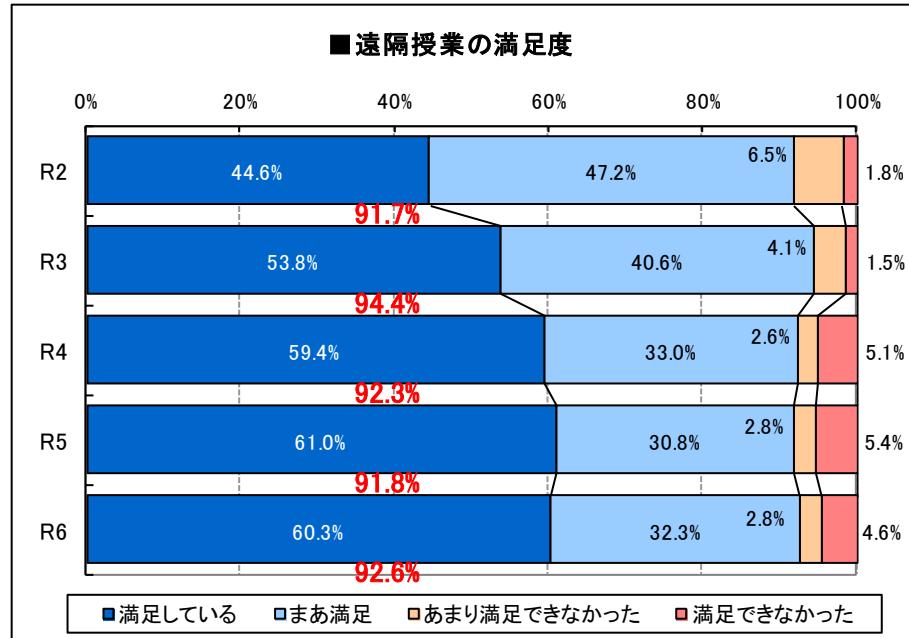
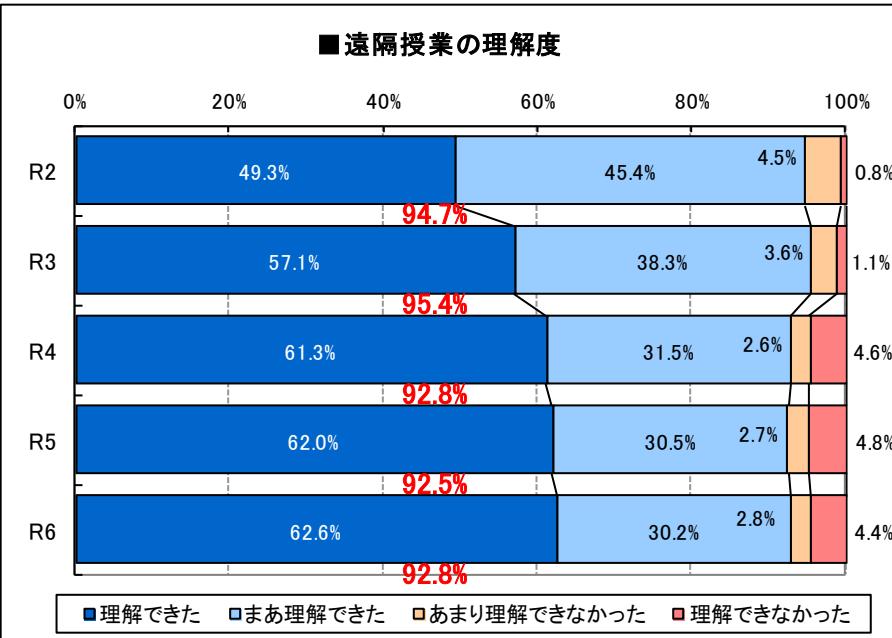
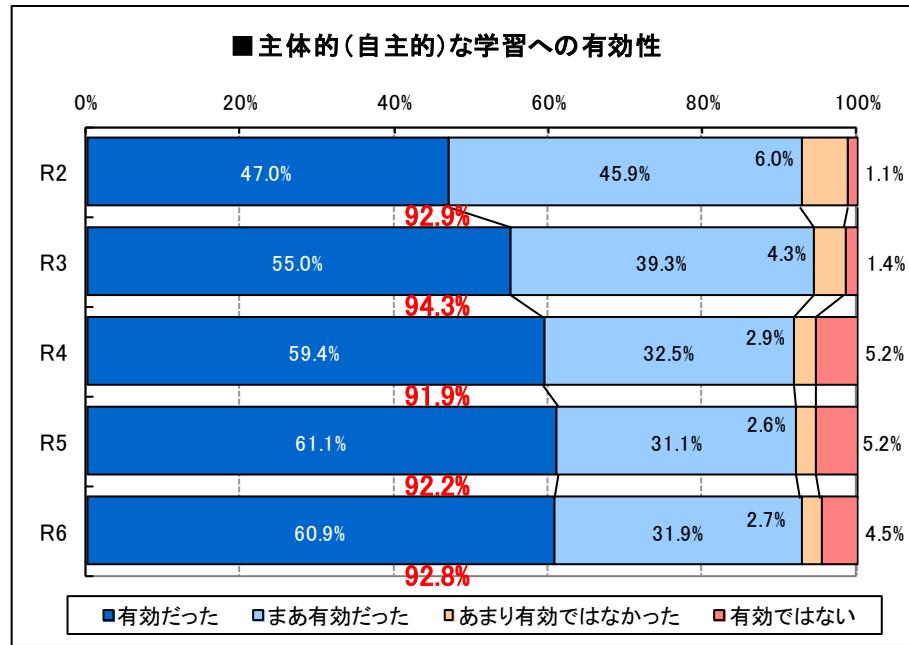
- 学科別のグラフは「A:積極・満足型」の割合でソートしているが、最も多かったのは「BC:応用化学科」の95.9%である。そして、「AA:建築学科」が95.0%、「EV:環境土木工学科」が94.7%で続いている。
- 一方、「A:積極・満足型」が最も少いのは、「EA:航空システム工学科」の90.4%であり、「FS:経営情報学科」が91.6%、「EM:機械工学科」が92.5%で続いている。
- 学科間の差は最大で5.5ポイントであり、学部別の比較よりも大きい。ただし、「A:積極・満足型」はすべての学科で9割を超えており、大きな問題はなさそうである。



<8>遠隔授業の評価の分析

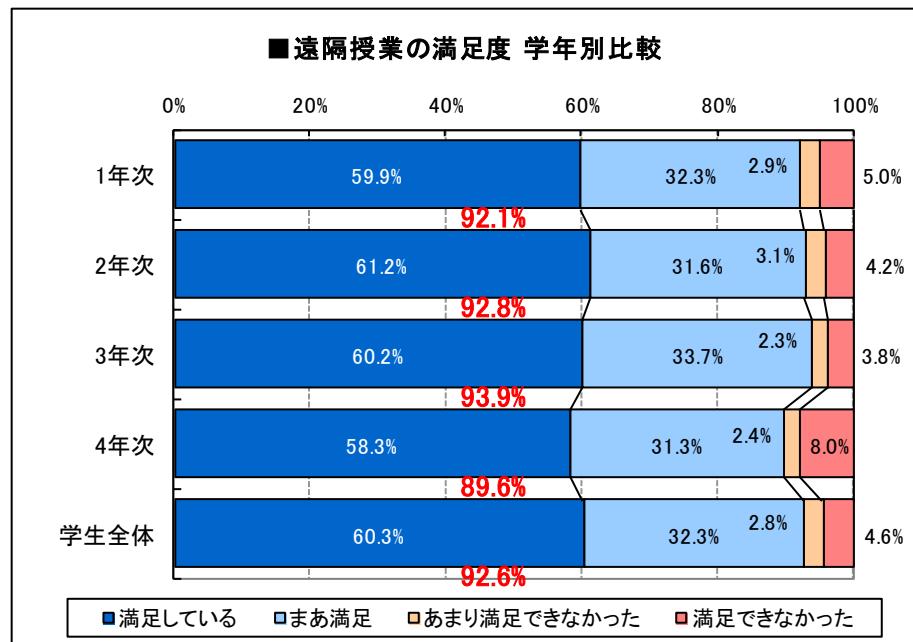
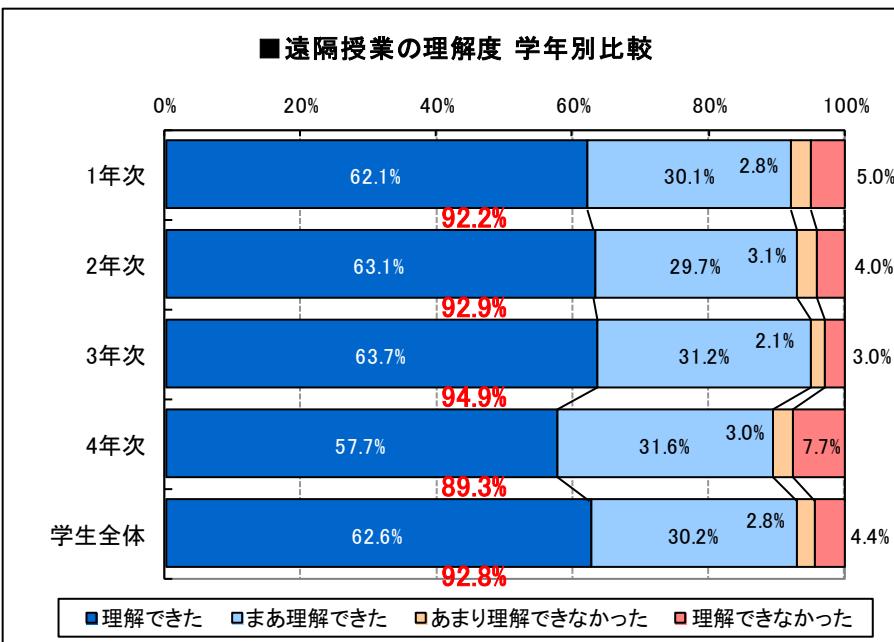
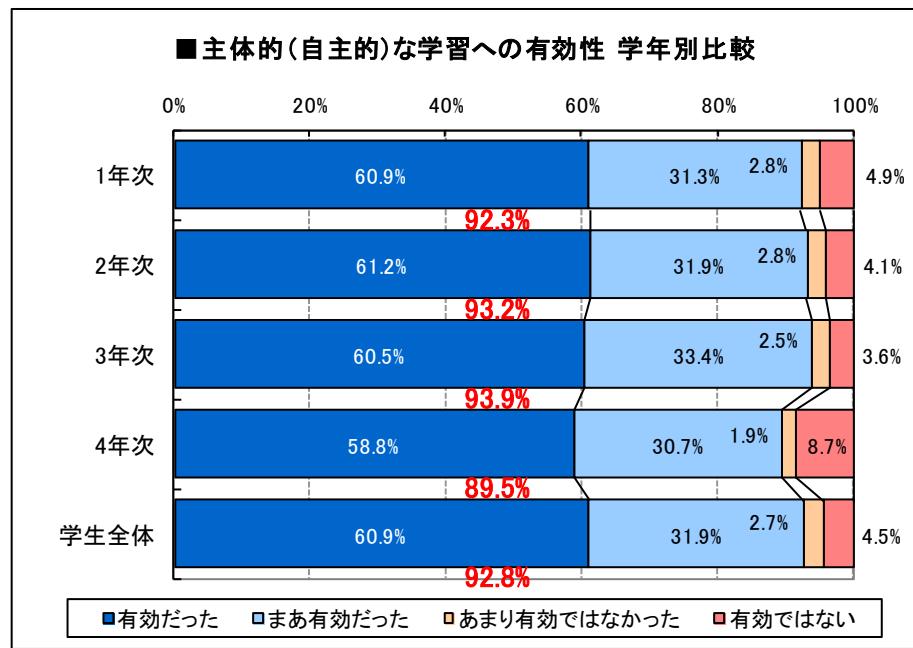
<8-1>遠隔授業の評価

- 「遠隔授業」の集計はR3までは「無回答」を含めていたが、遠隔授業減少のためか、R4以降は「無回答」が多くなったため、過去に遡って「無回答」を除外して経年変化を見ている。
- 「遠隔授業の理解度」の肯定的な意見は92.8%であり、前回を0.3ポイント上回っている。肯定的な意見はR3が過去最高となっているが、「理解できた」だけを見るとR2から増加が続いている、今回は過去最高の62.6%である。ただし、前回から減少したもののが4.4%が「理解できなかった」と答えており、この点にも注意する必要がある。
- 「主体的(自主的)な学習への有効性」の肯定的な意見は前回を0.6ポイント上回って92.8%と高い評価である。「有効だった」だけを見ると、前回を0.2ポイント下回ったものの、R4から横ばいが続いている。
- 「遠隔授業の満足度」の肯定的な意見は前回を0.8ポイント上回って92.6%である。「満足している」だけを見ると0.7ポイント減少して60.3%であり、横ばいが続いている。ただし、前回から減少したものの4.6%が「満足できなかった」と答えている。



<8-2>遠隔授業の学年別比較

- 「遠隔授業の理解度」の肯定的な意見を学年別に見ると、最も多いのは「3年次」の94.9%である。一方、最も少ないのは「4年次」の89.3%であり、「理解できた」も57.7%と少なさが目立っている。
- 「主体的(自主的)な学習への有効性」の肯定的な意見が最も多いのは「3年次」の93.9%であり、「2年次」「1年次」も似た評価である。一方、「4年次」は89.5%と低い評価であり、「有効ではない」が8.7%と多さが目立っている。
- 「遠隔授業の満足度」の肯定的な意見も「3年次」が93.9%と最も多く、「2年次」が92.8%、「1年次」が92.1%で続いている。そして、最も少ない「4年次」も89.6%と決して低い満足度ではないが、「満足できなかつた」が8.0%と1割に近く、やや気になる点と言える。

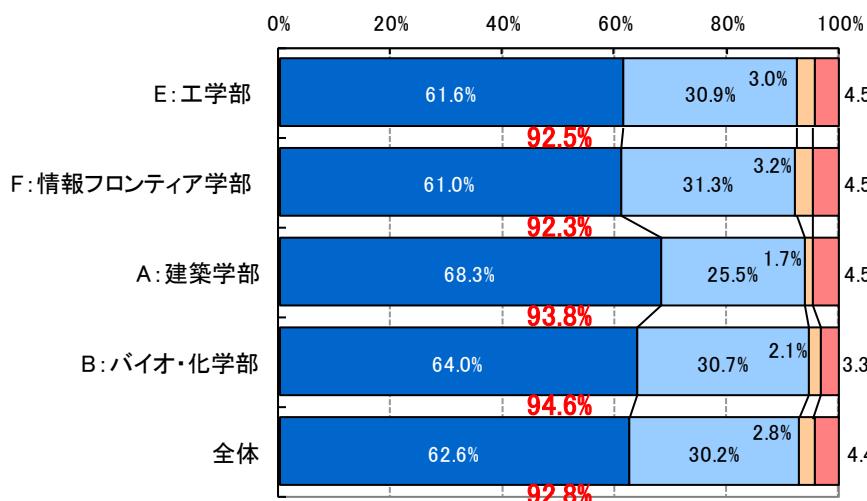


<8-3>遠隔授業の学部別比較

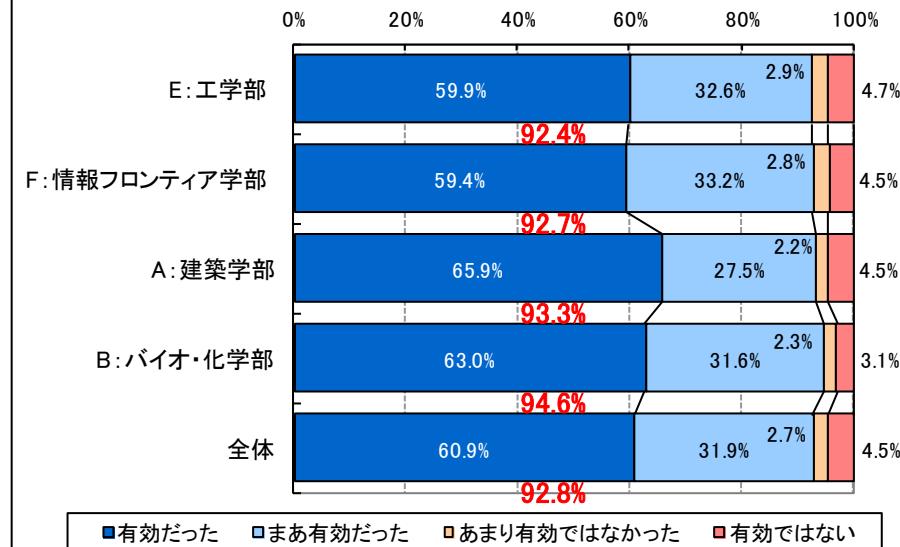
52

- 「遠隔授業の理解度」を学部別に見ると、最も多いのは「B:バイオ・化学部」の94.6%であり、「A:建築学部」が93.8%、「E:工学部」が92.5%、「F:情報フロンティア学部」が92.3%で続いており、学部間の差は最大でも2.3ポイントと小さく、いずれの学部でも高い評価である。そして、「理解できた」だけを見ると「A:建築学部」が68.3%と多さが目立っている。
- 「主体的(自主的)な学習への有効性」も「B:バイオ・化学部」の94.6%を筆頭として、差は最大で2.2ポイントと小さく、いずれの学部でも高い評価である。そして、「有効だった」は「A:建築学部」が65.9%で最も多い。
- 「遠隔授業の満足度」も「B:バイオ・化学部」が94.2%、「A:建築学部」が93.3%、「E:工学部」が92.4%、「F:情報フロンティア学部」が92.2%と、いずれも高い満足度であり、差は最大でも2.0ポイントと小さい。そして、「満足している」だけを見ると「A:建築学部」が65.0%が多いが、すべての学部でほぼ6割を超えており、遠隔授業には非常に強く満足しているようである。

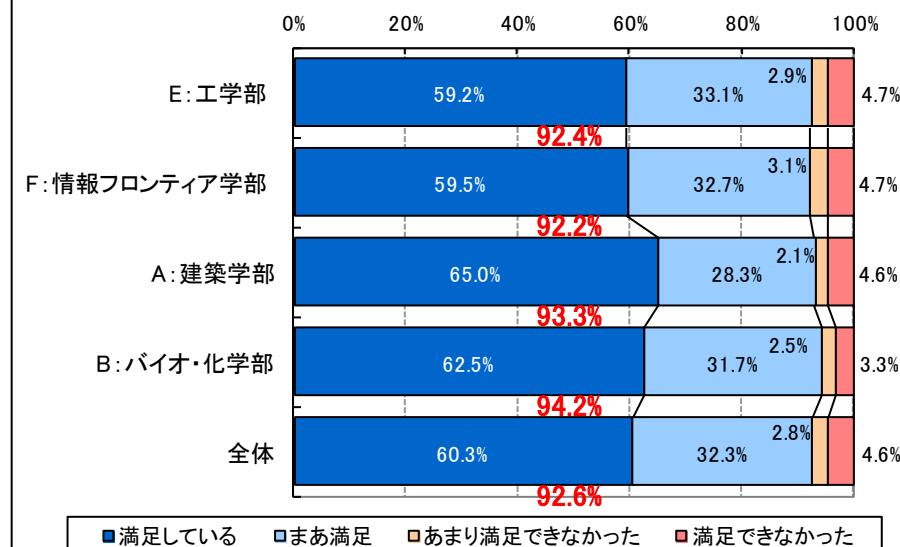
■遠隔授業の理解度 学部別比較



■主体的(自主的)な学習への有効性 学部別比較

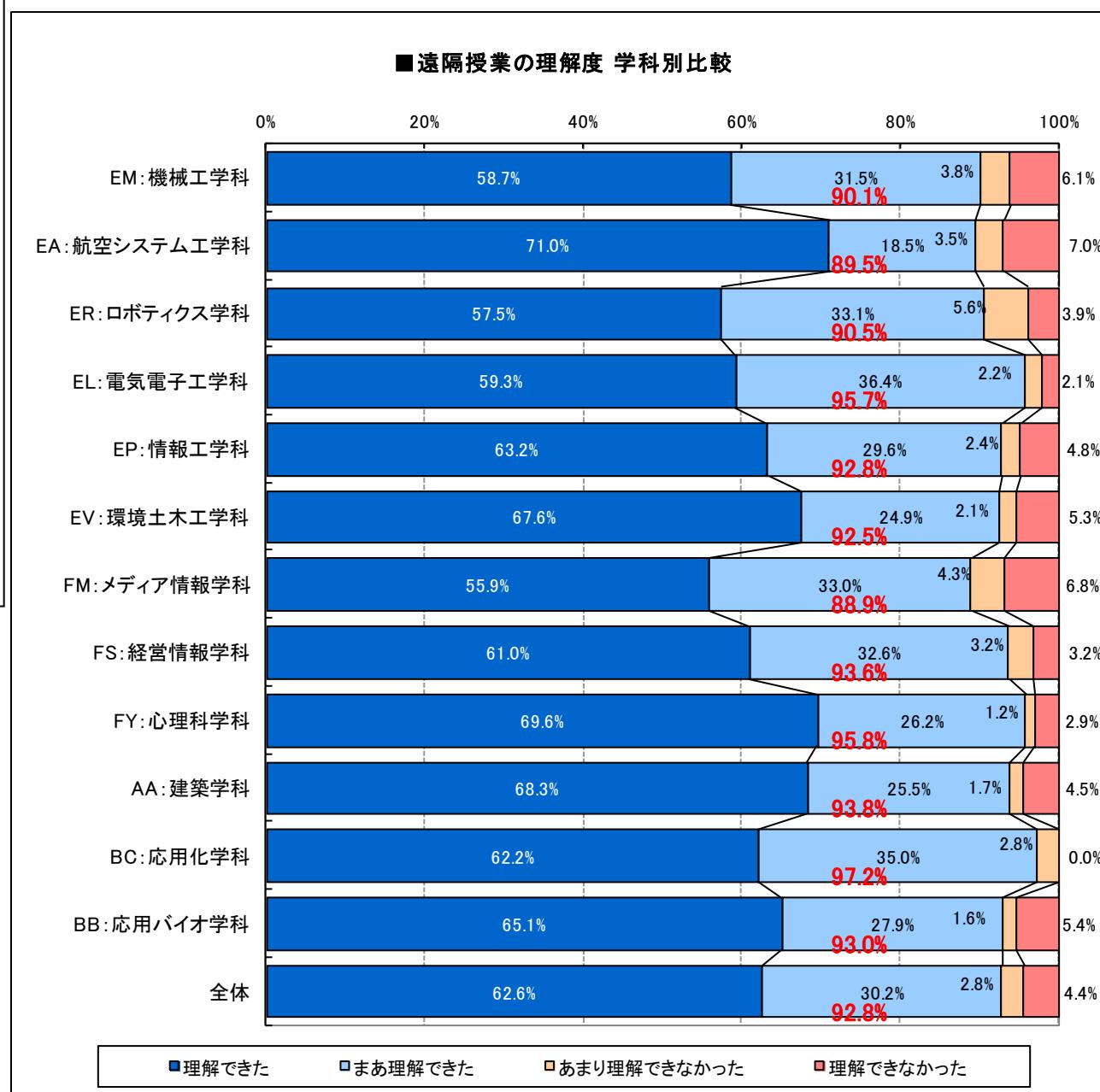


■遠隔授業の満足度 学部別比較

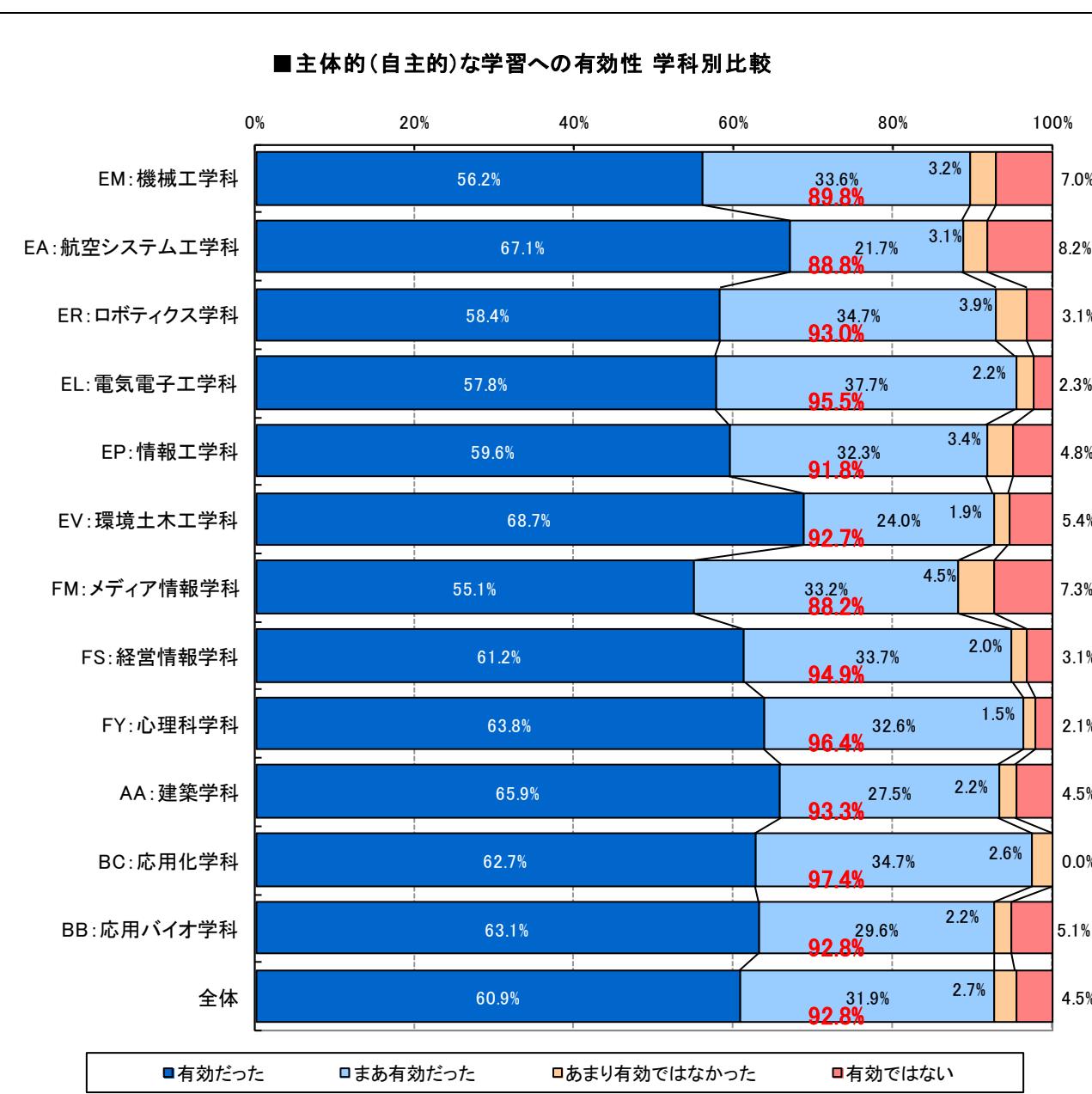


<8-4>遠隔授業の学科別比較

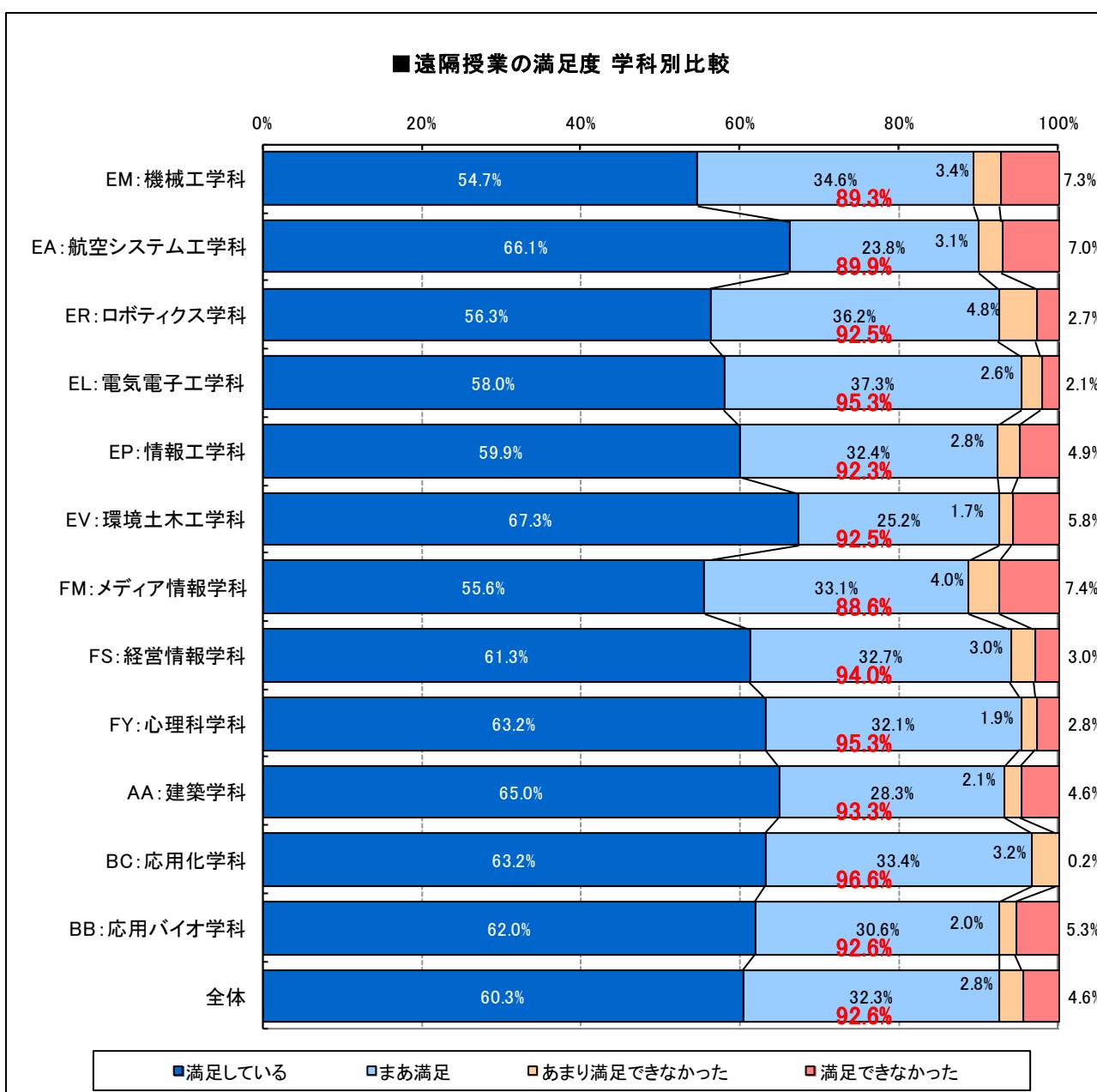
- 「遠隔授業の理解度」の肯定的な意見を学科別に比較すると、最も多いのは「BC:応用化学科」の97.2%であり、「理解できなかつた」は0.0%であった。次いで、「FY:心理科学科」が95.8%、「EL:電気電子工学科」が95.7%で続いている。
- 一方、肯定的な意見が最も少ないのは「FM:メディア情報学科」の88.9%であり、最も多い「BC:応用化学科」との差は8.3ポイントである。そして、「EA:航空システム工学科」が89.5%、「EM:機械工学科」が90.1%で続いている。
- 「理解できた」だけを見ると、「EA:航空システム工学科」が71.0%で、唯一7割を超えている。「EA:航空システム工学科」は肯定的な意見の合計は少ないものの、強く肯定する意見も多く、意見が分かれているようである。



- 「主体的(自主的)な学習への有効性」で肯定的な意見が最も多いのは「BC:応用化学科」の97.4%であり、「有効ではない」は0.0%である。次いで、「FY:心理科学科」が96.4%、「EL:電気電子工学科」が95.5%で続いている。
- 一方、肯定的な意見が最も少ないのは「FM:メディア情報学科」の88.2%であり、「EA:航空システム工学科」が88.8%、「EM:機械工学科」が89.8%で続いており、この3学科では肯定的な意見がわずかではあるが9割に満たない。
- 「有効だった」だけを見ると、「EV:環境土木工学科」が68.7%で最も多く、「EA:航空システム工学科」が67.1%で続いている。ここでも「EA:航空システム工学科」は特徴的な結果である。



- 「遠隔授業の満足度」で肯定的な意見が最も多いのは「BC:応用化学科」の96.6%であり、「満足できなかった」は0.2%である。次いで、「EL:電気電子工学科」と「FY:心理科学科」が95.3%で続いている。
- 一方、肯定的な意見が最も少ないのは「FM:メディア情報学科」の88.6%である。次いで、「EM:機械工学科」が89.3%、「EA:航空システム工学科」が89.9%であり、この3学科は満足度が9割に満たない。ただし、これらも十分に高い満足度と言って良いと思われる。
- 「満足している」だけを見ると、「EV:環境土木工学科」が67.3%、「EA:航空システム工学科」が66.1%、「AA:建築学科」が65.0%と高く、強く満足している学生が多い。



<9>全体のまとめ

今回の集計、分析から分かることは下記の通り。

【全体傾向で確認できる事】

授業の「満足度」は95.6%であり、強く満足している意見が60.8%と、非常に高い。「自分の熱意と努力」「教員の熱意」、他の授業の内容の評価も非常に高く、充実しているようである。

- ◆ 授業の前段階の項目の肯定的な意見は、「事前の興味」が78.1%、「事前の内容理解(学習支援計画書)」が93.4%である。
- ◆ 授業の内容に関する項目では「教科書・指導書の適切さ」が83.7%、「課題・レポートの適切さ」が95.4%、「学習支援計画書との一致」が97.7%、「授業の進度の適切さ」が94.5%、「学習相談の有効性」が95.0%であり、ほとんどが肯定的な意見である。
- ◆ 授業に対する学生の姿勢の肯定的な意見は、「自分の熱意と努力」が95.4%、「教員の熱意」が96.0%、「満足度」が95.6%であり、強く満足している意見が60.8%である。

【学年別比較で確認できる事】

「事前の興味」は「3年次」が高い。そして、「満足度」は全体的に高いが、高学年ほどわずかに低下する傾向が見られる。一方、学習時間は高学年ほど長い傾向が見られる。

- ◆ 「事前の興味」と「教科書・指導書の適切さ」で学年による差がやや大きく、「事前の興味」では「3年次」が高い点が特徴的である。
- ◆ 「満足度」はいずれの学年でも高く、差は小さいものの高学年ほど低下する傾向が見られる。その他の項目も差は小さいものの「1年次」で肯定的な意見が多く、「4年次」は「自分の熱意と努力」「教員の熱意」などが低い。
- ◆ 学習時間は「1年次」から「3年次」にかけて長くなる傾向が見られるが、「4年次」では「3時間以上」が最も多く、しっかりと学習時間を確保している層が多い。

【経年変化で確認できる事】

「教員の熱意」は過去最高となり、強く満足している意見をはじめとして、授業の内容に関しても強く肯定する意見が過去最高となってい。一方、学習時間はR3から継続的に短くなる傾向が続いている。

- ◆ 「教員の熱意」が過去最高の96.0%であり、「満足度」でも強く満足している意見が過去最高である。
- ◆ 授業の内容に関する項目の「教科書・指導書の適切さ」「課題・レポートの適切さ」「学習支援計画書との一致」「授業の進度の適切さ」「学習相談の有効性」の多くは横ばいであったが、強く肯定する意見はいずれも過去最高である。
- ◆ 「予習・復習、授業外学習(レポート、課題、等)」の学習時間を見ると、R3から「3時間以上」「2~3時間」「1~2時間」の合計の減少が続き、「学習は特にしなかった」の増加傾向が続いている。

【学部別・学科別比較で確認できる事】

学部による差は全体的に小さいが、肯定的な意見は「バイオ・化学部」で多く、「工学部」で少ない。そして、学習時間は「工学部」「建築学部」が長い。

- ◆ 「事前の興味」と「教科書・指導書の適切さ」で学部による差が少しあり、「事前の興味」では「情報フロンティア学部」がやや低い。
- ◆ 差は小さいものの、数値を見ると「バイオ・化学部」は10項目中の6項目で最も高く、「工学部」は7項目で最も低い。
- ◆ 学習時間は「工学部」が長いが、「建築学部」では「3時間以上」が多い。そして、「バイオ・化学部」がやや短いようである。
- ◆ 学部ごとに学科を見ると、「工学部」では「電気電子工学科」が6項目で最も高く、「情報フロンティア学部」では「メディア情報学科」が5項目で最も高い。そして、「バイオ・化学部」では「応用化学科」が9項目で最も高い。

【科目区分別比較で確認できる事】

「事前の興味」は「リベラルアーツ系科目」「専門科目」が高く、「修学基礎科目」「人間形成基礎科目」が低い。そして、「専門科目」と「基礎プロジェクト科目」では学習時間がしっかりと確保されている。

- ◆ 「事前の興味」は「リベラルアーツ系科目」「専門科目」が高く、「修学基礎科目」「人間形成基礎科目」が低く、興味の差が見られる。また、「教科書・指導書の適切さ」でも差が見られるが、「教科書・指導書はなかった」の違いが影響しているようである。
- ◆ 上記の2つの項目以外では科目区分による差はほとんど見られないが、数値を見ると「修学基礎科目」は5項目で最も高く、「人間形成基礎科目」は3項目で最も低い。
- ◆ 学習時間は「専門科目」と「基礎プロジェクト科目」が長く、しっかりと学習時間が確保されているようである。

【積極性と満足度の指標から確認できる事】

「積極・満足型」は過去2番目の93.7%で、R3から横ばいが続いている。「積極・満足型」が最も多いのは学年では「1年次」、学部では「建築学部」と「バイオ・化学部」、学科では「応用化学科」である。

- ◆ 「積極・満足型」は過去2番目の93.7%であり、過去最高であったR3から横ばいが続いている。そして内訳を見ると、「満足度」と「積極性」が共に高い学生が46.2%を占めている。
- ◆ 学年別では「積極・満足型」は「1年次」が94.4%と最も多く、「3年次」が93.7%、「2年次」が92.7%、「4年次」が91.1%で続いている。
- ◆ 学部別では「建築学部」と「バイオ・化学部」が95.0%で最も多く、最も少ないのは「工学部」の93.1%である。学科では「応用化学科」が95.9%、「建築学科」が95.0%、「環境土木工学科」が94.7%で続いているが、最も少ないのは、「航空システム工学科」の90.4%である。

【同一学生群で確認できる事】

最近の学生群は「4年次」の中だるみがなく、入学直後から4年間を通して高い意識を維持する傾向が見られる。ただし、入学直後の「事前の興味」はやや低下しているようである。

- ◆ 以前は4年間を通して低かったり、「4年次」で中だるみするような学生群が見られるが、最近では4年間を通して「事前の興味」「熱意と努力」「教員の熱意」「満足度」が高いまま卒業に至るケースが増えており、学生生活の意識が変わっているように思われる。
- ◆ 特にここ数年の学生群は、「1年次」から「熱意と努力」「教員の熱意」「満足度」が非常に高くなっている。一方、「事前の興味」では、「R2卒業生」など数年前までの学生群は入学直後から非常に高いが、ここ数年の学生はそれほど高くないという傾向が見られる。

【遠隔授業の評価で確認できる事】

遠隔授業の「理解度」「主体的な学習への有効性」「満足度」の肯定的な意見は前回を上回り、継続して9割を超えており。一方で強く否定する意見が約5%であり、この点には注意する必要がある。

- ◆ 遠隔授業に対する肯定的な意見の合計は、「主体的(自主的)な学習への有効性」「遠隔授業の理解度」「満足度」共に9割を超えており、前回を上回ったもののほぼ横ばいである。「理解度」では「理解できた」が過去最高である。ただし、3指標共に強く否定する意見が約5%である。
- ◆ 学年別では3指標共に「4年次」で低さが目立っており、差は少ないものの「3年次」が最も高い。
- ◆ 学部別では3指標共に「バイオ・化学部」が最も高い評価であったが、強く肯定する意見は「建築学部」が最も多い。そして、学科では「応用化学科」「心理科学科」「電気電子工学科」が高く、強く肯定する意見は「航空システム工学科」と「環境土木工学科」が多い。

ここまで分析から分かることをまとめると下記のようになる。

- 授業の「満足度」は95.6%であり、強く満足している意見が60.8%と、非常に高い。「自分の熱意と努力」「教員の熱意」、他の授業の内容の評価も非常に高く、充実しているようである。
- 「教員の熱意」は過去最高となり、強く満足している意見をはじめとして、授業の内容に関しても強く肯定する意見が過去最高となっている。一方、学習時間はR3から継続的に短くなる傾向が続いている。
- 「事前の興味」は「3年次」が高い。そして、「満足度」は全体的に高いが、高学年ほどわずかに低下する傾向が見られる。一方、学習時間は高学年ほど長い傾向が見られる。
- 学部による差は全体的に小さいが、肯定的な意見は「バイオ・化学部」で多く、「工学部」で少ない。そして、学習時間は「工学部」「建築学部」が長い。
- 「事前の興味」は「リベラルアーツ系科目」「専門科目」が高く、「修学基礎科目」「人間形成基礎科目」が低い。そして、「専門科目」と「基礎プロジェクト科目」では学習時間がしっかりと確保されている。
- 最近の学生群は「4年次」の中だるみがなく、入学直後から4年間を通して高い意識を維持する傾向が見られる。ただし、入学直後の「事前の興味」はやや低下しているようである。
- 「積極・満足型」は過去2番目の93.7%で、R3から横ばいが続いている。「積極・満足型」が最も多いのは学年では「1年次」、学部では「建築学部」と「バイオ・化学部」、学科では「応用化学科」である。
- 遠隔授業の「理解度」「主体的な学習への有効性」「満足度」の肯定的な意見は前回を上回り、継続して9割を超えていく。一方で強く否定する意見が約5%であり、この点には注意する必要がある。



- ❖ 「満足度」は95.6%と非常に高く、「教員の熱意」は過去最高である。また、授業の内容に関しても、多くの項目で強く肯定する意見が過去最高であり、授業は全体的に充実しており、大きな問題はなさそうであった。科目区分で比較すると、興味の強弱の差が見られるが、この差はどのような要因によるのかに関しては探求する価値があるのではないかと思われる。
- ❖ 最近の学生群は入学直後から中だるみがなく、4年間を通して高い意識を維持しており、入学前教育の効果が出ているとも考えられる。ただし、「事前の興味」は低下しており、授業に「新鮮味」を失っている可能性もあり、検証が必要と思われる。
- ❖ 「積極・満足型」の学生はR3から横ばいが続いているが、今回は過去2番目の93.7%であり、大きな問題はなさそうである。
- ❖ 遠隔授業は「理解度」「有効性」「満足度」いずれも9割以上が肯定的な意見で、非常に高い評価であった。一方で強く否定する意見が約5%であり、この点には注意する必要がある。